

裏
面

警察官若クハ相當官ニ於テ此證票ノ檢査ヲ請求スルトキハ
示スヘシ

▲附

狩獵法及狩獵免狀雜形

▲法律第二十號 明治二十八年三月二十日

狩獵法

第一章 獵具獵法

第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、竊繩又ハ狹ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ云フ
前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル處ニ依ル
第二條 爆發物持統者ハ危險ナル民及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下做之)ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜
取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家ノ稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ處アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃
獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地
- 七 欄、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此限
ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ

但シ欄、柵、圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一ケ年ヲ經過セザレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ
得

但シ其出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲スモノニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

在留外國人ノ狩獵ニ關スル取扱方

所得稅十五圓以上者クハ
 一等 地租二百圓以上納ムル者
 二等 所得稅三圓以上若クハ地租四十圓以上
 納ムル者又ハ一等ニ相當ナル者ノ家族
 三等 一等二等以外ノ者

甲種金 五圓
 乙種金 十圓
 甲種金 一圓五十錢
 乙種金 三圓
 甲種金 五十錢
 乙種金 一圓

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一ケ年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス
 地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

第十一條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス
 祖助手ヲ要スル獵法ニアラズテハ免狀ヲ有セサル者ヲ同伴スルコトヲ得
 第十二條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ
 警察官、憲兵、森林官及市町村長獵者ノ免狀ヲ檢査スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ヲ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及ヒ當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ
 免狀ヲ亡失シ若クハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十四條 十六歳未満ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス
 第十五條 免狀ハ其効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條 遊歩規程ヲ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受クル者ハ甲種金五圓乙種金十圓ノ免許稅ヲ納メ其規程内ニ限り狩獵スルコトヲ得若シ其規程外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効ノモノトス

第三章 鳥獸保護

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス

但捕獲ノ禁止又ハ停止ノ以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以内ニ於テ販賣スルハ此限ニアラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖モ農商務大臣ノ定ムル處ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ノ卵又ハ雛ヲ取リ若クハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第十九條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖モ學術研究其他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其許可ヲ與フルコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲メ必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章 罰則

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ受ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第

九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其効力ヲ失フモノトス

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條 第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

附則

第二十四條 狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其免許期限間効力ヲ有スルモノトス

第二十五條 此ノ法律施行以前免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引續キ狩獵ヲ爲スコトヲ得

▲農商務省告示第五號 明治二十八年四月二日

本年法律第二十號狩獵法第六條狩獵免狀ノ離形及本年當省令第四號狩獵法施行細則第八條第十條共同狩獵地出願書式及圖面離形左ノ通相定ム

在留外國人ノ狩獵ニ關スル取扱方

在留外國人ノ狩獵ニ關スル取扱方

表
川下く

狩獵免 許之證 豐商務省	狩獵免狀 等一種(乙)甲				
	年齡	氏名	職業	住所	本籍
明治年月日					番號 第 號

五寸五分
花黑紋

二等免狀雛形

(紙地綠色)

裏
川下く

狩獵法摘要

五寸五分

表
川下く

狩獵免 許之證 豐商務省	狩獵免狀 等一種(乙)甲				
	年齡	氏名	職業	住所	本籍
明治年月日					番號 第 號

五寸五分
花紋赤

一等免狀雛形

(紙地白色)

裏
川下く

狩獵法摘要

五寸五分

三等免狀雛形

(紙地淺黃色)

五寸五分

花紋黑

表
川下
狩獵免狀
等一種(乙)甲

許之證	狩獵免狀	豐商務省
明治年月日	年齡	氏名
	職業	住所
	本籍	番號
		第 號

(以下書式省略)

五寸五分

裏
川下
狩獵法摘要

狩獵法施行細則

▲農商務省令第四號

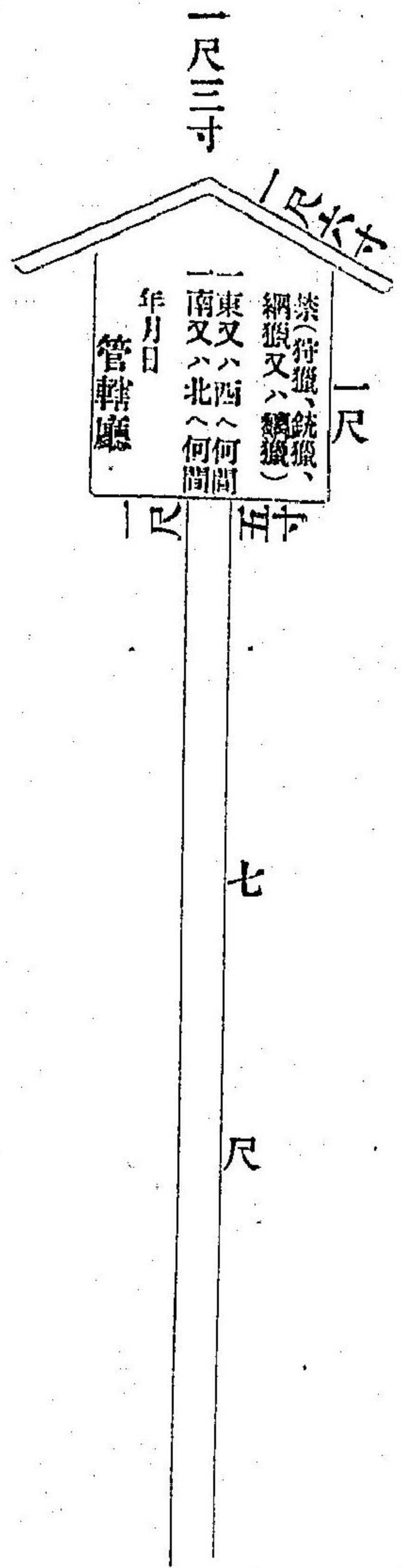
明治二十八年三月二十七日

狩獵法施行細則左ノ通相定ム

狩獵法施行細則

- 第一條 狩獵法第一條ニ掲グル各種ノ網トハ罾、投網、霞網其他ノ張網トシ、罾繩ハ流シ網、張網繩トシ又篋ハ高篋、千本換トス
- 第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ
- 第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ
- 前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ
- 第五條 狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ依リ)ニ又其移轉ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ届出ツヘシ
- 第六條 禁獵制札建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ
- 但該建設費ハ出願者ノ負擔トス
- 第七條 地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ

在外外國人ノ狩獵ニ關スル取扱方



第八條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

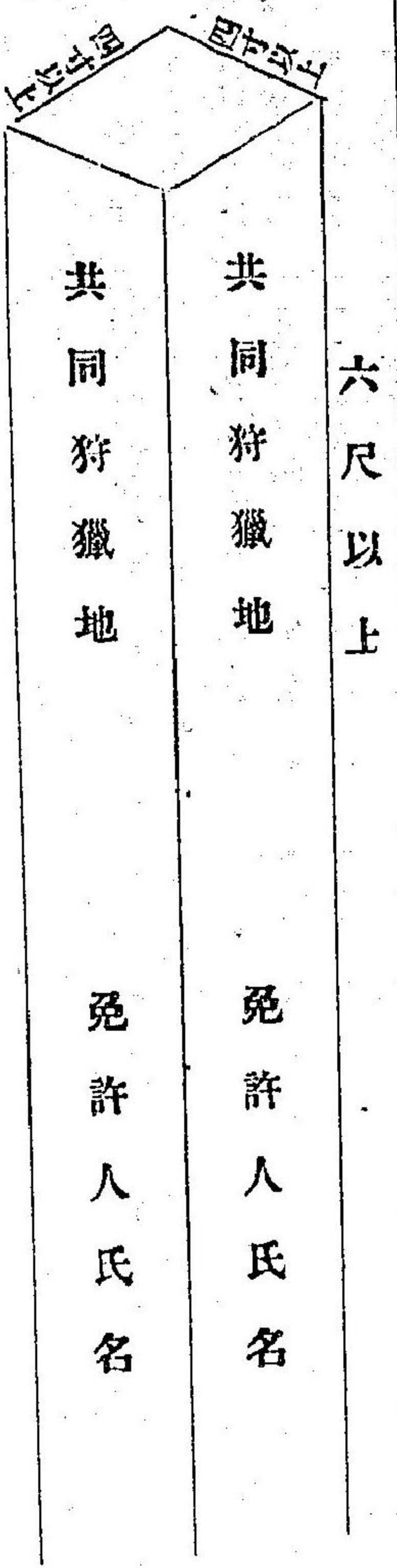
第九條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有二屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願書ヲ提出テ使用ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ

第十條 共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更ノ區分ヲ明記シタル圖面ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

共同狩獵地ヲ廢シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ左ノ離形ニ據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察官署ニ届出ツヘシ



第十二條 公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免許人第十一條ノ制限ニ從ハサルトキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シ免許ヲ取消ス可トアルヘシ

第十三條 第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ獵區ニモ適用ス

第十四條 左ニ掲ケル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス
 一 鶉 (岩燕ヲ除ク) 一 小雀 一 日雀 一 四十雀 一 五十雀 一 柄長 一 鷓鴣 一 杜鵑 一 郭公 一 三光鳥

第十五條 左ニ掲ケル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス
 一 雉 一 鷓鴣

第十六條 左ニ掲ケル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日迄捕獲スルコトヲ停止ス
 一 鶉 一 椋鳥 一 鶉 一 鶉 一 鶉 一 小啄木 一 雷鳥 一 松鷲 一 鳩(鴉ヲ除ク)

第十七條 札幌ハ十月一日ヨリ七月十五日迄札幌ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

第十八條 北海道ニ於テハ第十七條ノ保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條 營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

在留外國人ノ狩獵ニ關スル取扱方

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
第二十條 保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

(參照)

●農商務省丙第百十九號

當省令第四號狩獵法施行細則第十四條ニ掲ケル總稱シタル義ニ有之候得共(コウツル)ハ右ノ内ニ包含セサル義ニ有之候間右様御了承相成度大臣ノ命ニ依リ此段本官ヨリ及御通牒置候也

狩獵法取扱手續

▲農商務省訓令第四號 明治二十八年三月二十七日

警視廳

北海道廳府縣(東京府ヲ除ク)

狩獵法取扱手續左ノ通相定ム

狩獵法取扱手續

第一條 狩獵法第十九條第一項ニ據リ鳥獸ノ捕獲ヲ許可セントスルトキハ豫メ其捕獲スヘキ鳥獸ノ種類員數及捕獲期限ヲ定ムヘシ
同條第二項ニ據リ有害鳥獸ノ驅除ヲ出願スル者アルトキハ被害ノ狀況ヲ調査シ必要ト認メタル場合ニ限リ驅除期限及區域ヲ定メ之ヲ許可スヘシ

本條第一項ノ捕獲許可ノ期限ハ三週日以内トス

第二條 第一條ニ據リ鳥獸捕獲又ハ驅除ヲ許可スルトキハ期限ヲ定メ其鳥獸ノ名稱及員數ヲ報告セシムヘシ

前項ノ報告ハ毎月十五日マテニ前月分ヲ取纏メ第一號表第二號表ノ區別ニ從ヒ本大臣ニ差出スヘシ

第三條 免狀ハ毎年使用高ヲ概算シ其年七月三十一日限リ本大臣ニ請求スヘシ

第四條 免狀原簿ヲ備置キ免狀下付ノ際之ニ其番號獵者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ登錄スヘシ

第五條 免狀ニハ獵者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ記入シ廳印ヲ捺捺スヘシ

第六條 免狀ヲ亡失シタル者アルトキハ其種類番號及亡失者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ官報又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
第七條 獵者ヨリ免狀ヲ返納シタルトキ及概算ヲ以テ領收シタル免狀ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ斷裁スヘシ
第八條 免狀統計表ハ第三號表式ニ據リ調製シ毎年甲種ハ十二月十五日迄乙種ハ五月十五日迄ニ本大臣ニ報告スヘシ

第一號表式		第二號表式	
鳥獸名	雌	雄	牝
鳥獸名	雌	雄	牝
數			
被害ノ狀況			
郡			
村			
氏			
名			
備考	學術研究其他ノ理由ニ因リ其地方ニ於テ捕獲云々		
有害鳥獸驅除表	自明治何年何月何日 至同 年何月何日 應府縣名		
鳥獸名	數	被害ノ狀況	郡 村 氏 名

在留外國人ノ狩獵ニ關スル取扱方

式表		第三號表				式表	
備考	種目	明治何年度狩獵用(乙)種免狀統計表			廳府縣名	計	
		一	二	三			
	免狀受取高						
	免狀下付高						
	免許稅						
	免狀再渡高						
	免狀再渡手数料						
	狩獵禁止地名	新設地名	解除地名	何々	何々		

官林内ニ於ケル有害鳥獸驅除及其報告方
 ▲農商務省訓令第七號 明治二十八年四月二十二日

所轄官林内ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムル場合ハ本年法律第二十號狩獵法第十九條第二項及本年當省訓令第四號狩獵法取扱手續第一條第二項ニ準據シ地方廳ノ承認ヲ得タル上部下ノ吏員ヲシテ驅除方實施セシメ其驅除シタル鳥獸ノ名稱及員數ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ取纏メ地方廳ニ報告スル儀ト心得ヘシ

大林區署

第五章 銃砲

銃砲取締ニ關スル願届手續

○縣令第三十八號 明治二十一年三月三十日

銃砲取締ニ關スル願届手續左ノ通相定ム

銃砲取締ニ關スル願届手續

第一條 免許銃(獵射的銃ノ類)製造ノ營業ヲ爲サントスルモノハ和洋銃ノ區別ヲ明記シ戶長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ヲ經テ當廳ヘ願出ヘシ

但廢業ノ時ハ本文ニ準シ速ニ届出ヘシ

第二條 銃砲所有者改氏名轉居讓渡(所轄署同一ノ場合)其他身上ノ異動アリタルトキハ其旨速ニ所轄警察署ヘ届出ヘシ

銃砲取締ニ關スル願届手續

明治二十二年四月十四日
 第六號令
 第十四條中
 第二條中
 下ノ七字ヲ
 ナノ下ヘテ
 入ス

第三條 軍用銃ヲ廢毀セントスルトキハ其旨速ニ所轄警察署へ届出消印ヲ受ケ免許銃ニ係ルトキハ同署へ届出ヘシ

第四條 軍用銃ヲ買入又ハ讓受ントスルトキハ其銃名又ハ玉目若クハ買入及讓受先キ等ヲ詳記シ所轄警察署へ願出ヘシ尤モ讓受願書ニハ讓渡人ノ連署ヲ要ス

但刻印ナキ銃ヲ買入タルトキハ其銃ヲ警察署へ差出シ刻印ヲ受クヘシ
第五條 免許銃ヲ買入又ハ讓受タルトキハ其銃名又ハ玉目若クハ讓受先キ等ヲ詳記シ速ニ所轄警察署へ届出ヘシ

銃砲取締ニ關スル取扱手續

○廳達第三十二號 明治二十一年三月三十日

警察本部 警察署 警察分署

銃砲取締ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム

銃砲取締ニ關スル取扱手續

第一條 免許銃製造ノ營業願ヲ警察署へ差出シタルトキハ左ノ事項ヲ取調ヘ意見書ヲ付シ警察本部へ差出スヘシ

- 一 平素ノ行狀
- 二 銃砲製造法及使用方法等ヲ心得居ルヤ否ヤ

三 未丁年又ハ白痴癡癡等ノモノニアラサルヤ否ヤ

第二條 警察署ニ於テハ豫テ銃砲所有者ノ根帳ヲ備ヘ置クヘシ尤モ根帳ハ見出シ易キ爲メ苗字ヲ「イロハ」分ケト爲シ各其部ニ記入スヘシ

第三條 銃砲ノ買入讓渡又ハ銃砲所有者ヨリ改氏名轉居其他身上ノ異動等ノ願届ヲ差出シタルトキハ其時々根帳へ記入スヘシ

第四條 銃砲廢毀ノ届出アリタルトキハ其旨ヲ根帳へ記入スヘシ尤モ軍用銃ニ係ルトキハ刻印ヲ消スヘシ

第五條 軍用銃買入レノ免手形願を差出シタルトキハ速ニ下付スヘシ又讓受願ヲ差出シタルトキハ事由ヲ調ヘ指令ヲ爲スヘシ

第六條 根帳用紙免手形ノ書式刻印ハ左ノ例ニ從フヘシ
但根帳ハ軍用銃ト獵銃ト各別ニ製スヘシ

根帳用紙美濃紙

考 備	明 治 年 月 第	國 郡 村 町 番 地
	玉 目	
	挺	主 持

(免手形書式) 用紙西ノ内六ツ切

免手形	住所族籍
一何銃(刻印アルハ其番號)	氏名
何挺	何挺
一何々	何
右ハ何所免許商人氏名ヨリ買入差許ス	署印
年月日	

(刻印例)

明治何年(何)一二三四五

奈良縣

一年ノ下ニ各署地名ノ頭字ヲ用ニ仮令ハ奈良署ナラハ(奈)ノ字ヲ刻ス
一刻印ノ文字ハ凡テ方一分トシ縣印ハ長サ四分トス

軍用銃檢印ノ件

○訓第十三號 明治二十二年三月二十九日

軍用銃檢印ノ義ニ付左記ノ通り内務書記官ヨリ通牒有之候條此旨心得ラルヘシ

崎甲第二十九號 明治二十二年三月二十五日

軍用銃檢印ノ義ニ付長崎縣ヨリ別紙寫ノ通牒出ニ對シ指令相成候條此段及御通牒候也

(別紙)

長崎縣明治二十二年 同全 年指令
三月五日 三月二十三日

軍用ノ内短銃ノ如キハ種々裝飾等有之カ爲メ銃床ニ檢印シ或ハ番號ヲ記載セル鑑札ヲ下付シ檢印ニ換
へ不苦趣豫テ伺指令モ相見へ申候處近來當縣下ニ於テ射的用ノ爲メ村田銃其他新規ノ銃砲購入シ檢印
願出候向モ有之右ハ概テ銃身美麗ニシテ之ニ番號ヲ彫刻セントスルモ精巧ナル職工モ無之爲メニ該銃
ノ照尺ニ異動ヲ起シ價額ニ影響候様ノ恐レモ有之且取締上別ニ不都合無之候條右等ハ適宜銃床ニ番號
等ヲ彫刻候様致度此段相伺候也

指令

伺之通

威銃取締規則

○縣令第三十四號 明治二十一年三月二十二日

軍用銃檢印ノ件

威銃取締規則

威銃取締規則別紙ノ通相定ム

(別紙)

威銃取締規則

- 第一條 山林田畑等ニ於テ鳥獸ノ害ヲ除去スル爲メ威銃ヲ使用セントスル者ハ其事狀ヲ詳悉シタル書面ニ銃名ヲ記シ且ツ期限ヲ定メ圖面ヲ副ヘ局長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ出願免狀ヲ受クヘシ
- 第二條 左ニ列記シタル者ハ免狀ヲ付與セス
 - 一 十六歳未滿ノ者及銃砲使用方ヲ知ラサル者
 - 二 瘋癲白痴者及眼力不充分ナル者
- 第三條 免狀ノ効ハ之ニ記載シタル期限ニ止ルモノトス
但滿期ニ至レハ免狀ヲ返納スヘシ
- 第四條 威銃ハ和洋製ヲ問ハス使用スルヲ得ルト雖モ實丸ヲ用ユルヲ許サス
- 第五條 威銃使用中ハ必ス免狀携帯スヘシ若シ警察官吏ニ於テ検査ヲ要スルトキハ直チニ點檢ヲ受クヘシ
- 第六條 免狀ハ貸借買賣讓受渡スルヲ許サス
- 第七條 免狀ヲ毀失シタルトキハ速ニ届出更ニ免狀ヲ受クヘシ
- 第八條 本則第一條第四條第五條第六條ニ違犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ料料ニ處ス

明治二十一年
四月十四日
訓令第一
號但第
六十四號
ニ以テ免
狀ニ係ル
事項免

威銃事務取扱手續

○廳達第二十九號 明治二十一年三月二十三日

警察本部 警察署 警察分署

威銃事務取扱手續別紙ノ通相定ム

(別紙)

威銃事務取扱手續

- 第一項 (刪除) 威銃事務取扱手續
- 第二項 (刪除) 威銃免狀ハ雛形ニ從ヒ警察署ニ於テ調製スヘシ
- 第三項 (刪除) 威銃免狀ヲ願出タルトキハ規則ニ照ラシ其事狀ヲ審査シテ不都合ナキトキハ免狀ヲ下付スヘシ
- 第四項 免狀ノ毀失等ヲ届出タルトキハ其事由ヲ取調更ニ免狀ヲ下付シ其旨臺帳ニ記入スヘシ轉居又ハ改氏名等ニ依リ免狀ノ書換ヲ請フ者亦之ニ準ス
- 第五項 (刪除) 威銃免許臺帳各一冊ヲ製シ免許人ノ屬籍住所氏名年齢用銃ノ種類玉目免許ノ年月日及其期限等ヲ詳記スヘシ
- 第六項 (刪除)
- 第七項 (刪除)
- 第八項 (刪除)
- 第九項 威銃免狀ノ様式ハ左ノ如シ

寸方長四寸

何警第何號

威銃免許之證

明治何年何月何日

署印

期限	年齡	氏名	住所	族籍

巾 二 寸 表

裏

▲附

銃砲取締規則及罰則

▲布告第二十八號 明治五年正月二十九日

銃砲取締規則別紙ノ通被定候條來ル四月ヨリ規則ノ通可相守事

(別紙)

銃砲取締規則

第一則 大小銃「并彈藥」類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷有定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精辨ノ上免許狀可差遣事
但東京大阪ノ儀ハ「武庫司」ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

- 一府下 各五員
- 一縣下 各三員
- 一鎮臺本分營下 各一員
- 一開港場 各五員
- 一府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京「武庫司」ヘ届クヘキ事

第二則 免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ貯ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大阪ノ儀ハ「武庫司」ヘ願出專

免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃「并ニ其彈藥」類ヲ買入レントスルトキハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事(十三年第八號布告ヲ以テ本項追加)

第三則 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳ヘ可差出其願ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄「鎮臺」ヘ差送可申事

明治十七年三月十一日
十一月十七日
火藥取締規則
大砲取締規則
銃砲取締規則
ハ總テ消滅ス

威銃事務取扱手續

但「諸鎮臺」ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京「武庫司」ヘ差送可申尤東京大阪ノ儀ハ「武庫司」ニ於テ取締可致事
第四則 「彈藥」ノ儀ハ假令些少ノ品ヲリトモ唯便利ノミナ計リ勝手ノ場所ヘ差置間數兼テ其地方管廳ヘ願出差圖ヲ受相圖可申事
「但東京大阪ノ儀ハ「武庫司」ヘ願出ヘキ事」

第五則 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲ニ并彈藥「類」ハストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持
致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出（東京大阪ハ「武庫司」ヘ持出）別紙銃砲改刻印式ノ通り番號官印ヲ受ケ可申他人ヘ譲リ與ヘ候節
ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ
「但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ」

銃砲改刻印ノ式

千支何番 「武庫司」或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管廳「鎮臺」ヘ届出「鎮臺」ヨリ東京「武庫司」ヘ差送リ可申事

免許ノ銃類

一和銃四支目八分玉以下

一各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ發彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳ヘ届出其應ヨリ東京「武庫司」ヘ差出可申（東京大阪ハ所持ノ者ヨリ直ニ「武庫
司」ヘ届出ヘシ）萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官ヘ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ據ヘ可相渡事

第六則 （六年第二十五號布告鳥獸獵免許取締規則ニ本則ヲ引換）

第七則 銃砲「彈藥」下々ニ於テ撰リニ製造不相成候元モ新ニ奇功便利ヲ發明シ爲武製作致度者ハ其管廳ヘ相願管轄「鎮臺」ヘ届出免許
ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ「鎮臺」ヨリ「武庫司」ヘ差送リ檢査ヲ送ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰
可有之事

是迄銃砲「并彈藥」類買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺簿書記シ管轄廳ヘ爲差出其應ヨリ東京「武庫司」ヘ可差出事

但東京大阪ノ儀ハ買買ノ者ヨリ直ニ「武庫司」ヘ可届出事
右之通ニ候事

▲布告第二百八十二號 明治五年九月二十三日

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相達候事

（別紙）

一銃砲取締規則ニ違銃砲「彈藥」類ヲ持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付候事
但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

一免許ヲ得スシテ銃砲「彈藥」ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事（七年第三百三十二號布告ヲ以テ追加）
但書同斷

右取上ケ候品東京大阪ハ「武庫司」其他ハ所管ノ「鎮臺」ヘ可差出事

武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

▲太政官達第二十二號 明治十三年三月二十五日

使 府 縣（東京府ヲ除ク）

陸海軍武官所有ノ軍用銃ハ明治五年（正月）第二十八號布告ニ依リ管轄廳ノ檢査番號ヲ受來候處自今准士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據
ルヘシ此旨相達候事

武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

第一條 陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃「並其彈藥」類買入ノ節交付スヘキ買入免狀ヲ定メ置キ豫メ其印影等照會ノタメ「使」府縣
廳（東京ハ「警視本署」）ヘ通知ス可シ

威銃事務取扱手續

第二條 武官軍用銃並其彈藥類ヲ買入ル、トキハ前款ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ
 第三條 武官轉任又ハ免官スル時ハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名(檢印アラハ其番號)ヲ記載シ「使」府縣廳(東京ハ「警視本署」)ヘ届
 出常則ニ從ヒ其取締ヲ受クヘシ
 第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ入民ヘ賣渡サントスル時ハ買受入ヨリ其「使」府縣廳(東京ハ「警視本署」)ヘ差出ス
 (キ願書ヘ連署スヘシ)

▲太政官達第百一十一號 明治八年六月廿八日

銃砲取締ニ關スル諸達

今般銃砲彈藥取締ノ儀内務省ヘ管理被仰付候ニ付テハ通テ相違候儀モ可有之候得共差向キ從前規則ノ通相心得取締可致尤右規則中是
 迄陸軍省及ヒ各鎮臺等ヘ申出候分ハ總テ内務省ヘ可申出其他管理換ニ付抵觸ノ箇條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相違候事

▲内務省乙第百二十號 明治八年九月二十二日

銃砲彈藥取締規則違犯ノ者ヨリ沒收候銃砲彈藥等已後免許商人ヘ拂下ク代金ヲ以料料金一同司法省ヘ可相納此旨相違候事

▲内務省達乙第二十五號 明治十年二月二十四日

人民所有軍用銃砲ノ内獵銃等ニ改造又ハ鑄造シ或ハ燒燬等ニテ廢銃届届候節ハ該品調査ノ上檢印消除方取計「毎年六ヶ月分取纏メ入
 府 縣(東京府ヲ除ク)

民銃名共詳調可届出「此旨相違候事(十年乙第百十五號達ニテ届出ノコトハ中止)
 「但上半年分ハ七月下半年ハ翌年一月中旬」可届出候事

▲内務省達乙第三十六號 明治十一年四月二十二日

「東京警視本署」府縣 東京府ヲ除ク
 甲管廳ニ於テ改印セル軍用銃所有者轉籍留等ノ故ナリテ管下ヘ持越シタル后子願納廢棄讓渡等願出ル時ハ乙管廳ニ於テ届届其趣
 甲管廳ヘ報告シ甲乙兩廳ノ簿冊ヲ加除候様可致此旨爲心得相違候事

▲内務省達乙第百四十四號 明治八年一月四日

明治五年第二十八號公布銃砲取締規則第三則ニ準シ毎月十日限賣買表差出來候處自今別紙甲表ノ通前後半年分ヲ區別シ毎年一月七月
 兩度ニ相届ケ其他乙表雜形ノ通銃砲讓受員數等取調毎年二月中差出候様可致此旨相違候事(十年乙第百十五號達ニテ實行中止)
 但人民ヨリ各廳ヘ差出サセ候儀ハ從前ノ通ト可相心得事

(別紙)

書式心得
 (甲)賣買表ハ前後半年ニ區別シ免許商一名一表ニ製スヘキ事
 一品種ノ内洋銃ハ其名ヲ記シ和銃ハ玉目ヲ附シ火藥ハ總テ何貫何百日ト記スヘキ事
 (乙)讓受表ハ管下一般ノ人民一ケ年間ノ讓受ニ係ルモノヲ掲出シ併テ縣下ノ合數ヲ掲クヘキ事
 一讓受人買受人トモ本縣人民ナレハ雜形表面ノ通タルヘシト雖モ若シ本縣人民ヨリ他縣人民ヘ讓リ又ハ他縣人民ヨリ本縣人民ノ
 買受タル等ハ國郡名ノ上ニ其管轄府縣ノ文字ヲ加フヘキ事
 一讓受ニ係ル銃砲立カタキモノ鑄造シ等ニ屬スルモノハ銃名員數人名トモ朱ヲ以テ記シ區別スヘキ事
 一管下人民在來所持ノ銃砲讓受ニ係ラサルモノ其數ヲ掲クル表面ノ通タルヘキ事

第二條 武官軍用銃(並其彈藥)類ヲ買入ルトキハ前款ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ
 第三條 武官轉任又ハ免官スル時ハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名(捺印アラハ其番號)ヲ記載シ「使」府縣廳(東京ハ「警視本署」)へ届
 出常則ニ從ヒ其取締ヲ受ケヘシ
 第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ人民へ賣渡サントスル時ハ買受入ヨリ其「使」府縣廳(東京ハ「警視本署」)へ差出ス
 へキ願書へ連署スヘシ

銃砲取締ニ關スル諸達

▲太政官達第百一十一號 明治八年六月廿八日

使 府 縣

今般銃砲彈藥取締ノ儀内務省へ管理被付候ニ付テハ通テ相違候儀モ可有之候得共差向キ從前規則ノ通相心得取締可致尤右規則申是
 迄陸軍省及ヒ各鎮臺等へ申出候分ハ總テ内務省へ可申出其他管理換ニ付抵觸ノ箇條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相違候事

▲内務省乙第百二十號 明治八年九月二十二日

府 縣

銃砲彈藥取締規則違犯ノ者ヨリ沒收候銃砲彈藥等已後免許商人へ拂下之代金ヲ以料料金一同司法省へ可相納此旨相違候事

▲内務省達乙第二十五號 明治十年二月二十四日

府 縣(東京府ヲ除ク)

人民所有軍用銃砲ノ内獵銃等ニ改造又ハ錯誤シ或ハ燒燬等ニテ廢銃用候節ハ該品調査ノ上捺印消除方取計「毎年六ヶ月分取纏メ入

民銃名共詳調可届出」此旨相違候事(十年乙第百十五號達ニテ届出ノコハ中止)
 「但上半年分ハ七月下半年ハ翌年一月中旬」可相出候事

▲内務省達乙第三十六號 明治十一年四月二十二日

「東京警視本署」 府縣 東京府ヲ除ク

甲管廳ニ於テ改印セル軍用銃所有者轉籍寄留等ノ故ナリ以テ乙管下へ持越シタル后子獻納廢棄讓渡等願出ル時ハ乙管廳ニ於テ届屆其趣
 甲管廳へ報告シ甲乙兩廳ノ簿冊ヲ加除候様可致此旨爲心得相違候事

▲内務省達乙第百四十四號 明治八年一月四日

府 縣

明治五年第二十八號公布銃砲取締規則第三則ニ準シ毎月十日限賣買表差出來候處自今別紙甲表ノ通前後半年分ヲ區別シ毎年一月七月
 兩度ニ相届ケ其他乙表雜形ノ通銃砲讓受員數等取調毎年二月中差出候様可致此旨相違候事(十年乙第百十五號達ニテ實行中止)
 但人民ヨリ各廳へ差出サセ候儀ハ從前ノ通ト可相心得事

(別紙)

書式心得

- (甲) 賣買表ハ前後半年ニ區別シ免許商一名一表ニ製スヘキ事
- 一品種ノ内洋銃ハ其名ヲ記シ和銃ハ玉目ヲ附シ火藥ハ總テ何百目ト記スヘキ事
- (乙) 讓受表ハ管下一般ノ人民一ヶ年間ノ讓受ニ係ルモノヲ掲出シ併テ縣下ノ合數ヲ掲ケヘキ事
- 一讓受人買受入トモ本縣人民ナレハ雜形表面ノ通タルヘシト雖モ若シ本縣人民ヨリ他縣人民へ讓リ又ハ他縣人民ヨリ本縣人民ノ
 買受クル等ハ國郡名ノ上ニ其管轄府縣ノ文字ヲ加フヘキ事
- 一讓受ニ係ル銃砲立カダキモノノ錄潰シ等ニ屬スルモノハ銃名員數人名トモ朱ヲ以テ記シ區別スヘキ事
- 一管下人民在來所持ノ銃砲讓受ニ係ラサルモノ其數ヲ掲ケルコト表面ノ通タルヘキ事

一其年十二月申調査ニ右録シ等ノ分ヲ除キ全ク縣下存在ノ數ヲ悉皆合計掲出スルニ表面ノ通タルヘキ事
(書式畧之)

▲内務省達乙第百十五號 明治十年十二月廿六日

府 縣(東京府ヲ除ク)

明治八年當省乙第百四十四號達甲乙二表及本年乙第二十五號達中人各等届出方ノ儀ハ道テ何分ノ義相達スル迄不及差出候條其應限リ
調理致置キ可申此旨相達候事

但從前差出有之候銃砲所持人名原簿ノ義モ増補等ノ都度其人各等届出ノ分ハ本文ノ通可取計事

▲内務省達乙第三十四號 明治十年三月十九日

府 縣(東京府ヲ除ク)

人民所藏軍用銃砲彈藥類納願出候節ハ自今地方官廳ニ於テ願意開届「明治八年(七月)第百二十一號公達」ノ實例ニ照シ品價ニ從ヒ實
與取計該品處分方ノ義ハ別ニ陸軍省へ申稟スヘシ此旨相達候事(八年七月第百二十一號公達ハ十四年第三百三號達ニ依リ廢止)

▲内務省達番外 明治十六年六月十四日

警 視 廳 府 縣(東京府三重縣ヲ除ク)

獵銃製造人製造銃賣捌方ノ義ニ付從來何出ノ向ヘ需用者ノ注文ニ限リ賣渡シ不苦旨指令及ヒタル義モ有之候處自今免許商人ノ外直賣
不相成此旨爲心得相達候事

▲内務省達乙第六十七號 明治九年五月廿六日

府 縣

金子入書狀及郵便諸費遞送ヲ命シ候内國通運會社掌領ノ者へ賊難爲防禦短銃提携差許候條爲心得此旨相達候事

射的場取締標準

▲警保局長通知 明治十七年九月十九日

銃砲射の義ハ往々危險ノ虞アルヲ以テ之ヲ取締テ緊密ニスルハ保護上必要ノ件ニ付茲ニ京都府外三縣ノ何ニ對シ其標準方等別冊ノ
通内務卿ヨリ訓示相成候間爲御心得及御通知候也

射的場取締標準

- 第一 凡ソ射的ヲ爲サントスル者ハ豫メ組合ヲ設ケ主幹ヲ定メ其名稱規則書及ヒ組合員ノ名簿ヲ添ヘ主幹ヨリ出願セシムルモノトス
- 第二 主幹ハ組合中一切ノ責任ヲ負ヒ且左ノ各項ヲ遵守セシムヘシ
 - 一 射手彈藥ノ裝填及ヒ照準發射ノ方法ヲ監視シ且銃器ヲモ檢査シテ其用ニ堪ヘス危險ノ虞アルモノハ之ヲ省クヘシ
 - 二 發射ニ熱達セサル者ハ必ス百「メートル」以内ノ距離ニ於テ射的ヲ爲サシムヘシ
 - 三 醜聞スル者及ヒ瘋癲白痴ト認ムル者ハ場内ニ入ルヲ禁スヘシ
- 第三 射的ヲ別テ左ノ二種ト爲ス
 - 一 軍用銃射的
 - 二 免許銃射的
- 第四 何種ノ射的ヲ論セス發射時限ハ日出ヨリ日没迄トス
- 第五 射的開會ノ日時ハ軍用銃射的免許銃射的ノ別ナク豫メ主幹ヨリ其地所轄ノ警察署ニ届出ツヘキモノトス
- 第六 射的場ノ構造ハ的ノ後ノ後五百「メートル」兩側五百「メートル」ノ空地ヲ設ケ置クヘシ若シ其餘地ナキ時ハ覆道又ハ射場前十
五「メートル」ノ所ヨリ前二十五「メートル」ノ間ニ於テ十「メートル」毎ニ射門ヲ建設スヘシ
- 第七 但天然ノ丘阜ニ據テ的ヲ築キ背後左右人家及ヒ道路遠隔ノ場所ハ此限ニアラス
- 第八 的ノ構造ハ第一圖ノ如クスヘシト雖モ標的二個以上ヲ用フルモノハ其一個毎ニ的卓幅二十四尺ヲ伸長スルモノトス
- 第九 但免許銃射的ニ用フル的卓ハ其地ノ景狀ニ依リ縱橫各三尺乃至六尺ヲ減縮スルヲ得
- 第十 第八 的卓ノ四面傾斜高度ハ概テ四十五度ヲ法トス尤モ土性殊ニ粘膠質ナルモノハ側面ノ傾斜ヲ四十四度乃至四十三度ニ減縮スル
ヲ得

第九 的阜築造用ノ土性脆軟質ナルハ其中真ニ土俵ヲ積ミ若クハ亂杭ヲ立列シテ崩壞ヲ防クヘシ
 第十 射門ノ構造ハ第二圖ノ如ク長サ一尺五寸ノ木材ヲ累積シ衝擊毀壞ヲ防ク爲メ釘又ハ鐵ノ類ヲ以テ所々貫縫スヘシ
 第十一 標的二個以上ヲ用フル門ハ第一圖ノ如ク其一個毎ニ之ヲ連設スヘシ
 (圖面省略)

第六章 火藥及爆發物

火藥取締規則取扱手續

○訓令甲第十二號 明治二十三年二月十八日

警察本部 警察署 警察分署

火藥取締規則取扱ハ左ノ手續ニ從フ可シ
 一 火藥取締規則第十條ニ依リ火藥類買受ケノ許可證ヲ乞フ者アル時ハ事實ヲ調査シ差支ナキモノハ
 第一號雛形ニ從ヒ證書ヲ下付スヘシ
 但工業土工ニ用ユヘキモノニシテ使用ノ場所所轄外ナル時ハ其所轄ノ警察署又ハ分署ヘ通知ス
 二 火藥取締規則第二十二條ニ依リ火藥類運搬ノ許可證ヲ乞フ者アル時ハ事實ヲ調査シ差支ナキ時ハ
 第二號雛形ニ從ヒ證書ヲ下付ス可シ
 但運搬スヘキ火藥類現在ノ場所々轄外ナル時ハ其所轄警察署又ハ分署ヘ通知ス可シ

廿三年十一月十一日
 百八十八號
 二號第一號
 察ノ下ニ掛
 字加設ノ一

(雛形) 第一號 用紙仙花四ツ切

何第何號	火藥類買入許可證
種類	火藥
數量	何個
使用ノ旨	坑業土工銃砲劇場或ハ何々
趣及場所	何國何郡市區何町村大字
買受人住	番地 何 某
賣渡人住	營業者住所 何 某
所氏名	
所氏名	
右許可候事	
明治何年	奈良縣某警察(分)署
何月何日	
備考	ハトロンノ如キハ何個ノ傍ヘ其火藥數量ノ見積ヲ記ス (シ)

火藥取締規則取扱手續

第二號 用紙仙花四ツ切

何第何號	種類數量	發遣日時	到着日時	通路	年月日
火藥類運搬許可證	火藥 タイナマイト 何々々	何月何日午前(后)何時何所何某方ヲ發ス	何月何日午前(後)何時何所某方ニ着	何所ヨリ何所ヲ經テ何所ニ至ル (通路詳細)	奈良縣某警察(分)署
	何貫目 何貫目 何程				

右許可候事

煙火取締規則

○縣令第三十三號

明治廿七年六月十五日

煙火取締規則左ノ通相定ム

第一條 煙火取締規則

煙火製造ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

煙火種類

一 煙火製造所及煙火貯藏所ノ位置並近傍略圖及其構造方法

一 家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ煙火製造所及煙火貯藏所マテノ距離

第二條 煙火製造人ニシテ火藥取締規則第十三條第二項ノ貯藏免許ヲ請ハントスルトキハ左ノ事項ヲ

記シタル願書ヲ縣廳ニ差出スヘシ

一 火藥種類數量

一 倉庫ノ位置及圖面構造方法

一 近傍家屋ノ有無並距離

第三條 煙火販賣營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

但玩弄煙火ニ限リ販賣スル者ハ第三項煙火貯藏所ヲ設クルニ及ハス

一 煙火ノ種類

一 煙火ノ買入先

一 煙火貯藏所ノ位置及略圖構造方法並近傍距離

第四條 煙火製造所及貯藏所ハ四方十間以内ノ空地ヲ設ケ置クヘシ

煙火取締規則

第五條

煙火製造及販賣人左記ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
一 改氏名及轉居ノトキ
一 廢業ノトキ

第六條

製造所貯藏所落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ使用スルヲ得ス

第七條

製造所貯藏所改造ヲ要スル場合ハ構造方法ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ其落成シタルトキハ前條ニ依リ検査ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルヲ得ス

第八條

煙火ハ免許ヲ得タル貯藏所ノ外貯藏スルコトヲ得ス

第九條

煙火製造所又ハ貯藏所ヨリ十間以内ノ地ニ建造物ヲ設ケ若クハ草秣其他燃質物又ハ發火質ノ物品ヲ蓄積スヘカラス

第十條

煙火製造及販賣人ハ帳簿ヲ設ケ火藥買入並煙火ノ製造買入販賣及現在高ヲ明記シ置クヘシ

第十一條

警察官ハ製造所並ニ貯藏所ニ於テ破損又ハ其他ノ事故ニ依リ危險ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ何時ニテモ之ヲ修繕若クハ改造ヲ命スヘシ

第十二條

煙火ハ十二年未滿ノ者ヲシテ製造セシムヘカラス

第十三條

煙火ヲ放揚(仕掛共)セントスル者ハ左記ノ事項ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ
但仕掛煙火ヲ以テ興行爲サントスル者ハ明治廿五年(七月)奈良縣令第六十二號諸興行取締規則ニ從フヘシ

一 放揚ノ日時

一 放揚ノ場所近傍客圖

一 煙火ノ種類員數

第十四條 前條許可ノ後ト雖モ臨時天候ノ異變又ハ其他ノ事故ニ由リ危險ノ虞アリト認ムルトキハ警察官吏ハ之ヲ他ノ場所ニ移轉セシメ又ハ停止スルヲ得

第十五條 製造人並販賣人廢業ノ場合ニ於テ火藥若クハ煙火殘餘アルトキハ其種類數量ヲ詳記シ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十六條 煙火製造人及販賣人ニシテ此取締規則ニ違背スルモノハ該業ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ

第十七條 第一條第三條ニ違背シタル者ハ刑法第四百廿五條第三項ニ依リ第二條ニ違背シタル者ハ明治十七年(十二月)布告第三十一號火藥取締規則第二十八條ニ依リ處分セラルヘシ

第十八條 第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條第十五條ニ違背シタル者及第十四條ニ於ケル警察官ノ命令ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

附則

從前免許ヲ得タル製造人並ニ販賣人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ更ニ本令第一條第二條ニ依リ願出免許ヲ受クヘシ

煙火放揚區域ニ關スル件

○訓令第三十號 明治廿八年十月三日

右社寺其他由緒アル建設物保護上必要ニ付自今左ノ區域内ニ於ケル煙火ノ放揚ハ許可スヘカラス命ニ依リ此段及訓示候也

- 一 奈良吉野公園ヲ距ル二町以内
- 一 官幣社又ハ著名ノ神社寺院ヲ距ル二町以内
- 一 由緒アル建設物ヲ距ル二町以内

▲附 火藥取締規則

▲布告第三十一號 明治十七年十二月廿七日

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

火藥取締規則

第一章 總則

- 第一條 凡火藥劇發火藥(格火藥ナイトロクリセリン、ダイナマイト、雷索其他劇發質ノ物品)ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス
- 但烟火マツチノ類ハ此限ニ在ラス
- 第二條 火藥類(火藥劇發火藥ナ云フ)ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ願出免許證札ヲ受クヘシ

但營業者ハ一管内二十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限り陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムルトキハ營業者タルト否トハ警察官ヲシテ之ヲ検査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアルヘシ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可ラス

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ(證書アレハ之ヲ添ヘ)翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限り火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス

但十六歳未満者クハ白痴癡癪ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵者ハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ可許證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其趣旨及種類數量并ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡スヘシ

但一回ニ左ノ數量ヲ越ユルコトヲ許サス

小銃用 火藥	三百目	雷管	五百個
船舶設備銃砲用	大砲一門ニ付	火藥	五十發分
	小銃一挺ニ付	火藥	百發分
烟火製造用 火藥	五百目	雷管	百五十箇
坑業土工其他職業用	烟火	二百貫目	
	劇發火藥	三十貫目	

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量并ニ使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ直ニ陸海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡スヘシ

但第十條ノ數量ヲ超レコトヲ許サス
第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ(證書アレハ之ヲ添ヘ)翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管等火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得
營業者ハ前項制限ノ外火藥十貫目劇發火藥一貫目雷管等火管類一萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五十貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス
第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ
第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法及近傍ノ地圖ヲ添ヘ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ願出許可ヲ受ケ可シ
第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス
第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱瀧船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ
第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕景ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テ高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木(曲尺六尺以上ニシテ五寸角以上ノモノ)ヲ建ツ可シ
第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ村本草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラス
第二十條 坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ依リ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ願出許可ヲ受ケヘシ
但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ
第二十一條 烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ貯ケ可カラス

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸道路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納スヘシ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ
第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒリル木製鋼製若ハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ進包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(陸路ニハ曲尺縱二尺橫二尺五寸水路ノ小船ニハ曲尺縱三尺五寸橫五尺)ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ
但船積スル時ハ明治六年(八月)第二百九十二號布告危害品船積法ニ從フ可シ
第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ
第五章 罰則
第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニ非スト雖モ刑法第五百十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス
第二十六條 刑法第五百十八條第五百十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス
第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十八條 第四條ノ検査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ賣受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料科ニ處ス
第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一 従前免許ヲ得タル烟火製造人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ケ可シ
一 従前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄火藥賣買營業ヲ差許從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ存同日迄其

製造ヲ差許ス又従前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

火藥ニ關スル管轄廳ノ届出方心得

▲太政官達第一號 明治十八年一月六日

警視廳 府 縣(東京府ヲ除ク)

明治十七年(十二月)第三十一號布告ヲ以テ火藥取締規則被定候ニ付テハ管轄廳ニ於テ届出方左ノ通可相心得此旨相達候事

一火藥類ノ賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫設置ヲ許可シタル時ハ營業者ノ住所族籍氏名及火藥庫設置ノ地名番號ヲ記シ内務陸軍海軍

三省ヘ届出ヘシ

一營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ヲ統計シ毎年一月内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

火藥類拂下出願方

▲陸軍省達甲第十號 明治十八年二月廿七日

警視廳 府 縣(東京府ヲ除ク)

昨年第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ於當省ハ砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ火藥類拂下候條拂下希望ノ者ハ同方面ヘ願出候様營業人ヘ達シ方可取計此旨相達候事

但營業人住所姓氏並營業免許証見本豫メ其願ヨリ本文兩方面ヘ通知シ置キ營業人火藥類拂下願出ノ節ハ必ス營業免許証ヲ携帶セシムヘシ

▲陸軍省訓令甲第九號 明治二十三年四月五日

府 縣(東京府ヲ除ク)

當省火藥類拂下ノ儀従前砲兵第一方面及第二方面ニ於テ取扱來候處自今東京砲兵工廠及大坂砲兵工廠ニ於テ取扱候條此旨營業人ヘ達方取計ノヘシ

但拂下手續ハ従前ノ通り

▲海軍省達乙第四號 明治十八年三月廿四日

警視廳 府 縣(東京府ヲ除ク)

昨年十二月第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ當省ニ於テハ東京赤羽兵器局ニ於テ火藥類拂下候條望ノ者ハ同局出願候様營業人ヘ達方可取計此旨相達候事

但營業免許証見本豫メ其願ヨリ同局ヘ通知シ置キ營業人ヨリ拂下出願ノ節ハ必ス營業免許証携帶セシムヘシ

火藥類貯藏取締方

▲内務省訓令第七八一號 明治二十年十月十九日

火藥類貯藏ノ儀ニ付テハ火藥取締規則第三章ニ規定有之不取締無之咎ニ候得共監護ノ疎虞懈怠等ヨリ不測ノ危害ヲ生シ殊ニ土工又ハ鑛山用ニ供スル火藥類ヲ窃取セラレタル向モ鈔ナカラス固ヨリ取締方行届屆候儀ニハ可有之候得共自今猶一層注意ヲ加ヘ當分ノ内警察官吏ヲ派シ監視セシメ其主管者ニ於テハ土木請負人又ハ工夫職工等ニ放任セシテ嚴ニ取締人ヲ附シ萬一前願ノ如キ不都合之儀有之ニ於テハ主管者ヲシテ其責ニ任セシムヘキ旨豫メ十分注意セシメラルヘシ

右訓令ス

火藥類鐵道運送條規

▲工部省告示第十四號 明治十八年四月十日

明治十五年(五月)第四百六十六號公布鐵道規則第十六條ニ依リ火藥類鐵道運送條規左ノ通相定ム
但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス

火藥類鐵道運送條規

- 第一條 火藥類ハ鐵道局ノ都合ヲ以テ之ヲ運送スルコトアルヘシ
- 第二條 火藥類ハ別仕立列車或ハ旅客車ヲ連續セサル普通ノ貨物列車ヲ以テ運送スヘシ
但兵員乘車ノ時其攜帶スル彈藥ハ此限リニアラス
- 第三條 火藥類ヲ運送スルノ貨金ハ百斤ニ付一哩金一錢二厘ト定ム
但三千五百斤以下及二十哩以内ト雖モ猶本數本哩ニ當ル金額即チ金八圓四十錢徴スヘシ
- 第四條 火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名稱種類量數及送受人ノ氏名住所ヲ記載シタル書面ヲ四十八時間以前ニ鐵道局ニ差出シ其承諾ノ證ヲ領受スヘシ其證ナキトキハ之ヲ運送セサルモノトス
但非常急劇ノ際ハ此時間ノ限ニアラス
- 第五條 火藥類ノ渡ヲ爲スハ鐵道局員ニ限ルヘシ且其時間ハ日出後日没前ニシテ鐵道局ニ於テ特ニ指定スル日時ヲ限ルヘシ
- 第六條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ストキハ其桶箱等ハ成ルヘク互ニ手渡ヲ爲シ決シテ地上ニ投下シ又ハ輾轉セシムヘカラス若シ輾轉セサルヲ得ザルトキハ必ス革布木綿等ヲ以テ其經過スヘキ地上ヲ蔽フヘシ
- 第七條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鐵或ハ釘ヲ附シタル靴類ヲ穿チ又ハ摺附木等ノ發火質アル器具ヲ携ヘ又ハ吹烟スルヲ許サス
- 第八條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ始ムルトキハ之ヲ終ルマテ少時間ト雖モ猶豫スヘカラス又其事ニ預ラサル他人ノ其場ニ近クナ防クヘシ
- 第九條 火藥類停車場者クハ鐵道ノ倉庫ニ到着シタルトキハ六時間以内ニ其受取方ヲ爲スヘシ此時間過クレハ一時間毎ニ一噸ニ付金二圓ノ運滯料ヲ徴スヘシ

廿六年二月八日
日縣令第四號
ナ以テ一項但
書中醫師ノ下
ニ歐羅ノ二字
ヲ追加ス

- 第十條 鐵道局ハ火藥類ノ受渡庫入運送荷揚積ノ爲メ火藥類ニ生シタル損害并ニ之ニ原因シテ他ニ及ヒタル損害ハ勿論其他何等ノ事アルモ其責ニ任セザルモノトス
- 但鐵道局員ノ過失ニ因テ起ルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 火藥類ノ運送ヲ委託スル者ハ前ニ列記シタル條規ヲ承認シタル證トシテ鐵道局ヨリ下付シタル條規寫書ノ端末ニ署名捺印スヘシ

格魯兒酸加溜謨賣買授受取締方

○縣令第八號 明治廿三年二月十五日

明治二十二年縣令第八十一號左之通改正ス

- 一 格魯兒酸加溜謨(鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受スルトキハ豫メ其斤量及需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ
但醫師獸醫藥劑師藥種商製藥者相互ノ賣買授受ハ此限リニアラス
 - 二 警察官ハ臨時其現品ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 前一項ノ手續ニ違背シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

書式

一格魯兒酸加溜謨

斤量

格魯兒酸加溜謨賣買授受取締方

右ハ(工業用等何々)必要ニ付前書之通賣買(授受)致度御認可被成下度候也
年月日

本籍何府(縣)何市(郡區)何町(村)番地族籍
現住地何府(縣)何市(郡區)何町(村)番地

買主 受主 氏 氏

年 名 印 年 名 印

奈良縣何郡何町(村)大字番地
賣主 授主 氏 氏

年 名 印 年 名 印

何警察署御中

格魯兒酸加溜謨賣買授受差許方

○訓令甲第四百十號 明治二十二年十一月十二日

警察署

格魯兒酸加溜謨(鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里)ノ賣買授受ヲ届出タルトキハ事實取調差支ナシト認ムル
分ハ認可スヘシ

▲附
爆發物取締罰則

▲布告第三十二號 明治十七年十二月廿七日

爆發物取締罰則

- 第一條 治安ヲ妨ク又ハ人ノ身体財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス
- 第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス
- 第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
- 第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス
- 第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
- 第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニ非ラサルコトヲ證明スルコト能ハサルトキハ二年以上五年以下ノ重懲役ニ處シ二拾圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知スヘシ違フモノハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知スヘシ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重懲役ニ處ス
- 第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪証ヲ隠滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス
- 第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及七十八條ノ例ヲ用ヒス
- 但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ
- 第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監禁ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ
- 第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

格魯兒酸加溜謨賣買授受差許方

危害品船積規則

▲布告第二百九十二號 明治六年八月九日

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不存易儀ニ付左ノ條件之法則ヲ定メ當
明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂燐液並ニ腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致候時ハ其品名ヲ表包
ノ外部ニ書キ記シ或ハ送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運送會社危難請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物
ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事
一 尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受ク候時ハ船主船長運送會社危難請合會社ハ何時ヲ限ラス何
地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事
但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入貨ヲ以テ放ノ如ク荷運可致然レモ其荷中ニ危害品等有之時ハ是等ノ
入費都テ荷主ヨリ可拂事

一 此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判
所ヘ可届出事
但安全ノ場所ニ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一 此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保テ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港ノ
上直ニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事
但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ微辨スルニ不及事

一 船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出スト雖官ニ
訴ヘ出サル時ハ金二百圓以内ノ罪ニ處スヘキ事

第七章 遺失物

遺失物取扱手續

○達第四十三號 明治廿五年七月十四日

警察署 警察分署

遺失物取扱手續左ノ通相定ム

遺失物取扱手續

第一條 警察署ニ於テ遺失物拾得ノ届ヲ受ケタルトキハ其日時場所物質模樣數量等ヲ調査ノ上之ヲ遺

失物臺帳ニ記載シ受領證ヲ下付スヘシ

但請求ノ念慮ナキモノハ受領證ヲ下付スルニ及ハス其旨遺失物臺帳ニ附記シ置クヘシ

物質ノ眞偽ヲ判別シ難キモノハ拾得者ノ面前ニ於テ封緘シ双方(署長拾得者)封印ヲ爲シ置クモノトス

第二條 警察署分署巡查派出所同駐在所ニ於テハ前條ノ拾得物ヲ取次クコトヲ得此場合ニ於テハ假リ

ニ受領證ヲ下付スヘシ

第三條 遺失物臺帳并ニ受領證ハ様式ニ從ヒ調製スヘシ

第四條 拾得物ニハ遺失物臺帳ト同一ノ番號及拾得年月日並拾得者ノ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ附ス

ヘシ

第五條 警察署又ハ警察分署ニ於テ揭示ノ必要ヲ認タル拾得物ハ三十日間以上其手續ヲ爲スヘシ

第六條 埋藏物ニシテ古代ノ沿革ヲ徵スルニ足ルモノ又ハ御陵墓或ハ古墳等ノ疑ヒアルモノハ其地景

及ヒ口碑等調査シ現場ノ圖面ヲ添ヘ警察部ニ報告スヘシ

第七條 物主若クハ拾得者ニ拾得金ヲ下付セントスルルルハ署長ノ面前ニ於テ遺失物臺帳及受領證ト現

物ヲ照合ノ上之ヲ下付シ受領證ヲ徴スヘシ
 第八條 拾得金ノ保官及官設金ノ取扱ハ別ニ定ムルトコロノ規程ニ從フヘシ
 遺失物臺帳様式 用紙美濃紙

拾得		明治年月日午時	拾得者
何警第何號		署長印 取扱主任印	一金五圓八十四錢也
但何銀行何圓紙幣何枚		一 個	一 個
一 黑革製煙草入		但銀製煙管付	一 筋
一 小倉男帶		但何々綺	
一 何々			

受領證契印

届出	明治年月日午時	住所氏名	
拾得場所		物主	
給與	明治年月日午時	住所氏名	
法附	明治年月日午時	住所氏名	
交附	明治年月日午時	住所氏名	
公賣	明治年月日午時	住所氏名	
官設	明治年月日午時	取扱主任	
還付	明治年月日午時	取扱主任	
備考			

遺失物取扱手續

受領證様式

何警第何號 拾得者 住所 氏名

署長印 取扱主任印

一金五圓八拾四錢也

一黑革製煙草入

但銀製煙管付

一小倉男帶

但何々縞

一何々

右正ニ領収候也

明治年月日

奈良縣何警察署

印

遺失物帳
割臺失印

表

受領證

裏

注意

一此受領證ノ日付ヨリ滿一ケ年經過セハ物品ノ給付方申出スヘシ

一轉住シタルトキハ便宜届出ヘシ

一此受領證紛失シタルトキハ速ニ便宜届出ヘシ

一物品ノ給付ヲ請ハントスルトキハ此書面持參スヘシ

國稅ニ關スル紛失鑑札發見報告

○訓第五號 明治二十二年二月一日

國稅ニ關スル紛失鑑札發見ノ件本縣取稅長ヨリ別紙之通リ照會有之就テハ自然其部内ニ於テ發見届出候得ハ其都度報告セラルヘシ

追テ所屬分署長ヘハ其時々本署ヘ報告スヘキ様指示置カルヘシ

(別紙)

國稅ニ關スル紛失諸鑑札之義ハ其時々告示セラレ候處自今告示ハ勿論府縣ヘノ通知トモ廢止他府縣ノ者ニシテ本縣内ニ於テ所在發見シタルトキハ通知可致事ニ夫々各府縣ヘ照會有之候ニ付テハ自然各警察署ヘ右所在届出候得ハ他府縣ノ分ニ關セス其旨本部ヘ御通報相成候様致度此段豫テ及御照會候也

駐在巡查拾得物届取次方

○訓第三拾一號 明治二十二年六月十七日

各駐在所巡查ニ於テ拾得物届取次方區々ニシテ一定セサルニ付自今左之通取計ハルヘシ

- 一 拾得物届出ツルモノアル片ハ金額ノ多寡物件ノ大小ニ係ハラス總テ駐在所巡查ニ於テ之レカ取次ヲ爲スヘシ
- 一 同金額五圓以上其他貴重ノ物品ヲ受付シタルトキハ直ニ所屬署ヘ送付スヘシ

市町村役場等ニ係ル遺失物處分方

○訓甲第四十號 明治二十四年十二月十八日

警察署 警察分署

市町村役場等ニ係ル遺失物處分ノ義ニ付其筋ヨリ左ノ通通牒有之候條此旨心得ラルヘシ

島甲第百三十號(内務書記官通牒)

市町村役場公立學校私設鐵道構内社寺ノ殿堂劇場内等ニ係ル遺失物ニシテ一ケ年内物主知レサルモノ處分方ニ付廣島縣伺ニ對シ役場内ニ係ルハ該市町村學校内ニ係ルハ學校所屬ノ市町村鐵道構内ニ係ルハ該鐵道會社社寺殿堂ニ係ルハ該社寺劇場内ニ係ルハ該場持主ニ給スヘキ儀ト心得ヘキ旨指令相成候條爲御心得此段及通牒候也

▲附

遺失物取扱規則

▲布告第五十六號 明治九年四月十九日

遺失物取扱規則

- 第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺ラズ及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルコトヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得ス
- 第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラザレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ横示シ一年内其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス

國稅ニ關スル紛失鑑札發見報告 駐在巡查拾得物届取次方 市町村役場等ニ係ル遺失物處分方

- 第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模倣員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ク詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ
但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ
- 第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ返スト雖モ其費用ヲ償ハシムルコトナリ得且得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十
ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ争フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム
- 第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミナ償ハシム
- 第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得モノハ之レヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其
借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト申分セシム(十四年第二號布告ヲ以テ但書共改正)
- 但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス
- 第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ傍
示シテ處分スルコト第二ノ如シ
- 第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與
スルコト第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス
- 第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサルハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償
ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ傍示シテ處分スルコト第二條ノ如シ
- 第十條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルコト私物ニ異ルコトナシ
- 第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハズ遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ没ス
- 第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ没ス
- 第十三條 凡公私債證券地券諸證札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ其物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ
- 第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セズ或ハ物主ノ其主タルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セ
サル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

古墳墓發掘取締方

○訓甲第十號 明治廿九年三月二十八日

古墳墓發掘ノ義ハ明治七年^五太政官第五十九號並ニ明治十三年宮内省達乙第三號達ノ次第モ有之猥リ
ニ發掘不相成候處近來往々謂ハレナク發掘候モノ有之古來ノ沿革ヲ徵スヘキ憑據ヲ散失スル憂有之ノ
ミナラス自然尊貴ノ古墳ニ對シ恭敬ヲ失スル所爲有之候テハ不相濟義ニ付向後古墳ト認ムヘキモノハ
一切發掘セシメサル様嚴重取締セラルヘシ此段及訓示候也

古代沿革ヲ徵スヘキ埋藏物發掘届出方

▲内務省甲達第二十號 明治十年九月廿七日

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スル
モノモ有之候ニ付處分前一應當省ヘ届出檢査ヲ受ヘク其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私申分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人
ヘ下附シ該物品ハ永ク博物館ヘ陳列可致候條此旨布達候事
但物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及摸寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方相達候後本文ノ通り可取計候事

▲宮内省達第十三號 明治十九年十月廿七日

明治十年九月内務省甲第二十號達ノ件ハ自今當省ヘ届出ヘシ

北海道 府 縣

盜賊拾置品處分方

▲內務省達番外 明治十二年三月十四日

警視本署府縣(東京府ヲ除ク)

從來盜賊拾置品等處分方區々相成候處自今別項ニ準シ處分スヘシ爲心得此旨相違候事

但從前指令致シ置候内本文ト抵觸スル分ハ取消候事

一賊ノ拾置品ニシテ一年間事主ナキ者ハ得者ニ給付スヘシ

一止宿入旅籠賃ヲ拂ハス逃去シタル跡ニ殘シ置ク物品及湯屋等ニテ換易セラレタル物品ニシテ一年間事主知レサル者ハ店主並被換者ヘ給付スヘシ

官沒物品取扱方

▲內務省達乙第三百三十六號 明治九年十二月廿日

府 縣(東京府ヲ除ク)

本年(八月)當省乙第九十七條沒官ノ物品取扱方達書左ノ通改正候條此旨相違候事

遺失物取扱規則中官ニ沒スル物品ノ中裁判ニ係ルモノハ裁判所ニ送付シ裁判ニ係ラサルモノハ之ヲ公賣シ其應禁物ハ一旦廢毀スルノ後ハ之ヲ公賣スルモ書キキモノハ同様處分シ其金額六ケ分(七月ヨリ十二月迄)取纏メ明細書相添大藏省ヘ納付可致事(十九年開令第三號同年大藏省令第四號ニ依リ納付手續ニ變更アリ)

第八章 人事

瘋癲人取締規則

○縣令第七十四號 明治二十五年八月二十六日

瘋癲人取締規則左ノ通相定ム

瘋癲人取締規則

第一條 凡ノ瘋癲人ニシテ狂暴ノ所爲アルカ又ハ他ニ害ヲ被ラシムル恐レアル者ヲ鎖銅セントスルルハ其場所ノ圖面隣伍五名以上ノ保證狀及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ近親ノ者二名以上連署シ町村長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ警察分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 鎖銅室ハ衛生上障害ナキ場所ヲ撰定シ且堅牢ニ設置スヘシ

第三條 瘋癲人ヲ病院ニ入レ治療セシメントスル者ハ其院名ヲ記シタル書面ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ醫療ニ依ラスシテ救治ノ法ヲ施サントス者ハ場所及方法等ヲ許悉シ願出許可ヲ受ケ尙現場所轄警察署又ハ警察分署ヘ届出ヘシ

第四條 瘋癲病ヲ治療スル病院ニハ名簿ヲ備ヘ患者ノ住所氏名ヲ登記シ且其出入ヲ詳ニシ警察官吏ノ點檢ニ供スヘシ

第五條 鎖銅室ヘハ總テ危害ノ虞アル物件ヲ差入ル、ヲ得ス若シ他ノ病氣等ニ依リ止ム得ス差入ル、トキハ必ス看護人ヲ附スヘシ

第六條 瘋癲人ハ假令狂暴ニ至ラサルモ猥リニ放置スヘカラス若シ保養等ノ爲メ外出セントスルトキハ必ス看護人ヲ付スヘシ
鎖銅中ノ者ヲ保養等ノ爲メ一時室外ニ出サントスルルハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出認可ヲ受ク

瘋癲人取締規則

第七條 天變地異其他危劇ノ災害アルトキハ速ニ危難ヲ避ケシムヘシ此場合ニ於テハ必ス看護人ヲ付スヘシ

第八條 鎖鋼室ハ時々掃除シ勉メテ清潔ヲ旨トスヘシ

第九條 入院若クハ鎖鋼中ハ臨時警察官吏ニ於テ室内ヲ検査スルコトアルヘシ

第十條 鎖鋼中ト難厄必ス醫師ノ治療ヲ受ケ決シテ苛酷ノ取扱ヲナスヘカラス

但痼疾ニシテ治療ノ見込ナク醫療ヲ止メントスルトキハ醫師ノ鑑定書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第十一條 事故アリテ他室(病院ヲ除ク)ヘ移轄セシメントスルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十二條 入院若クハ鎖鋼中死亡シタルトキハ醫師ノ死亡届ヲ添ヘ速ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第十三條 解鎖セントスルトキハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出許可ヲ受ケ入院中ノ者退院スルトキハ届出ヘシ

第十四條 警察官吏ハ鎖鋼ノ瘋癲人全治シタルカ又ハ瘋癲人ニ非スト認定スルトキハ相當醫師ニ鑑定セシメタル上解鎖ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條第十條但書及第十一條第十二條第十三條ニ違背スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○達第五十四號 明治二十五年八月二十六日 瘋癲人取扱手續

瘋癲人取扱手續左之通相定ム

警察署 警察分署

瘋癲人取扱手續

第一條 瘋癲人ヲ鎖鋼センコトヲ願出タルトキハ願意ヲ審按シ若シ疑ハシキ廉アルニ於テハ事實ヲ探偵シ且其鎖鋼スヘキ場所ヲ検査ノ上許否スヘシ他室ニ移轄セシメントヲ願出タルトキ亦本條ニ準據スヘシ

第二條 前條ニ依リ許可シタル鎖鋼室落成シタルトキハ警部ニ於テ検査ヲ爲シ若シ不堅牢ノケ所アルカ又ハ衛生上害アリト認ムルトキハ其部分ヲ改造或ハ修築セシムヘシ

第三條 醫療ニ依ラスシテ救治ノ法ヲ施サンコトヲ願出タルトキハ其場所及方法等ヲ審按シ許可スヘシ

但單ニ神佛ノ加護ニ托シ加持祈禱若シクハ符呪等ヲ爲シ又ハ其方法危險或ハ不正ニ涉ルモノハ許可スヘカラス

第四條 自宅鎖鋼ニ係ル瘋癲人ハ毎月三回以上其病院ニ在ルモノハ毎月一回以上臨檢スヘシ

第五條 醫療ヲ止メントコトヲ届出タルトキハ醫師ノ鑑定書ヲ審按シ若シ疑ハシキ廉アルトキハ他醫ヲシテ尙ホ鑑定セシメタル上許否スヘシ

第六條 鎖鋼ノ瘋癲人死亡シタル旨ヲ届出タルトキハ警部ニ於テ臨檢スヘシ

第七條 鎖鋼ノ瘋癲人ヲ解鎖センコトヲ願出タルトキハ醫師ノ診断書ヲ審按シ其全治シタルモノニ限

リ許可スヘシ

第八條 凡瘋癲人ハ不測ノ危害ヲ生スルノ恐アリ又其身体財産ニモ大ナル關係ヲ有スルヲ以テ許可ノ指令ハ勿論總テ取締上特ニ注意スヘシ

瘋癲人取締注意方

○訓第四十三號 明治二十二年八月六日

過日來長尾樸本兩分署部内ニ於テ瘋癲病者ニシテ人ヲ殺害セシモノアリ其病狀タル何レモ平素鎖鋼ノ取締ヲ要スヘキ程ノモノニモアラザリシカ元來瘋癲タル遠ク病因ノアル在リテ數年前發狂スルモ暫時輕症快癒シテ通常人ト異ナラス或ハ農商其他ノ業務ニ從事シ家政ヲ經營スルモノアリト雖モ一度此病ニ罹ルモノニ在テハ自衛ノ道ヲ會得スルノ感ニ乏シク動モスレハ前轍ノ慘狀ヲ顯出スルモノナリ依テ平素家人ニ於テ看護注意ヲ忽カセニスヘカラサルハ勿論ナリト雖モ尙ホ右様ノ之レアリテハ自然警察上不注意ノ誹リハ免レサルコトニ付自今各署ニ於テモ管區巡查ヲシテ一層緻密ナル視察ヲナサシメ將來右様ノ過チナカラシメサル様注意セララルヘシ

幼兒養育者取締方

○縣令第三十五號 明治二十八年五月二十四日

六年未滿ノ幼兒ヲ養育料又ハ手数料等金錢其他ノ報酬ヲ得又ハ報酬ヲ得ルノ約束ヲ以テ貰ヒ受ケ養育スルモノハ其兒ノ實父母私生ノ者ハ其生母ノ住所氏名ヲ記シ七日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ
前項ノ幼兒疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署若クハ巡查派出所巡查駐在所ニ届出ヘシ
現ニ第一項ニ該當スル養育兒アル者ハ同項ニヨリ本令發布後二十日以内ニ届出ヘシ
本令第一項第二項又ハ第三項ニ違背シタル者ハ二日以上五日以内ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

幼兒養育ニ關スル取扱方

○訓甲第十六號 明治二十八年五月三十日

本年奈良縣令第三十五號幼兒養育者取締左ノ通取扱ハルヘシ

- 一 育兒名簿ヲ造リ養育者并ニ實父母ノ住所氏名年齢其他參考トナルヘキ事項ヲ登記シ置クヘシ
 - 一 幼兒滿六年ニ至ルノ間受持巡查ヲシテ毎月二回以上臨檢視察セシムヘシ
- 但幼兒ノ發育不充分等ニシテ尙保護ヲ要スト認ムル場合ハ滿六年以上ニ及ブモ繼續臨檢セシ

瘋癲人取締注意方

幼兒養育者取締方

幼兒養育ニ關スル取扱方

一 幼兒疾病又ハ死亡ノ届出アルトキハ受持巡查ニ臨檢セシメ其原因等ヲ查明セシムヘシ
右及訓示候也

▲附

行旅病人死亡人取扱方

▲布告第四十九號 明治十五年九月三十日

行旅死亡人取扱規則左ノ通制定ス

行旅死亡人取扱規則

- 第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戸長ハ之ヲ最寄葬地へ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ
- 第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルトキ戸長ハ死亡ノ狀況並ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長へ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルモハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルモハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルトキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄場へ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ
- 公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ
- 第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ

但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルニ能ハサルモハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘額アルモハ之ヲ本籍へ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ

▲内務省訓令兵甲第四五號内 明治十九年三月

明治十五年第五十號布告ヲ以テ行旅病取扱規則廢止後ハ其家元赤貧等ニテ引取人難差出モノハ現在地ニ於テ相當救護ヲ加ヘ其費用ハ本籍地方稅教育費ヲ以テ辨償爲致候處實際或ハ不便ノ廉モ可有之ニ付自今地方經濟ノ便利ヲ計リ同費中ヨリ費用ヲ支出シ其本籍へ引取候儀不苦候條此旨及訓示候也

▲内務省訓令訓第二五一號 明治十九年五月十一日

行旅死亡人及行旅病人ノ携帶セル幼年者等救助ノ費用ハ本人又ハ家元ヨリ辨償セシムヘシト雖モ赤貧ニシテ辨償シ能ハサルトキハ恤救規則ニ依リ給與シ若シ増費ヲ要スルカ又ハ該規則ニ適當セサルモノハ本籍地方稅教育費ヲ以テ支辨スヘキ義ト心得ヘシ
右訓令ス

第九章 新聞紙

新聞紙雜誌雜報受賣營業者届出方

○甲第十五號 明治十九年二月六日

新聞紙雜誌雜報ノ類ヲ其發行所發賣所發賣人ヨリ受賣營業セントスル者ハ族籍住所氏名及ヒ其題號并

新聞紙雜誌雜報受賣營業者届出方

ニ發行所ヲ記シ所轄警察署ニ届出可シ其種類ヲ増減シ又ハ族籍住所等ヲ轉換シ若クハ廢業シタル時亦同シ若之ニ違犯シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ但從前ノ營業者ハ本月二十日限り本文ノ届出ヲ爲スヘシ右布達候事

○本甲第十七號 新聞紙雜誌類受賣營業者届出ノ節通報方

明治十九年二月六日

警察署 水上署
ヲ除ク

本年甲第十五號布達ニ依リ新聞紙雜誌類ヲ受賣營業之儀届出候時ハ其題號及發行所並ニ其族籍住所氏名等第五部ニ報告シ其種類ヲ増減シ又ハ族籍住所ヲ轉換シ若クハ廢業等届出ノ節モ其都度通報ス可シ此段相達候也(第五部ハ現時高等警察係)

▲附

新聞紙條例

勅令第七十五號 明治二十年十二月二十八日

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務省ニ届出スヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人、編輯人、及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ

第三條 届出ヲ爲シタル後題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續キニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲ爲スマテ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲ爲スマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セザルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼メルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムヘシ

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

新聞紙雜誌類受賣營業者届出ノ節通報方

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限リニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監及ヒ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條 新聞紙ハ毎號ニ發行入、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ發行入、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スルモノハ總テ編輯人ト共ニ其實ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及管轄治安裁判所按事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル常人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求メテ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞紙ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用非同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ常人又ハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル

但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ關レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ關レタル罪犯人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲メニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレバ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假リニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ナシテ共ニ其實ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス、惠ラ公益ノ爲メニスル者ト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦タ同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ムヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

但詳稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ懲禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ
 第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣額布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ
 第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス
 第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス
 第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕罪再加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス
 第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

新聞紙ニ關スル諸達

▲太政官布達第二十一號 明治十六年六月廿二日
 凡ソ官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄録スルコトヲ得
 「官報ニ於テ新聞紙ニ記載シタル事項ノ誤ヲ正ストキハ新聞紙條例第二十九條ニ從ヒ正誤ノ全文ヲ發載スヘシ」(條例第十四條ニヨリ本項消滅)

▲太政官布達第百三十一號 明治六年四月十日
 在官ノ者官中ノ事務ハ勿論或ハ外國交際ノ妨礙トナルヘキ類ハ瑣細ノ件ト雖モ私ニ新聞紙へ令掲載候義不相成候事
 但公布ヲ經ル文書又ハ其長官ヨリ差圖ノ分ハ此限ニアラス

諸 省 府 縣

▲太政官達第百五十八號 明治八年九月十二日
 自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候義不相成候此旨相達候事

院 省 使 廳 府 縣

▲內務省達乙第七號 明治十四年二月二日
 新聞紙雜誌雜報等從來發兌ノ都度ニ部ツ、圖書局へ納出候處自今警保局へ可爲納出此旨相達候事

廳 府 縣(東京府ヲ除ク)

▲司法省訓令第十號 明治十九年六月廿一日
 新聞紙條例「第三十三條」ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ中ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辨論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辨論ノミヲ指スモノニ非ラス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣キニ付此旨心得ヘシ

檢 事 長 檢 事

新聞紙ニ關スル諸届書式

▲内務省告示第一號 明治二十一年一月二十六日

新聞紙ニ關スル諸届書式左ノ通相定ム
發行届式(但用紙美濃紙以下之ニ同シ)

何新聞(雜誌)發行届

一 題號

何新聞

一 記載ノ種類

政治、法律、農工商業等ノ類

一 發行ノ時期

毎日、毎週、毎月何回一箇年何回ノ類

一 發行所

府縣國郡區町村番地何社(社號ナキモノハ戶主ノ氏名)

一 印刷所

同

一 發行人

住 所

氏

名

何年何月生本月何年何箇月

一 編輯人

住 所

氏

名

何年何月生本月何年何箇月

一 印刷人

住 所

氏

名

何年何月生本月何年何箇月

各部門ニ主任編輯人ヲ設クルトキハ茲ニ列記スヘシ

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノ預リ手形公債證書)ヲ以テ管轄廳ヘ納メ置キ候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納ムルニ及ハサルモノ、例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御届申上候也

年月日

内務大臣 某 殿

發行人

氏

名 印

題號變更届書式

何新聞改題届

一 何 新聞

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年月日

内務大臣 某 殿

發行人

氏

名 印

種類變更届書式

何新聞記載ノ種類變更届

一 現今種類

政治、法律、農工商業其他何々

一 變更種類

何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メス發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要スル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノ預リ手形公債證書)ヲ以テ管轄廳ヘ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メ發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要セサル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付是迄納置候保證金御下渡之儀ハ管轄廳ヘ可申出候間此段御届申上候也

年月日

内務大臣 某 殿

發行人

氏

名 印

發行人變更屆書式

何新聞發行人變更屆

何新聞是迄何誰發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致候ニ付此段御届申上候也
(發行人死去シ又ハ法律上資格ヲ失ヒタルモノノ例ハ左ノ如シ)
何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去若クハ法律上ノ資格ヲ失ヒ候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致居候處年月日ヨリ何誰ニ於テ(以下前例ニ同シ)

年月日

舊發行人 氏 名 印

住 所

(發行人死去ノトハ其遺族親戚等ト新發行人ト連署ス)

新發行人 氏 名 印

內務大臣 某 殿

編輯人印刷人變更屆書式

何新聞編輯人(又ハ印刷人)變更屆

舊編輯人(又ハ舊印刷人)氏名

住 所

新編輯人(又ハ新印刷人)氏名

何年何月生本月何年何箇月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏 名 印

內務大臣 某 殿

時期變更屆書式

何新聞發行時期變更屆

一何年何月何日發行、第何號マテハ隔日(若クハ毎年一回又ハ何々)
一何年何月何日發行、第何號ヨリ改メ毎日(若クハ毎週又ハ何々)
右之通變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏 名 印

內務大臣 某 殿

發行所變更屆書式(印刷所變更屆書モ亦本例ニ依ル)

何新聞發行所變更屆

何社(社號ナキモクハ戶主ノ氏名)

府縣國郡區町村番地

何社(社號ナキモノハ戶主ノ氏名)

一新發行所
右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏 名 印

內務大臣 某 殿

出版法及版權法

▲法律第十五號 明治二十六年四月十三日

出版法

第一條 凡ノ機械會密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ
第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ

但シ専ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本ニ部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本ニ部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行運印ニテ之ヲ差出スヘシ

但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ届出ヘシ

第六條 文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル

但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若シ數人ノ共有ニ係ルトキハ營業主其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若シ營業上慣行ノ名稱アルモノハ其名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書籍、通信、報告、社則、規則、引札、啓書、番附諸種ノ用紙、證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス

但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルル者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖畫ノ冊號ヲ追ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖モ若シ改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演説若ハ講義ノ筆記ハ演説者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス

但シ筆記者ニ於テ演説者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者若シ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルルトキハ演説者若ハ講義者筆記者ト同シ其罪ヲ論ス

公會ノ席ニ於テ爲シタル演説ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタル者及總テ演説者講義者ノ承諾ヲ經シテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演説者若ハ講義者ハ著作ノ責任ニ任セム

公開ノ席ニ於テ爲シタル演説ノ外ハ講義者又ハ演説者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス

但シ本項ニ違フモノハ版權法ニ據リ其ノ責任ニ任セム

第十三條 二種以上ノ著作若ハ演説講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者若シ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖畫ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其發行スル文書圖畫ニ記載セズ其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セズ若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ
 住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ
 第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者、印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ルル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス
 第三十條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得
 第三十一條 文書圖畫ヲ出版シテ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シテ證明シタルトキハ其罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ
 第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用非ス
 第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス
 第三十五條 文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖モ其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

▲内務省訓令第二號 明治二十九年二月五日

新聞紙條例第二十條及出版法第十九條ニ據リ新聞紙者クハ刻版及印本ヲ差押ヘタルトキハ當該官廳ニ於テ嚴密ニ封印ヲ施シ發行人若クハ發行者及刻版所有者ヲシテ看守セシムルコトヲ得若シ發行人若クハ發行者及刻版所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ警察官立合ノ上其新聞紙者クハ刻版及印本ヲ破壞セシムルモ妨ナシ
 但明治二十一年(一月)訓令四五號訓令第二項中第五及第四項ハ自今消滅シタルモノト心得ヘシ

▲法律第十六號 明治二十六年四月十三日

版權法

第一條 凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書ヲ圖畫翻刻スルヲ僞版ト云フ
 第二條 出版法ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得
 第三條 版權ノ保護ヲ受ケムト欲スル者ハ發行前登錄料トシテ製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但シ六部ノ定價合シテ五十錢ニ滿サルモノハ五十錢トシ十圓ヲ超ユルモノハ十圓トス
 版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ定價ヲ記載スヘシ版權登錄後定價ヲ增加スルモノハ其ノ未納額ヲ内務省ニ追納スヘシ但シ追納額ハ最初ノ納額ト通算シテ十圓ニ至テ止ム
 第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ムト欲スルトキハ其ノ由ヲ内務省ニ通知スヘシ

第五條 版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記載セサルモノハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條 內務省ニ於テハ版權登錄ヲ備置キ登錄ノ出願アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

第七條 版權ハ著作ニ屬シ著作死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講議者ハ演說ヲ筆記シタルモノ、版權亦同シ

但シ公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權侵害ト認ムルノ限ニ在ラス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス官廳、學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ版權ハ其ノ官廳、學校、會社、協會等ニ屬スルモノトス

二種以上ノ著作者ハ講議演說ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖畫ノ版權編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

但シ其ノ原著者及原筆記ニ別ニ版權所有者アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ部分ニ付本項ヲ適用セス

書畫ノ版權ハ其ノ原本ノ所有者ニ屬スルモノトス

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事故ヲ記シ其ノ再度下附ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得

但シ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ

版權登錄證書ニ誤謬アリタルトキハ其ノ事由ヲ記シ其ノ更正ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得

但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ外ハ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若ハ版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノハ版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス

官廳又ハ學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫並ニ著作者死亡ノ後ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シテ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ追ヒ順次ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ每號其ノ出版ノ月ヨリ起算ス

但シ其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其ノ文書圖畫ヲ改正増減シ又ハ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトナカルヘシ

版權登錄ヲ得タル文書圖畫ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ文書圖畫ノ爲ニ寫シタルモノハ其文書圖畫ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條 版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於テ心要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條 文書圖畫ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出サルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說、記事又ハ小説及二號以上ニ涉ラスト雖モ特ニ一欄ヲ設置頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖畫ヲ偽版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 偽版ノ訴ヘアリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣額布ヲ差止ムルコトヲ得

但シ審理ノ末偽版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其ノ差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關ル損害賠償ノ責ハ偽版者ノ相續者ニ及ブモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯シ増減シ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ

續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者ハ偽版ヲ以テ論ス

他人ノ講議又ハ公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ演說ヲ筆記シ其ノ承諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

- 第二十條 翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ偽版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス
- 但シ其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ証明スルモノハ此ノ限リニアラス
- 第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲故ラニ版權所有ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ模擬シ又ハ氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スルモノハ偽版ヲ以テ論ス
- 第二十二條 著作又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經テ未タ出版セサル文書圖畫ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スルモノ亦偽版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經テ書畫ヲ出版スルモノ亦同シ
- 第二十三條 文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ偽版ヲ以テ論ス
- 第二十四條 内國ニ於テ版權所有ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ偽版ヲ以テ論ス
- 第二十五條 偽版ノ訴アリテ其ノ偽版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ撰ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ
- 第二十六條 偽版ニ關ル損害賠償ノ時効ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スルニ因テ成就ス
- 第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者、販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 偽版ニ關ル刻版及印本ハ其何人ノ手ニ在ルカ問ハス之ヲ沒收シ其ノ既ニ販賣シタル者ハ其ノ賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス
- 第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖モ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ズ違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 但シ著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第二十九條 第三條ノ手續ヲ爲サシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ル
- 第三十一條 此ノ法律ニ關ル告訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス
- 第三十二條 従前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ従前ノ條例ニ依リ計算スルモノトス

脚本樂譜條例

勅令第七十八號 明治二十年十二月廿八日

脚本樂譜條例

- 第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得
- 第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權)ヲ併セ有スルコトヲ得
- 但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ
- 第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得
- 第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作又ハ其相續者ノ承諾ヲ經テシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ
- 第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

寫眞版權條例

勅令第七十九號 明治二十年十二月廿八日

寫眞版權條例

- 第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ
- 第二條 寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス
- 但他人ノ囑托ニ係ルモノハ寫眞版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス
- 囑托ニ係ル寫眞ノ種版ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫眞師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

- 第三條 寫真版權ノ保護ヲ受ケント欲スル者ハ發行前寫真一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出スヘシ
但人物ノ寫真ハ登錄ヲ待タズシテ其保護ヲ受ケルモノトス
- 第四條 版權登錄ノ寫真ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス
- 第五條 内務省ニ於テハ寫真版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ
寫真版權登錄簿ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス
- 第六條 寫真版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス
- 第七條 寫真版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スルコトヲ得
- 第八條 版權ノ保護ヲ受ケル寫真ハ之ヲ複製シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ複製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ摸寫ヲ爲シ及ヒ寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受ケスシテ囑托ニ係ル寫真ヲ複製スルコトヲ得ス
- 第九條 第三條ノ手續ヲナサズシテ版權登錄ヲ許シタルモノハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ偽版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム
損害賠償ノ責ハ其原寫真ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス
- 第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫真又ハ摸寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス
- 第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用非ス

出版及版權ニ關スル願届手續

▲内務省令第七號 明治廿六年四月二十日

出版及版權ニ關スル願届手續等左ノ通り之ヲ定ム

- 第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出スヘシ
- 第二條 出版法第七條第八條ニ依リ文書圖書ノ末尾ニ記載スル文字ハ總テ楷書タルヘシ
- 第三條 他人ノ書畫ヲ臨寫シ若クハ摹寫シ又ハ他人ノ詩文歌ヲ書寫シテ出版スル者ハ其紙面中ニ臨寫者クハ摹寫者誰又ハ書者誰ト記載スヘシ
- 第四條 出版法第十條第一項但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ハ製本中見易キ場所ニ於テ(何年月日内務省許可)ト記載スヘシ
但明治二十年(十二月)勅令第七十六號出版條例第九條但書ニ依リ許可ヲ得タル者亦同シ
- 第五條 版權法第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ豫メ大約一箇年内出版ノ分隨意取束テ版權登錄願出ルコトヲ得
- 第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原書ヲ以テ認メ願届書ニ添付スヘシ
- 第七條 出版願ハ第一書式再(三)版願ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式雜誌版權登錄願ハ第四書式寫真版權登錄願ハ第五書式版權登錄願再度下付願ハ第六書式ニ依ルヘシ
- 第八條 出版法及版權法ニ於テ他人ノ許諾ヲ得ヘキモノニシテ其許諾ヲ得テ出版願出又ハ版權登錄願出ルトキハ其旨ヲ願届書又ハ願届書ニ記スヘシ
- 第九條 非賣ノ文書圖書ヲ出版スル者ハ其願届書並ニ製本中ニ非賣品ト記スヘシ
- 第十條 專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ニシテ出版法第二條但書ニ從ヒ同法ニ依ラント欲スル者ハ第七書式同法第十條第一項ノ但書ニ依リ願出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第八書式ニ依ルヘシ
- 第十一條 版權登錄願ヲ許可スルトキハ第十書式寫真版權登錄願ヲ許可スルトキハ第十一書式ノ證書ヲ下付スヘシ
但毀損紛失等ニ依リ再度下付スル證書ハ第十一書式ニ依ル
- 第十二條 此省令ハ出版法版權法施行ノ日ヨリ之ヲ施行シ明治二十一年(一月)内務省令第號明治二十三年(三月)同省令第一號明治二十五年(三月)同省令第三號ハ同日ヨリ之ヲ廢ス

出版御届

第一書式(用紙美濃紙)

出版及版權ニ關スル願届手續

一書名

全何冊(枚)

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニシテ今般出版條條製本二部相添此段御届申上候也

年月日

住 所

發行者

氏

名 印

住 所

著作者(相續者)氏

氏

名 印

第二書式(用紙同上)
再版御届
内務大臣(爵)何誰殿

一書名

全何冊(枚)

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニシテ何年月日(發行)致候處改正(増減)附録註解繪圖等(相加)今般再版條條製本二部相添此段御届申上候也

年月日

住 所

發行者

氏

名 印

住 所

著作者

氏

名 印

第三書式(用紙同上)
版權登錄願
内務大臣(爵)何誰殿

一書名

全何冊(枚)

此登錄料製本六部ノ定價金何圓錢(六部ノ定價金五十錢ニ滿タサルモノハ登錄料金五十錢ト記載シ其十圓ヲ超ユルモノハ登錄料金十圓ト記載スヘシ)

一書名

全何冊(枚)

右何年月日出版御届致候處版權登錄被下度此段相願候也

年月日

住 所

版權所有者

氏

名 印

第四書式(用紙同上)
雜誌版權登錄(手續省署)願

一書名

第何號 自第何號至第何號(何冊)

一部ノ定價金何圓錢
此登錄料製本(各號)六部ノ定價金何圓錢(金五十錢ニ滿タサルモノハ登錄料金五十錢ト記載シ拾圓ヲ超ユルモノハ登錄料金拾圓ト記載スヘシ)

年月日

住 所

版權所有者

氏

名 印

第五書式(用紙同上)
内務大臣(爵)何誰殿

一書名

第何號 自第何號至第何號(何冊)

一部ノ定價金何圓錢
右ハ何年月日出版御届致候(出版法ニ依リ出版致スヘク)新聞紙條例ニ依リ發行致スヘク(候處版權登錄被下度此段相願候也)

年月日

住 所

編輯者

氏

名 印

印

登記印紙

印

登記印紙

印

登記印紙

右何年月日出版御届致候處版權登錄被下度此段相願候也

住 所

版權所有者

氏

名 印

第四書式(用紙同上)
雜誌版權登錄(手續省署)願

一書名

第何號 自第何號至第何號(何冊)

一部ノ定價金何圓錢
此登錄料製本(各號)六部ノ定價金何圓錢(金五十錢ニ滿タサルモノハ登錄料金五十錢ト記載シ拾圓ヲ超ユルモノハ登錄料金拾圓ト記載スヘシ)

印

登記印紙

印

登記印紙

印

登記印紙

右ハ何年月日出版御届致候(出版法ニ依リ出版致スヘク)新聞紙條例ニ依リ發行致スヘク(候處版權登錄被下度此段相願候也)

住 所

編輯者

氏

名 印

第五書式(用紙同上)
内務大臣(爵)何誰殿

出版及版權ニ關スル願届手續

寫真版權登錄願

一物象ノ名 何枚 一部ノ定價金何圓錢
此登錄料製本六部ノ定價金何圓錢

印

登記印紙

印

登記印紙

印

登記印紙

右何々ノ眞形ヲ寫シタルモノニシテ今般發行致候條版權登錄被下度見本ニ葉相添此段相願候也

年月日

住 所

版權所有者 氏

名 印

第六書式(用紙同上)
內務大臣(爵)何誰殿

(寫眞)版權登錄證番號

全何冊(枚)

一書名(物象ノ名)

此手數料金五十錢

印

登記印紙

右何年月日版權登錄御許可ヲ受ケタル處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登錄證更ニ御下付被下度此段相願候也

年月日

住 所

版權所有者 氏

名 印

第七書式(用紙同上)
內務大臣(爵)何誰殿

學術(技藝、統計、廣告)雜誌御届

第何號

一書名 第何號
右ハ專ラ何々ノ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回發行致スヘキモノニ候處出版法ニ依リ出版條條製本ニ部相添此段御届申上候也

年月日

住 所

編輯者 氏

名 印

住 所

發行者 氏

名 印

第八書式(用紙同上)
內務大臣(爵)何誰殿

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版手續省略願

第何號ヨリ

一書名 第何號ヨリ
右ハ專ラ何々ノ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ毎年(月)何回出版法ニ依リ出版可致候條同法第三條ノ日限ニ不拘其出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノミ相納候條致度此段相願候也

年月日

住 所

編輯者 氏

名 印

住 所

發行者 氏

名 印

第九書式

内務大臣(爵)何誰殿

版權登錄之證

印割

書名

何冊

著者 氏名
版權所有者 氏名

右第 號ヲ以テ版權登錄簿ニ登錄ス

明治年月日

内務省
省印

著者自ラ版權ヲ所有スルトキハ別ニ版權所有ノ氏名ヲ記載セス

第十書式

寫真版權登錄之證

印割

物象ノ名

何枚

撮影者 氏名
版權所有者 氏名

右第 號ヲ以テ寫真版權登錄簿ニ登錄ス

明治年月日

内務省
省印

撮影者自ラ版權ヲ所有スルトキハ別ニ版權所有者ノ氏名ヲ記載セス

第十一號書式

版權登錄之證

書名

何冊

著者 氏名
版權所有者 氏名

右第 號ヲ以テ版權登錄簿ニ登錄ス

明治年月日

内務省

裏

本證書毀損(紛失)再度下附願出ニ依リ此證書ヲ下付ス

印割

明治年月日

内務省
省印

出版及版權ニ關スル願届手續

四六一

四一〇

▲内務省令第二號 明治二十八年四月六日

版權ヲ讓受者クハ買受ケタルトキハ讓受人若クハ賣渡人ノ連署ヲ以テ内務大臣ニ願出版權登錄證書ノ訂正ヲ受ルコトヲ得
但願書ニハ手数料トシテ五十錢ノ登記印紙ヲ貼用スヘシ
書式 (用紙美濃紙)

版權登錄證書訂正願

何年月日出版御届

何年月日版權免許(版權登錄)第何號(版權免許狀又ハ版權登錄證書番號)

一題名

何冊

此手数料金五十錢

登記印紙

右版權ハ何ノ誰所有ニ候處今般拙者ニ於テ買受讓受候條版權登錄證書訂正相成度此段讓(賣)渡人連署ノ上相願候也
年月日

著作者

何

ノ

誰

何府縣何市郡何町何番地

版權讓買受人

何

ノ

誰印

何府縣何市郡何町何番地

版權讓賣渡人

何

ノ

誰印

内務大臣宛

頒曆守札ニ關スル諸達

▲太政官達 明治三年

頒曆授時之儀ハ至重之典章ニ候處近來種々ノ類曆世上ニ流布候趣無謂事ニ候自今弘曆者之外取扱候儀一切嚴禁被仰出候事

▲太政官布達第八號 明治十五年四月廿六日

本曆并各本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ

一枚摺曆曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得

但明治九年(十月)内務省甲第三十九號布達ハ取消ス

右布達候事

▲文部省令第二號 明治二十三年十月三十一日

明治十五年四月太政官第八號布達第二項ニ依リ出版スル處ノ一枚摺曆曆ハ自今左ノ規定ニ依ルヘシ

一 一枚摺曆曆ハ左ニ列記スル事項ニ限リ記載スルモノトス

一年號及紀元ノ年數千支

一 毎月ノ一日

一 日月食並其時間

一 大祭祝日並神社例祭大祓

一 日曜表甲子表庚申表己巳表

一 二十四節氣及雜節

一 新月滿月

一 前各項ニ相當スル陰曆日千支及陰曆ノ朔日千支並ニ之ニ相當スル陽曆日

頒曆守札ニ關スル諸達

以上ノ事項ハ帝國大學ニ於テ編纂スル所ノ曆ニ依ルヘシ
但前各項規定ノ外本曆本層ニ掲載セル事項ヲ記入スルハ此限ニ在ラス

▲内務省乙第五十五號 明治十五年十月十八日

神社寺院之守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル嚮像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相違候事
但從前屆濟ノ分ト雖本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニテハ更ニ申出ツヘシ

集會及政社法

▲法律第十四號 明治二十六年四月十三日

集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ
謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ

政談集會ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

- 一 集會ノ場所
 - 二 集會ノ年月日時
 - 三 發起人ノ氏名住所
 - 四 講談論議者ノ氏名
- 前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收証ヲ交付スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス者ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ノ効ヲ失フモノトス
法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限り會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨ
リ前五十日間ハ第二項ノ届出ヲ要セス

第三條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其通過スヘ
キ線路ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

但シ祭葬、禮社、學生生徒ノ体育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス
屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意思ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由ノ交通ヲ遮斷シタ
ル地域内ニ限ル者トス

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ル間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス

但第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

- 一 日本臣民ニ非サル者
 - 二 公權剝奪及停止中ノ者
- 第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

- 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍人
 - 二 警察官
 - 三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒
 - 四 女子
 - 五 未成年者
- 法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲メニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有
スル者ニ限り本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條 政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者ヲラシムルコトヲ得ス

第八條 警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得
發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關ル事項ニ付キ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

政談集會ニアラサルモ其狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第二項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第九條 集會及ヒ運動ニハ武器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス
但制規ニ依リ武器ヲ携帯スル者ハ此ノ限リニアラス

第十條 集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 會場ニ於テ故ラニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ涉ルモノアルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條 集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
一 集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ
二 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ
三 會衆騷擾ニ涉リ警察官ノ制止スルモ鎮靜セサルトキ
四 第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ
五 集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前項ニ同シ

第十六條 第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會者ハ運動ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第五條第六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及ヒ役員ヲ置クヘシ
政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名社則事務所及役員ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ
役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

第二十二條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ
但會場及講談論議者ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス
其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 左ニ掲グル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス
一 現役及ヒ召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
二 警察官
三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒
四 女子
五 未成年者
六 公權褫奪及停止中ノ者

第二十四條 政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十五條 政社ハ標章及旗幟ヲ用弗ルコトヲ得ス

第二十六條 政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス
 第二十七條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設ケルコトヲ得ス
 第二十八條 政社ニシテ支社ヲ設ケルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル
 第二十九條 結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得
 第三十條 第二十一條ニ違フトキハ其役員ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十一條 第二十一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ同シ
 第三十二條 第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十三條 第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ
 第三十四條 第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用非タル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前條ニ同シ
 第三十五條 第二十六條ヲ犯シタルトキハ其役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十六條 第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十七條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用非ス
 第三十八條 此法律ニ關ル公訴ノ時効ハ六ヶ月ヲ經過スルニ由テ成就ス
 第三十九條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限リニアラス

集會及政社法ニ關スル諸達

▲文部省達第三十八號 明治十四年十二月廿八日

從來學校等ヲ假用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル向モ有之候處其所爲ハ遊興弄戲ニ屬スルモノ並ニ言論ノ猥褻詭激ニ渡ルモノハ教育上妨害少ナカラサル儀ニ付右ニ充用セシメサルハ勿論都テ學校監督上ニ都合無之様取締可致此旨相達候事
 府 縣

▲内閣訓令 明治二十二年一月二十四日

各 官 廳

凡ソ官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ叙述スルコトヲ得
 但長官ノ監督ニ從屬スヘシ
 法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニ在ラス

集會及政社法ニ關スル月報表式

▲内務省訓令第五七八號 明治二十三年九月四日

集會及政社法ニ關スル月報表式自今左之通相定ム
 右訓令ス

明治年月集會及政社法月報	政談ニアラサル集會
政談集會	開會セシ度數
開會セシ度數	臨監
演說セシ人員	解散
届出ノ効ヲ失ヒタル者	一人ノ演說停止
屋外集會ノ認可	司法處分
同上不認可	政社
同上禁止	組成届出
集會ノ臨監	解散届出
集會ノ解散	司法處分
一人ノ演說停止	
司法處分	
備考	

保安條例

勅令第六十七號 明治二十年十二月五日

保安條例

- 第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ
- 內務大臣ハ前項秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯絡通信ヲ阻遏スル爲メニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ遵犯スル者ハ罰前項ニ同シ
- 第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加シ其附隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス集會者ニ兵器ヲ携帯セシメタル者又ハ各自ニ携帯シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ
- 第三條 內亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖書ヲ印刷又ハ版刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收ス
- 印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ガルトコトヲ得ス
- 第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以內ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ內亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察總監又ハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以內同一ノ距離內ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得
- 退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間內ニ退去セサル者又ハ退去シタル後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ附ス監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス
- 第五條 人心ノ動亂ニ由リ又ハ內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ內閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得
- 一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋内外ヲ問ハス又何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事
- 二 新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經シテ發行スルヲ禁スル事

- 三 特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タルモノヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ攜帶運搬販賣ヲ禁スル事
- 四 旅人ノ出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設ケル事
- 第六條 前條ノ命令ニ對スル違反者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重ニ從ヒ處斷ス
- 第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

豫戒令

勅令第十一號 明治二十五年一月廿八日

豫戒令

- 第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ爲スコトヲ得
- 一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者
- 二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
- 三 公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
- 四 第二號又ハ第三號ニ掲ケル妨害ヲ爲ス目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者
- 第二條 豫戒命令ハ左ノ如シ
- 一 一定ノ期限內ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ從事スヘキコトヲ命ス
- 二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
- 三 如何ナル口實ニ拘ラス財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ涉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシムトシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セムトスルノ所行ヲ爲スヘ

保安條例 豫戒令

カラサルコトヲ命ス。

四人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セムトシ又ハ他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セムトスルノ所行ヲ爲サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス
但親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ此限ニアラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條 豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨留住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新住居所轄警察署ニ届出ヘシ

第四條 豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規程ニ違犯シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ所罰ス

第二條第一號ノ違犯者ハ三日以上十日以内ノ拘留ニ處シ又ハ二圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第二號ノ違犯者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス第二條第三號ノ違犯者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違犯者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス第三條ノ違犯者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 豫戒命令ヲ爲スニハ命令書ヲ作り其命令ヲ受ケル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル者タルコト第二條ニ記載シタル命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違犯者ノ罰例並ニ命令ヲ爲シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事氏名ヲ記載シテ本人ニ下付シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ後收ノ情狀若シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 豫戒命令違犯ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得
第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

決闘ニ關スル件

▲法律第三十四號 明治廿二年十二月廿八日

朕決闘罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ミニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪ハ刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

議會並議員保護法

▲法律第二十八號 明治廿二年十一月七日

朕議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

決闘ニ關スル件 議會並議員保護法

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

但シ議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

衆議院議員選舉法及罰則補則

▲法律第三號 明治二十二年二月十一日

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附錄ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其郡長又ハ市長ノ一人ヲ命ジ選舉長タラシム

第四條 一市ノ區域ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長タラシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付キ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其納稅資格ニ算入ス

第三章 被選舉人ノ資格

第八條 被選舉人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 官内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限リハ議員ト相兼メルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白痴ノ者
 二 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
 三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 五 舊法ニ據リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 六 賭博犯ニ依リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 七 選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者
 第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ
 第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス
 第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス
 第五章 選舉人名簿
 第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日迄ニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額并ニ納稅地ヲ記載スヘシ
 第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ
 第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區トナシタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ
 第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ
 第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ
 第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ
 第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票管理スル町村長又ハ市長若クハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若クハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ備置キ其ノ幅本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ
 第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ縦覽シムヘシ
 第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其効ナシ
 限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得
 第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審查シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若シ其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其人ノ記載シ其由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ニ通知シ併テ選舉區内ニ告示スヘシ
 第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審查シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若シ誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ニ通知シ併テ選舉區内ニ告示スヘシ
 第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セザルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ
 第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス
 但シ大審院ニ上告スルコトヲ得
 第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ據置クヘシ
 但シ裁判官渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ニ通知シ併テ選舉區内ニ告示スヘシ
 第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ

但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設ケルニ足ラザルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所并ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ連クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以内ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ輪ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ始メニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被撰人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ中立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印

投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ヰヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス

但シ選舉人名簿ニ記載セラレヘキ裁判官渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票紙ヲ交付シ投票セシメ其由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由チ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サ

ス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲ケル投票ハ無効トス

一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票
但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ

但連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル處ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ

但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限リニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲メニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此ノ限リニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付キ疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ焼捨ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ連名投票ニシテ其選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ

但シ一人ノ姓名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ焼捨ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ

但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者ハ其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタルモノヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ并ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補選

第六十六條 議員ノ任期ハ四年トス

但シ任期ヲ終リタル後仍舊選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ副員アルニ由リ内務大臣ヨリ補選選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ副員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補選議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補欠議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第七十條 凡テ武器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非ラサル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧嘩ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ那役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ揭ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金參百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預ケ置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セザルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタル時ハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各控訴人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セザル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若シ衆議院開會スルトキハ併

セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付キ控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノノ外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手

形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ

得セシメ若ハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタルモノハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サトル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル

者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲ス事ヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以

下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又投票函ヲ扣留毀壞若ハ却奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ

六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十五條 選舉ノ際管理若又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又投票函ヲ扣留毀壞若ハ却奪シタ

ル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕

禁錮ニ處ス犯罪者或器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ

効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 武器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所者ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其餘ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第一百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第一百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第一百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第一百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第一百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツル者ト見做スヘシ

第一百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

(附錄選舉區ハ之ヲ略ス)

▲法律第四十號 二十三年五月二十九日

衆議院議員選舉法罰則補則

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍者ハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場者クハ投票所ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲メニ選舉會場者クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シ及其代辦又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ヌ又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組シテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴シ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ケルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選舉人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四條ノ例ニ依ル

府縣會議員選舉規則及罰則適用

▲法律第六號 明治二十二年二月二十六日

府縣議員選舉規則

- 第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ
- 選舉人名原簿ニハ選舉人ノ姓名住所生年月納ムル所ノ地租ノ總額并ニ其納稅地ヲ記載スヘシ
- 第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシテ其役場管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ
- 第三條 區長毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ選舉人名簿ヲ調製スヘシ
- 選舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ
- 第四條 府縣會議員選舉規則第十三條ノ年齡及ヒ年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地稅納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ
- 但家督ニ依リ財產ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ
- 第五條 選舉人ノ住居スル區町村ノ外ニ於テ地稅ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證狀ヲ添ヘ選舉人名原簿調製ノ期日マテニ其住居地ノ戶長ニ届出ヘシ
- 前項ノ届出ヲ爲サル納稅額ハ選舉及被選舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス
- 第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役場管内ノ選舉人名原簿及ヒ選舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ
- 但シ關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ
- 第七條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ於テ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ
- 第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其中立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ
- 但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ
- 第九條 前條審判ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得
- 第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス

但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 選舉人名簿ハ十月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ據置クモノトス

但裁判言渡シニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其ノ由ヲ管内ニ告示スヘシ

但シ郡ニ在テハ仍當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ選舉ヲ行フ前ニ於テ選舉權ヲ失ヒ若ハ選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

毎年確定ノ選舉人名簿ハ臨時ノ補欠選舉ニモ之ヲ使用スルモノトス

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ

但シ解散及ヒ補欠選舉ノ場合ハ此限りニ非ラス

前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會議ノ議決ヲ取リ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日選舉開會并ニ投票開閉ノ時刻選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補欠員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

選舉開會ヨリ投票開閉迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 區郡長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ

選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其ノ會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セザルトキハ參會ノ選舉人中ヨリ最

議會並議員保護法

多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其欠ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會場トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票開鎖ノ時刻ニ至ルマテ何時タリトモ到着順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉録並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ

投票函ハ投票ニ先チ彙集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用非投票ノ當日選舉會場ニ備ヘ置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ用紙ハ正議員ノ外補欠員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補欠員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ら投票ヲ行フヘシ代人ニ托スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ

但氏名ノ外住所若クハ位階勳章其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ケナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルハ選舉會場長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ら是ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル旨ヲ申立ルトキハ選舉會場長ハ書記ヲシテ代書セシメ是ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス

但會場監視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス

但記載セラレヘキ裁判官渡書ヲ持所シテ參會スル者ハ此限リニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧嘩ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會場長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ

但シ其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルコトヲ得

選舉會場長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル時ハ選舉會場長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票開鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會場長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セザリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票開鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會場長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿ヲ記入セシムヘシ

前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部無効ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會場長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入并ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會場長并ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會場長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タルモノヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ查定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用非其當選ヲ定ムヘシ

但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其查定ヲ延スコトヲ得分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス

當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點數者ヲ以テ當選ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ

當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢済ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會場長立會人并ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訴訟又ハ告訴發見アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉録中ニ記入スヘシ

- 一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
 - 二 選舉會長及ヒ書記ノ氏名
 - 三 立會人住所氏名
 - 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其願末
 - 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其願末
 - 六 投票函閉鎖ノ時刻
 - 七 各被選舉人ノ得點數
 - 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
 - 九 選舉閉會ノ時刻
 - 十 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項
- 當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ
- 第四十條 選舉録ニハ選舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ
- 第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セザルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル
- 第四十二條 左ノ投票ハ無効トス
- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票
 - 二 成規ノ用紙ヲ用非サル者
 - 三 選舉人又被選舉人ノ氏名ヲ記載セザルモノ
 - 四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
 - 五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ

但位階勲章其他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス

六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ

但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍其効アリトス

七 被選舉權ナキモノヲ記載シタルモノ

但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍其効アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六條第七條ニ觸ル

モノアルト否トナ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ一人ノ代名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其

投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ開キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其定決ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議

ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣潤ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ

府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域并ニ會場

ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續キ會場ノ取締選舉録ノ記載等ハ總テ

本會ニ準スヘシ

但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ

立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ望ムモノアルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待テ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ區郡長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

當選者ヲ辭シタル者アルトキハ區郡長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ區郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ是ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補欠員ヲ増選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但シ投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補缺員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補缺員當選ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スルヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但シ判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ

但此ノ場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉會全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ選舉規定ニ違フ場合ニ限ル

但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ス限ニ在ラス選舉會全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齡其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其

被選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告グスシテ當選者ト爲リタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者亦同シ

第六十一條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ脅嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以上ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ囂聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知り囂聚ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附 則
明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ラス選舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ名簿調製前議員ノ選舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本則ニ依ルヘシ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

▲法律第四十一號 明治二十三年五月二十九日

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用ス
但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二項ニ衆議院
議員選舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス
府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セス

市町村會議員選舉罰則

▲法律第二十九號 明治二十三年五月二十九日

市町村會議員選舉罰則

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員ト爲リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ者クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ禁止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手
形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ
第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル
爲メ車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス
其供給ヲ受ケタル者亦同シ
第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲メニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スル

コトヲ約束シタルモノハ第二條金錢授與ノ例ニ據リ處斷ス

其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐偽ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨
害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以
上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票處ヲ扣留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上
二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票處ヲ扣留毀壞若クハ劫奪シ
タル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者或器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲メ多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓
法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用非ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ケルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下
ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ヲシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 第十五條 戒器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス
- 第十九條 本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條アルモノハ各其本條ニ依リ重キニ從テ處斷ス
- 第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六ヶ月ヲ以テ期滿免除トス
- 第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制并ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

勳章又ハ各種ノ記章佩用取締方

勅令第百十八號 明治二十八年八月十六日

勳章又ハ勅命ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章ニ類似ノ標章ハ何等ノ形狀ヲ問ハス公然佩用スルコトヲ得ス者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

外國ノ勳章記章并ニ日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ因リ變更スルノ限ニアラス

通貨及證券模造取締法

法律第二十八號 明治二十八年四月二日

通貨及證券模造取締法

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

- 第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ
- 第四條 第一條ニ掲ケタル物件ハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

賈造金銀銅貨紙幣等取扱規則

▲布告第五十七號 明治九年四月十九日

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節賈造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

賈造金銀銅貨紙幣等取扱規則

- 第一條 新金銀銅貨紙幣等賈造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其面前ニ於テ斷截シ連ニ其最密「警察出張所」或ハ「屯所」或ハ區戶長ニ差出シ其額未チ中立ツヘシ若シ官廳ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ
- 但持主立會ハサルトキハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ連ニ遞送主ヘ報告スヘシ
- 第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ收入ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞フヘシ
- 第三條 若シ正貨定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋品ハ第一條ニ依ル
- 第四條 古金銀貨幣賈造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ
- 第五條 賈造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ中立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

▲大藏省乙第四十號 明治九年五月八日

通貨及證券模造取締法 賈造金銀銅貨紙幣等取扱規則

以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 第十五條 戒器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス
- 第十九條 本法ニ規定シタルモノハ外刑法ニ正條アルモノハ各其本條ニ依リ重キニ從テ處斷ス
- 第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六ヶ月ヲ以テ期滿免除トス
- 第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制并ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

勳章又ハ各種ノ記章佩用取締方

勅令第百十八號 明治二十八年八月十六日

勳章又ハ勅命ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章ニ類似ノ標章ハ何等ノ形狀ヲ問ハス公然佩用スルコトヲ得ス犯ス者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

外國ノ勳章記章并ニ日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ因リ變更スルノ限ニアラス

通貨及證券模造取締法

法律第二十八號 明治二十八年四月二日

通貨及證券模造取締法

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

- 第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ
- 第四條 第一條ニ掲ケタル物件ハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

賈造金銀銅貨紙幣等取扱規則

布告第五十七號 明治九年四月十九日

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ傭入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節賈造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

賈造金銀銅貨紙幣等取扱規則

- 第一條 新金銀銅貨紙幣等賈造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄「警察出張所」或ハ「屯所」或ハ區戶長ニ差出シ其願末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ
- 但持主立會ハサルトキハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ
- 第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換テ乞フヘシ
- 第三條 若シ正貨定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通川ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋品ハ第一條ニ依ル
- 第四條 古金銀貨幣賈造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ
- 第五條 賈造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

大藏省乙第四十號 明治九年五月八日

通貨及証券模造取締法 賈造金銀銅貨紙幣等取扱規則

太政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ掲載ノ通り鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改入ヨリ其同等ノ品ト引換相渡其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞フハ該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準「豫備金」ヨリ繰替引渡進シ追テ右改入ヨリ差出セシ書面ヘ現札ヲ添ヘ「紙幣察」ヘ交換申出ヘシ尤モ交換手数料ハ別段下與不致義ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混雜區別可致候此旨相違候事(十四年第五十五號太政官達ヲ以テ豫備金ヲ廢ス)

但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ拾圓ニ拾錢ヲ貳拾錢ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖モ質摸ノモノニ付右ハ假札ヲ以テ處分可致候

▲大藏省乙第六十八號 明治九年七月廿六日

府 縣

本年第五十七號ヲ以テ公布相成候價造金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條鑑定ヲ誤リ斷截シタル正貨幣ノ義ハ昨八年當省乙第三十號達流通不便ノ金銀貨幣交換手續書ニ據リ金貨并貿易銀貨ハ第七條ニ準シ五十錢以下ノ銀貨并銅貨ハ第九條ニ準シ鑑定者ニ限リ交換可取計尤モ右交換セシ各貨幣ハ同書第十條第十一條ノ通處分可致此旨相違候事

但各廳ニ於テ鑑定方申付置候銀行又ハ爲換方ノ者誤斷截致シ候節ハ一時他ノ鑑定人雇入レ令秤量候ハ勿論ニ候得トモ萬一他ニ可雇入者無之節ハ各廳ニ於テ直ニ秤量致シ成規ノ通り手数料取立毎年五月限リ明細書相添ヘ當省ヘ上納可致候事

▲大藏省乙第四十號 明治十四年十一月五日

府 縣

銀行紙幣價造札描改札處分ノ義ハ明治九年(四月)第五十七號布告及同年(五月)當省甲第十二號布達同年(五月)當省乙第四十號達ニ準據候義勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添ヘ銀行局ヘ可雇出候ト可相心得且又第五十七號布告規則第二條等ニ據リ引換ソヘキ正紙幣ヲ改入ヨリ差出候トキハ其接近地ニ設立スル國立銀行本支店(其紙幣ヲ發行セシ銀行ニアラサルモ)ヘ下付シテ交換セシメ代リ金ハ該銀行ヨリ直チニ其改入ヘ交付可爲致此旨相違候事

描改紙幣納付方

▲大藏省達甲第十二號 明治九年五月十八日

本年(四月)太政官第五十七號公布價造金銀銅貨紙幣等取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等價造品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五圓二圓ト壹圓半圓ト二拾錢拾錢何レモ堅横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ二拾錢或ハ半圓ニ變換セシ數比々右之右ハ素ヨリ製製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハ裏面ノ紋色(別紙ノ通各種種ニ裏面ノ紋色ヲ分ツ)及ヒ描改ノ証ヲ所持人ヘ明示シ其儘警察出張所等へ差出同所ニ於テハ右紙幣ノ原因其外取札處分相濟候ハ引揚々切ニ取計「紙幣察」ヘ相納候儀ト可相心得此旨相違候事

- 百圓札 裏面淡紅地ニ紋色深紅
- 五拾圓札 同 淡青地ニ同ニ深青
- 拾圓札 同 淡紅地ニ同 紫
- 五圓札 同 淡黑地ニ同 青
- 貳圓札 同 橙黃地ニ同 茶褐色
- 壹圓札 同 淡青地ニ同ニ深青
- 半圓札 同 白地ニ同 淡褐色
- 貳拾錢札 同 白地ニ同 青
- 拾錢札 同 白地ニ同 綠(十九年勅令第五十號ヲ以テ通用廢止)

▲大藏省令第二十八號 明治十九年九月二日

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ價造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ昨明治九年(四月)第五十七號布告價造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年(五月)當省甲第十二號布達ニ準據スヘシ

但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店ヘ引換ヲ請フヘシ

▲大藏省訓令第四十二號 明治十九年九月二日

當省令第二十八號寶造及描改ニ係ル兌換銀行券取扱方ノ儀ハ尙ホ明治十四年(十一月)當省乙第四十號達ニ準據スヘル
北海道廳 府 縣

▲勅令第三十六號 明治二十年七月廿三日

渡入紙製造取締規則

- 第一條 文字畫紋ヲ滲入シタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二條 紙幣兌換銀行券公債証券大藏省証券其他政府發行ノ証券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ滲入シタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

▲大藏省令第十二號 明治二十年八月十六日

文字畫紋ヲ滲入シタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品ニ葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ届書ニ通テ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ニ遞達スルモノトス

雛形(用紙半紙)

滲入紙製造届

一何々滲入紙

右製造仕候間現品相添此段御届仕候也

年月日

頭府廳長官宛

貫

何

某印

第三編 風俗

第一章 料理屋飲食店取締規則

○縣令第八十四號 明治廿一年六月廿六日

料理屋飲食店取締規則左之通相定ム

但現營業者ハ來ル七月三十一日迄ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

料理屋飲食店取締規則

- 第一條 料理屋又ハ飲食店ノ營業ヲ爲ス者ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第二條 前條ノ營業者ニシテ廢業若クハ轉居改氏名代換等アルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第三條 客ノ求メタリトモ夜十二時後日出迄ノ時間ハ歌舞音曲ヲナサシムヘカラス
- 第四條 前條ノ時間ハ客又ハ藝妓ヲ止宿セシムヘカラス
- 第五條 客ノ求メタリモ藝妓營業者ニ非サルモノヲシテ之ニ紛ハシキ所業ヲ爲サシムヘカラス
- 第六條 營業上ニ付テハ家屬雇人ノ過失ト雖營業者其責ニ任スヘシ
- 第七條 酌婦ヲ雇人レ使用セントスルトキハ原籍氏名年齢ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 但臨時多人數ノ宴會アル場合ニ於テ一時限リ使用スルモノハ此限ニアラス
- 第八條 前條ニヨリ認可ヲ受ケタル酌婦ヲ解雇シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第九條 酌婦ニシテ風俗ヲ紊スヘキ所爲アリト認ムルモノハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

料理屋飲食店取締規則

明治二十九年
四月縣令第三
十四號ヲ以テ
第七條以下改
正追加

第十條 本則第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

一現在ノ酌婦ヲ繼續使用セントスルモノハ來ル明治二十九年五月三十日迄ニ本則第七條ノ手續ニ依リ届出テ認可ヲ受クヘシ違フモノハ同第十條ニ依リ處分ス

第二章 貸座敷及娼妓

貸座敷娼妓營業取締規則

○縣令第四十二號 明治二十五年六月九日

貸座敷娼妓營業取締規則左之通改正ス

但明治十六年^{十二月}大阪府乙第百八十四號達明治十八年^{六月}大阪府乙第七十二號達ハ適用セス

第一章 貸座敷

第一條 貸座敷

第一條 貸座敷トハ娼妓ヲ營業セシムル場所ヲ云フ

第二條 貸座敷營業ハ左ノ區域内ニ限ル

奈良町 東木辻
瓦堂

郡山町 大字洞泉寺
大字東岡

第三條 貸座敷營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第四條 廢業又ハ改氏名等ノ異動アルトキハ三日以内ニ届出ヘシ

第五條 寄寓娼妓ノ營業ニ關スル願届書ニハ連書スヘシ

第六條 娼妓疾病ニ罹リタルトキハ強テ客ノ招キニ應セシムヘカラス

第七條 娼妓失踪シ若クハ復歸シ又ハ死去シタルトキハ速ニ届出ヘシ

第八條 學校ノ徽章アル服裝ヲ着シタル生徒及十六歲未滿ノ男子ニ遊興セシムヘカラス

第九條 遊興代ノ抵償トシテ遊客ノ所持品ヲ預リ又ハ受領スルトキハ其物品ヲ詳記セル書面ヲ以テ所轄警察署ニ届出公認ヲ受クヘシ

第十條 娼妓ハ可成速ニ正業ニ復セシムルコトニ注意シ正當ノ理由ナクシテ廢業又ハ轉居ヲ拒ムヘカラス

第十一條 娼妓ニ店ヲ張ラセ又ハ通行人ニ強テ遊興ヲ勸誘スヘカラス

第十二條 遊客ニ面會ヲ要ムル者アルトキ之ヲ隱秘シ又ハ指名シテ遊客ノ有無ヲ聞ク者ニ對シ虛偽ノ答ヲ爲スヘカラス

第十三條 遊客人名簿ヲ設ケ遊興者ノ住所氏名職業年齡容貌ヲ記シ置キ警察官吏ノ檢閲ニ供スヘシ

第十四條 娼妓營業ヲ爲スハ貸座敷營業區域内ニ限ル

第二章 娼妓

娼妓營業ヲ爲スハ貸座敷營業區域内ニ限ル

娼妓營業ヲ爲スハ貸座敷營業區域内ニ限ル

貸座敷娼妓營業取締規則

明治廿八年八月
月縣令第五十八
二號ヲ以テ第十
二條改正

第十五條 娼妓ハ滿十六歲以上ニシテ其營業ニ堪ル者ト認ムルニアラサレハ之ヲ許可セズ

第十六條 娼妓營業ヲ爲サントスル者ハ其事由ヲ詳記シ父母又ハ最近ノ親戚(父母親戚ナキモ)ニ名以上ノ連署及市町村長ノ與書ヲ爲シタル願書ニ戶籍寫貸座敷主トノ契約書寫ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出免許鑑札ヲ受ケ客席ニ出ルトキハ之ヲ携帶スヘシ

第十七條 改氏名等ニテ鑑札面ニ異動ヲ生シ又ハ鑑札ヲ遺毀シタルトキハ速ニ届出鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請ヒ廢業スルトキハ其旨届出鑑札ヲ返納スヘシ

第十八條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ營業地ノ區域外ニ宿泊スヘカラス但宿泊ヲ要セサル場合ハ取締人ノ他出券ヲ得テ外出スルコトヲ得

第十九條 病氣其他ノ事故ニテ休業スルトキハ鑑札ヲ添ヘ其旨所轄警察署ニ届出復業スルトキモ亦届出鑑札ノ下付ヲ請フヘシ

第二十條 貸座敷主ニ於テ不當ノ出費ヲ強ヒ又ハ苛酷ノ取扱アルトキハ直ニ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十一條 遊客ヨリ金品ヲ預リ又ハ貰ヒ受ケタルトキハ速ニ貸座敷主ニ告知スヘシ

第二十二條 一週日間ニ一回指定ノ日時検査所ニ於テ身體ノ検査ヲ受クヘシ
開業ノトキ又ハ一週日間以上休業等ニテ定期ノ検査ヲ受ケサリシ者ハ更ニ身體検査ヲ受クルニアラサレハ客ニ接スヘカラス

但癩毒傳染ノ兆候ヲ感スルトキハ期日ニ拘ラス速ニ検査ヲ受クヘシ

第三章 取締人

第二十三條 貸座敷營業者ハ免許地區域毎ニ組合ヲ立テ取締人ヲ撰定シ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ但同一警察署所轄内ニ在リテハ二ヶ所ノ免許地合併シテ之ヲ設クモ妨ナシ

第二十四條 取締人ハ貸座敷娼妓營業ニ關スル願届書ニ連署スヘシ

第二十五條 娼妓他出券ヲ求ムルモ等アルトキハ事由ヲ推問シ外出セサルヲ得サル者ト認メタルニ於テハ之ヲ附與スヘシ

第二十六條 貸座敷組合ニ於テハ左ノ事故ニ係ル規約ヲ設ケ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

一 娼妓營業ニ關スル貸座敷主ト寄寓娼妓トノ契約方法

二 取締人ノ任期給料及撰定方法

三 取締人ノ取扱事務方法

四 紹介人ノ手数料

五 娼妓揚ケ代金

六 組合諸般ノ經費收支方法

七 前各項ノ外營業上必要ノ條件

第二十七條 組合諸般ノ經費ハ毎月分決算シ翌月三日迄ニ届出ヘシ

第四章 紹介人

第二十八條 紹介人タラントスル者ハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 娼妓營業セントスルモノヲ紹介スルトキハ其事由及本籍等ヲ問糺シ止ヲ得サル者ニアラサレハ紹介スヘカラス

第三十條 手数料ノ外種々ノ名義ヲ以テ不當ノ金錢ヲ貪ルヘカラス

第三十一條 紹介シタル娼妓ノ營業願書ニ連署スヘシ

第五章 罰則

第三十二條 第三條第四條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十四條第十七條第十八條第十九條
第二十二條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料
ニ處ス

附則

一 從來ノ營業者及取締人紹介人ハ仍ホ其効ヲ有ス

○達第三十二號 明治二十五年六月九日 貸座敷娼妓紹介人營業取扱手續

警察署 警察分署

貸座敷娼妓紹介人營業取扱手續左之通相定ム
右相達ス

第一條 貸座敷及娼妓ノ營業願ヲ受ケタルトキハ事實調査ノ上許可スヘシ
但娼妓營業願ヲ許可スルトキハ攤形ニ從ヒ鑑札ヲ下付スヘシ

第二條 娼妓願ヲ許可セサルトキハ其住所氏名年齢及許可セサル理由ヲ管内免許地ノ所轄警察署ニ通
知スヘシ

第三條 遊興代抵償品ノ公認ヲ請フ者アルトキハ事實調査ノ上差支ナキモノト見認メタルニ於テハ其
届書ニ年月日及公認ノ文字ヲ記入シ檢印ノ上下付スヘシ

第四條 取締人又ハ紹介人ヲ定メテ届出タルトキハ事實調査ノ上不都合ナシト見認メタルモノハ認可
スヘシ規約ノ届ヲ受ケタルトキ亦同シ

第五條 開廢業及住所身分ノ異動等ハ其時々營業名簿ニ記載スヘシ
免許鑑札攤形
厚紙製 豎二寸八分 横一寸六分

何警第何號	娼妓免許鑑札
住所	業名氏名
裏	署印
年	月
	日

貸座敷娼妓開廢業其他營業停止等ノ日數通知方

○訓乙第六號 明治二十八年五月六日
今般貸座敷及娼妓賦金取扱順序改定相成候條自今貸座敷娼妓ノ開廢業住所身分ノ異動及惡疫流行其他
ノ事故ニヨリ營業ノ停止又ハ犯罪ニヨリ拘留若クハ失踪并鑑札假納中ノ日數ハ其時々其所轄那役所へ
通知セラルヘシ此段及訓示候也

貸座敷娼妓紹介人營業取扱手續 貸座敷娼妓開廢業其他營業停止等ノ日數通知方

▲附

徵毒檢查方法施設方

▲內務省乙第四十五號 明治九年四月五日

府 縣

傳染病毒ノ最酷厲ナルモノハ徵毒ヨリ甚シキモノ無之其禍源ハ專ラ娼妓貸座敷遊藝場所ハ必檢査方法施設可致處其方法モ無之取締不充分ノ向モ不敷哉ノ趣右ハ衛生上最緊要ノ事ニ付篤ク注意致シ方法施設取締行届候様可致此旨相達候事
但從來施行致居未タ不届出分并ニ自今施設致候分共方法取締當省へ可中出事

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金編入及支辨方

▲閣令第十二號 明治二十一年八月七日

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ地方稅雜收入ニ編入スヘシ
警察機密費(高等警察ニ屬スルモノヲ除ク)ハ警察費中ノ一科目トシ檢査費ハ衛生病院費中ノ一科目トシ地方稅ヨリ支辨スヘシ

第三章 藝妓

藝妓營業取締規則

○縣令第三十八號 明治二十五年五月三十一日

藝妓營業取締規則左之通相定ム

藝妓營業取締規則

- 第一條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ最近親戚ノ連書シタル書面ニ戶籍寫ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二條 廢業セントスル者ハ免許鑑札ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ
- 第三條 免許鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ轉居其他ノ事故ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ速ニ鑑札ノ下付又ハ書換ヲ願出ヘシ
- 第四條 藝妓ハ所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ得タル土地ニアラザレバ住居スルコトヲ得ス
- 第五條 客席ニ出ルトキハ必ス免許鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第六條 免許鑑札ハ貸與スヘカラス
- 第七條 遊客ニシテ不相應ノ金錢ヲ所持シ又ハ不審ノ舉動アル片ハ速ニ警察官吏へ密告スヘシ
- 第八條 本則第七條ヲ除ク外各條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ或拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

藝妓營業取扱手續

○達第二十九號 明治二十五年五月三十一日

警察署 警察分署

藝妓營業取扱手續左之通相定ム

右相違ス

藝妓營業取扱手續

- 第一條 藝妓營業願出タルトキハ事實調査ノ上許否スヘシ
- 第二條 藝妓營業願ヲ許可スルトキハ雛形ニ據リ免許鑑札ヲ下付スヘシ
- 第三條 開廢業其他改氏名等異動アル毎ニ營業名簿ニ記入スヘシ

免許鑑札雛形

表

何警第何號
藝妓免許鑑札
住所
氏名

厚紙製 一 縦二寸八分 一 横一寸六分

署印
年
號
月
日

藝妓居住區域

○達第三十號

明治二十五年五月三十一日

藝妓營業取締規則第四條ニ據ル處ノ住居區域ハ當分ノ内奈良町及郡山町ハ遊廓區域内ニ限リ其他ハ料

警察署 警察分署

理店ニ限ル義ト心得ヘシ

●參照保安課長通知

●保乙第四百四十四號

明治二十五年六月八日

藝妓ニ下付スル免許鑑札ニハ藝名ヲ附記スルコトニ決定相成候條右様御取計相成度此段及御通知候也

▲附

人身賣買禁止及賣淫取締ニ關スル諸達

▲布告 明治三年八月十三日

各港在留ノ支那人共竊ニ童男女ヲ買取り海外へ運越奸計相企候者有之既ニ捕押ニ相成ニ付追テ嚴重ノ御處置可有之候得共元來外國人ニ御國民ヲ賣渡候義ハ第一御國體ニ於テ不相濟事ニ候間向後地方官ニ於テ管内屹度取締相立教育行届候様厚相心得可申此旨相違候事

▲布告第五十五號 明治五年十月二十五日

各港在留ノ支那人共我國民ノ幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去ル庚午八月中相違候得共未タ右様ノ所業致候者モ在之哉ノ趣キ畢竟内國人ヨリ賣渡候故支那人ニ於テモ買取本國へ連行販賣スルニ至候次第ニテ御國禁ヲ犯シ不容易儀ニ付向後右等不心得ノ者在ラハ嚴重處置ニ可及候間地方官ニテ管内取締厚ク可加教育候事

▲内務省訓示 明治十七年一月十五日

清國人へ幼男女ヲ賣渡ス者取締方ノ儀ニ付テハ曾テ公布公達及ヒ刑法第三百四十五條罰例ノ旨モ有之其違犯者ハ相當處分可致ハ勿論ニ候處行政警察ノ旨趣ニ依リ其未然ニ先タチ周密注意ヲ加ヘ勉メテ舊來ノ陋弊ヲ洗除候様可致此旨訓示候也

藝妓居住區域

▲布告第二百九十五號 明治五年十月二日

一人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ居使致シ候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公住爲致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以テ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事

一農工商ノ諸業習熟ノタメ弟子奉公爲致候儀ハ勝手ニ候得共年限滿七年ヲ過ク可カラサル事

但雙方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルヘキ事

一平常ノ奉公人ハ一ヶ年宛タルヘシ尤モ奉公取續者ハ證文可改事

一娼妓藝妓等年期奉公人一切解放可致右ニ付テノ貸借訴訟總テ不取上候事右之通被相定候迄度可相守ノ事

▲司法省布達第廿二號 明治五年十月九日

本月二日太政官二百九十五號ニテ被仰出候次第ニ付左ノ件々可心得事

一人身ヲ賣買スルハ古來制禁ノ處年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同様ノ所業ニ至ルニ付娼妓藝妓等雇人ノ資本金ハ賍金ト看做ス此故ニ苦情ヲ唱フル者ハ取糺ノ上其金ノ全額ヲ可取揚事

一同上ノ娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失フ者ニテ牛馬ニ異ラス人ヨリ牛馬ニ物ノ返辦ヲ求ムルノ理ナシ故ニ從來同上ノ娼妓藝妓へ借ス所ノ金銀并ニ賣掛滯金等ハ一切償ルヘカラサル事

但本月二日以來ノ分ハ此限ニアラス

一人ノ子女ノ金銀上ヨリ養女ノ名目ニ爲シ娼妓藝妓所業ヲナサシムルモノハ其實際上則チ人身賣買ニ付從前今後可及嚴重處置事

▲布告第二百二十八號 明治八年八月十四日

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ候ハ勿論ニ候處地方ニヨリ間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事

但期限ヲ定メ工作便役等勞力ヲ以テ賃借ナ價フハ此限ニアラス

▲太政官達 明治四年四月三十日

民部省

近來各地方賣女渡世ノ者漸次繁殖致シ其弊害不鮮殊ニ穢毒傳染人身ノ健康ヲ害シ候ニ付小官縣建言ノ次第モ有之風俗人軀ニ關係シ尤モ注意可致事ニ候條地方官ニ於テ屹度除害之施設相立候條其旨ヨリ可相達候事

醜業婦渡航取締方

▲外務省訓令第一號 (內務大臣連書) 明治二十六年二月三日

警視廳 北海道廳 府 縣

近來不真ノ徒各地ヲ徘徊シ甘言ヲ以テ海外ノ事情ニ誑キ婦女ヲ誘惑シ送ニ種々ノ方法ニ因リテ海外ニ渡航セシメ渡海ノ後ハ正業ニ就カシムルコトヲ爲サス却テ之ヲ強迫シテ醜業ヲ營マシメ若クハ多少ノ金錢ヲ貪リテ他人ニ交付スル者アリ之カ爲メニ海外ニ於テ言フニ忍ビサルノ困難ニ陷レル婦女道々増加シ在外公館ニ於テ救護ヲ勉ムト雖モ或ハ遠隔ノ地ニ在リテ其所在ヲ知ルニ由ナク困難ニ陷レル婦女モ亦種々ノ障礙ノ爲メニ其事情ヲ出訴スルコト能ワサルモノ多シ依テ此等誘惑渡航ノ途ヲ杜絶シ且ツ婦女ヲシテ妄リニ渡航ヲ企圖セシメサル様取計フヘシ

第四章 興行

諸興行取締規則

○縣令第六十二號 明治二十五年七月十四日

諸興行取締規則左之通相定ム

藝妓居住區域

諸興行取締規則

諸興行取締規則

第一章 劇場

第一條 劇場ヲ新設又ハ改造セントスルトキハ町村長ノ與印ヲ受ケタル願書ニ仕様書圖面四隣一町以內地主家主ノ承諾書(改造ハ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受ケ廢場スルトキハ届出ツヘシ)ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受ケ廢場スルトキハ届出ツヘシ

建造落成シタルトキハ使用前ニ届出検査ヲ受クヘシ
検査ノ上仕様書ニ違ヒ又ハ不堅牢ト認ムルトキハ改造又ハ修繕ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二條 劇場ノ構造ハ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

- 一 構造ハ總テ堅牢ヲ主トスルコト
- 二 通常出入口ノ外三ヶ所以上ノ非常口ヲ設ケ總テ扉ヲ外開キニスルコト
- 三 窓牖ハ六ヶ所以上設クルコト
- 四 二階棧敷ハ二ヶ所以上ノ梯子巾三尺以上ヲ設クルコト
- 五 警察官吏ノ監臨席ヲ設クルコト

第三條 劇場ヲ一時假設シ興行セントスルトキハ町村長ノ與印ヲ受ケタル願書ニ地主又ハ家主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

但此場合ニ於テハ便宜ノ構造ヲ爲スコトヲ得ト雖トモ可成前條ノ制限ニ準據スヘシ

第四條 劇場ハ一坪ニ付八人(十二歳未満ハ二人ヲ以テ一人ト算シ三歳未満ハ算入セズ)ノ割合ヲ以テ看客ノ員數ヲ定メ所轄警察署ノ認可ヲ受ク可シ

看客ノ定員及木戸錢場代ハ見易キ所ニ揭示スヘシ

第五條 劇場ニハ火防器械ヲ備ヘ置クヘシ

第六條 劇場構内ハ時々掃除ヲ爲シ便所ニハ防臭劑ヲ散布スヘシ

第七條 演劇興行ヲ爲サントスルトキハ其場所日限木戸錢場代等ヲ記シ町村長ノ與印ヲ受ケタル願書ニ仕組帳藝人鑑札及小屋主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

止業等ニテ日時ヲ變更セントスルトキハ届出ヘシ

第八條 劇場ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス

- 一 勸善懲惡ノ趣意ヲ失スルコト
 - 二 風俗ヲ紊スノ所爲ニ涉ルコト
 - 三 興行中看客ヲ樂屋ニ入ラシメ若クハ藝人ヲ看客席ニ入ラシムルコト
 - 四 看客ニ對シ種々ノ名義ヲ以テ出金ヲ促スコト
 - 五 定員外ノ看客ヲ入ル、コト
 - 六 看客ノ席ヲ暗黒ニスルコト
 - 七 木戸番等ニ於テ強テ參觀ヲ勸ムルコト
- 第九條 演劇興行ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス
但非常烈風ノトキ又ハ演藝ノ所作風俗ヲ紊リ若クハ治安ニ害アリト認ムルトキハ本條時間ニ拘ラズ警察官吏ニ於テ一時興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章 寄席

第十條 寄席ヲ新設又ハ改造セントスルトキハ町村長與印ヲ受ケタル願書ニ仕様書圖面四隣一町以内地主家主ノ承諾書(改造ハ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受ケ廢場スルトキハ届出ヘシ)ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受ケ廢場スルトキハ届出ヘシ
建造落成シタルトキハ使用前届出検査ヲ受クヘシ

検査ノ上仕様書ニ違ヒ又ハ不堅牢ト認ムルトキハ改造又ハ修繕ヲ爲サシムルコトアルヘシ

- 第十一條 寄席ノ構造ハ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ
 - 一 構造ハ總テ堅牢ヲ主トスルコト
 - 二 通常出入口ノ外ニケ所以上ノ非常口ヲ設ケ總テ扉ヲ外開キニスルコト
 - 三 窓牖ハ四ヶ所以上設ルコト
 - 四 二階樓敷ハ二ヶ所以上ノ梯子ヲ設クルコト
 - 五 警察官吏ノ監臨席ヲ設ルコト

第十二條 寄席興行ヲ爲サントスルトキ其場所日限木戸錢場代種類等ヲ記シ町村長ノ奥印ヲ受ケタル願書ニ鑑札及小屋主ノ承諾書ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

止業等ニテ日時ヲ變更セントスルトキハ届出ヘシ

第十三條 寄席興行ハ概テ左ノ如シ
曲馬 輕業 能 狂言 淨瑠璃 祭文 長唄 新内 軍談 落語 物真似 手品 手踊 足藝 獨樂廻シ 人形芝居 俄 影人形 首振

第十四條 前條ノ興行ニ於テ演劇ニ等シキ所業ヲ爲スヘカラス

第十五條 第三條第四條第六條第八條第九條ハ本章ニモ亦之ヲ準用ス

第三章 遊覽所

第十六條 遊覽所ヲ開設セントスルトキハ其場所種類見料等ヲ記シ町村長ノ奥印ヲ受ケタル願書ニ家主又ハ地主ノ承諾書ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受ケ廢業スルトキハ届出ヘシ

第十七條 遊覽所ニ於テ遊覽セシムルモノ概テ左ノ如シ

魚鳥獸 天產物 人造物

第十八條 遊覽所ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス

- 一 人造物ヲ天產物ト稱スルコト
- 二 實物ト看板ト相違スルコト
- 三 風俗ヲ紊ルヘキコト
- 四 木戸番等ニ於テ強テ參觀ヲ勸ムルコト

第十九條 第九條ハ本章ニモ亦之ヲ準用ス

第四章 遊技場

第二十條 遊技場ヲ開設セントスルトキハ其場所種類遊技料ヲ記シ町村長ノ奥印ヲ受ケタル願書ニ家主又ハ地主ノ承諾書ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受ケ廢業スルトキハ届出ヘシ

第二十一條 遊技場ニ於テスル技藝ハ概テ左ノ如シ
室内射的銃 大弓 半弓 揚弓 玉突 投扇競 鞠投 人形倒シ 吹矢

第二十二條 室内射的大弓半弓揚弓ハ左ノ構造ニ從ヒ落成シタルトキハ使用前検査ヲ受クヘシ
一 流彈箭ヲ防ク爲メ堅牢ナル的阜ヲ設クルコト
二 射程ノ距離ハ五間以上ニ限ルコト
但揚弓ハ此限ニアラス

第二十三條 遊技場ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス
一 白痴瘋癲者及酩酊人等ニ遊技ヲナサシムルコト
二 總テ利益ヲ僥倖スルノ所業ヲ爲スコト

三 濫リニ雷管ヲ他ニ持出スコト
第二十四條 第九條ハ本章ニモ亦之ヲ準用ス
第五章 罰則

第二十五條 第一條乃至第十二條第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違背シタル者ハ壹日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

- 一 從來ノ場所ハ仍ホ其効ヲ有ス
- 一 從來ノ場所ニシテ本則ニ抵觸スルモノハ來ル十二月三十一日迄ニ更改スヘシ

諸興行取扱手續

○達第四十四號 明治二十五年七月十四日

警察署 警察分署

諸興行取扱手續左之通相定ム

諸興行取扱手續

第一條 劇場及寄席ノ新設又ハ改造ヲ願出タルトキハ實地検査ノ上許否スヘシ
工事中ハ警部ニ於テ時々臨檢スヘシ

但技手ノ檢分ヲ必要ト認ムルトキハ警察部ヲ經テ縣廳ニ其出張ヲ請求スヘシ工事落成ノ検査ニ際シ仕様書ニ違ヒ又ハ不堅牢ト認め改造若クハ修繕ヲ命セントスルトキハ署長ニ於テ一應檢分スヘシ

第二條 窓牖ハ建物ノ形狀等ニ依リ配置ノ宜キヲ得ルコトニ注意スヘシ

窓牖ノ坪數ハ容量坪數ノ四分ノ一ヲ標準トセシムヘシ

便所ハ廁固芥溜下水取締規則ニ從フハ勿論ト雖モ尙ホ可成真筒ヲ設ケシムヘシ

第三條 諸興行ヲ願出タルトキハ事實調査ノ上許否スヘシ

第四條 諸興行中ハ可成警察官吏監臨シ諸般ノ取締ニ注意スヘシ

第五條 手品祭文獨樂廻シノ類ニシテ場所ヲ定メス道路徘徊シツ、演藝シ又ハ人家各戸ニ立寄り演藝スル者ハ願出シムルニ及ハスト雖モ風俗其他ノ取締ハ常ニ注意スヘシ

(參照)

●警保局長通牒 明治二十二年十一月十六日

近來神佛祭典等ノ際觀物興行ヲナス者ノ中萬獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷裁シ又ハ之ヲ噬嚼シ其他殘酷ノ所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スルモノ有之現ニ警視廳及神奈川縣廳ニ於テハ之ヲ差止候右ハ風俗上最モ可厭モノニ付向後同様ノ技ヲ演セントスルモノ有之節ハ嚴ニ制禁相成度此旨申入候也

演劇類似ノ興行取締方

○訓第二號 明治二十二年一月八日

諸興行取扱手續 演劇類似ノ興行取締方

自今管下ニ於テ俄芝居ト唱ヘ興行願出ツル者ノ内輕稅ヲ圖ル爲メ俄芝居又寄席等ノ名義ヲ假リ其實演劇ト毫モ異ナラサル興行ニ付郡衙ニ於テ演劇ノ名稱ヲ付シ興行稅徵收ノ處警察分署ニ於テハ寄席興行ノ名ヲ以テ許可スル向相問ヘ一物兩名ニ涉リ取扱上不都合ニ付演劇ト同性質ノモノハ何等ノ名義ヲ以テ出願スルモ事實取調ノ上許否スヘキ様其筋ヨリ照會ニ付此旨注意セララルヘシ

附

富興行禁止及罰例

▲布告 明治元年十二月廿三日

富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ナ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來淺季ノ弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々是方爲メニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

▲布告第二十五號 明治十五年五月二十四日

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富興行ノ牙保補助ヲ爲シ及富興行ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富興行ノ牙保者クハ補助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富興行ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑罰金額ノ二倍ニ處ス

但初犯ニ科シタル刑罰金額ニ下ルヲ得ス

第四條 富興行ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富興行ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富興行ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ尙ホ前項ニ依ル

第四編 社寺

第一章 官幣社神職奉務規則

○訓令甲第七十二號 明治二十四年八月二十一日
官幣社神職奉務規則左ノ通相定ム

官幣社神職奉務規則

官幣社

- 第一條 官幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國体ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシ以テ本務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官幣社祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ
- 第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラサレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スヘカラス
- 第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコトヲ得但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ當廳及所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第五條 人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖モ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス悠久ノ保存ヲ要ス
- 第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ様監護シ神社所有ノ財産ヲ管理シ金錢ヲ出納スヘシ
- 第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場合ハ官幣社ト雖モ氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上當廳ノ許可ヲ得ヘシ

第九條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

●五二四

第二章 縣鄉村社神官奉務規則

○縣令第二十九號 明治二十四年七月九日

縣鄉村社神官奉務規則左之通相定ム

但從前ノ違等ニシテ本文ニ牴觸スルモノハ廢止ス

縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ隨ヒ各其本務ヲ盡スヘシ

第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決シテ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ

適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシム

ヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖モ賣却

讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得已必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經當廳へ願出ヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來タスカ如キコトナカラシムルヲ要ス

第三章 寺院管理者保護心得方

○訓甲第七號 明治廿四年四月七日

警察署

警察分署

警保局長ヨリ別紙之通々報有之候條此旨心得ヘシ

(別紙)

警合社第四號 明治二十四年四月二日

今般各宗派管長總代ヨリ管長ニ於テ寺院住職ヲ免シタルニ其寺院ヲ立退カサル者處分方上申ニ對シ右住職任免ノ事ハ明治十七年太政官第十九號ニ基キ各宗派宗制ノ規定ニ據ルモノナレハ管長ニ於テ已ニ住職ヲ免シタルニ拘ハラズ猶其寺院立退ノ需メニ應セサル者アルハ管長又ハ後任住職若クハ其寺院管理者ヨリ警察官ニ申立其保護ヲ請フコトヲ得ル旨内務書記官ヨリ通知相成候ニ就テハ將來自然右保護ヲ請フ者可有之ト存候條爲御心得此段及通報候也

第四章 神職僧侶取締方

○訓令甲第七十一號 明治二十七年七月十八日

郡役所 警察署

近來神職僧侶ニシテ往々自己ノ職務ヲ拋棄シ強テ他人ノ依頼ヲ受ケ公共事業ニ容喙シ其他種々不都合ノ行爲ヲ爲スモ有之哉ニ相聞候處自然右様ノモノ有之ニ於テハ神職僧侶タル職分ニ對シ最モ不都合ノ儀ニ付自今嚴重取締ヲナシ尙右様ノモノ有之場合ニハ其事實ヲ詳具シ上申セラルヘシ

第五章 神宮僧侶犯罪處分之報告

○内達乙第三號 明治二十年一月十二日

警察 署

神佛教師及寺院住職タル者犯罪ノ處分ヲ受ケ若シクハ行政上妨害ノ行爲アリト認ムルモノハ相當處分方直ニ該管長ヘ照會ス可キ旨内務大臣ヨリ訓令相成候條右ニ該當スル者有之節ハ其都度本部ヘ報告スヘシ

▲附

禁厭祈禱取締方

▲教部省布達第二號 明治六年七月十五日

從來梓巫市子並瀨祈禱狐下クト相唱ヘ玉占口寄等ノ所業ヲ以テ人民ヲ眩惑セシメ候儀自今一切被禁止候條各地方官ニ於テ此旨相心得管内取締方嚴重可相立候事

▲教部省達第二十二號 明治七年六月七日

別紙乙第三十三號ノ通り神道諸宗管長ヘ相達候條向後禁厭祈禱ヲ以テ醫藥等禁止メ政治ノ妨害ト相成候條ノ所業致候者有之候ハ於地方官取締可致此旨相達候事

乙第三十三號

神道諸宗管長

禁厭祈禱等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦筋候處間ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以テノ外ノ事ニ候抑敬導職タルモノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候條ノ所業有之候テハ朝旨ニ乖戾シ政治ノ障礙ト相成甚以テ不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者無之標吃度取締可致此旨相達候事

▲内務省達乙第四十二號 明治十五年七月十日

府 縣(沖繩縣ヲ除ク)

別紙戊第三號之通(神道副總裁神佛各管長)ヘ相達候條今後違背ノ罪有之候ハ、直ニ差止置委請當省ヘ具狀可致此旨相達候事
(別紙)
戊第三號 明治十五年七月十日
神道副總裁神佛各管長

神職僧侶取締方 神宮僧侶犯罪處分之報告

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年六月教部省乙第三十三號達ノ趣有之候處病者治療ノ際之方爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先投藥ノ有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷治療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得此段相違候事

第六章 神佛一時說教届出ヲ要セサル件

○訓甲第一號 明治二十四年一月七日

警察署 警察分署

神佛說教所外ノ家屋ニ於テ一時說教ヲ爲ス時ハ其都度所轄警察署ニ届出ヘキ成規ノ處自今該届出ヲ要セサル旨内務大臣ヨリ神佛各管長ヘ訓令相成候ニ付此段訓示ス

第七章 氏神祭典取締方

○訓甲第四十一號 明治二十七年十月十一日

近來氏神祭典ニ際シ神輿又太鼓臺ヲ昇キ出シ多衆ノ勢ヲ恃ミ平素怨恨ヲ含ミタル民家又ハ諸建物ヲ破壊シ又ハ騷擾ヲ惹起シ治安ヲ妨害スルモノ有之哉ニ相聞ヘ右ハ以テ外ノコトニシテ斯クノ如キ弊害ハ豫メ除去セサルヘカラス依テ將來出願ニ際シ充分調査ヲ遂ケ若シ既往ニ徴シ右ノ如キ弊害ノ虞アリ

ト認ムルモノハ許可ヲ與フカラス然ラサルモノト雖モ嚴重取締法ヲ立タル上ナラテハ許可セサル様厚ク注意セラルヘシ此段及訓示候也

▲附

神佛祭典ニ關スル諸達

▲教部省布達第二十六號 明治六年七月五日

神佛祭禮開扉等ノ節兼テ信仰ノ者ハ夫々敬禮ヲ盡シ參拜致管ノ處從來ノ弊風ニ泥シ打扮或ハ男女委粧ヲ易ヘ候等ノ儀有之趣醜體ヲ極メ候ノミナラス却テ神佛ヲ褻瀆シ以外ノ儀ニ付以來右様ノ儀無之尊崇ノ本意ヲ體シ候様可致事

▲教部省布達第二十九號 明治六年九月二十三日

諸神社祭禮神輿渡御ノ節往々祭儀ニ托シ粗暴ノ所業有之或ハ途中ノ人家ニ觸レ或ハ往來ノ妨害ヲ爲ス等許多ノ弊害不少候趣相聞不都合ノ至リニ候條向後取締方嚴重可相立候事

第八章 勸進寄附募集取締方

○縣令第四十八號 明治二十六年十二月廿三日

神佛一時說教届出ヲ要セサル件 氏神祭典取締方 勸進寄附募集取締方

名義ノ如何ニ拘ラス金品ノ勸進又ハ寄附ヲ乞ハントスル者ハ豫メ其目的的方法募集區域年限及ヒ之レニ從事スル人名住所職業等ヲ記シ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

▲附

托鉢免許方并托鉢者心得

▲内務省達乙第三十八號 明治十四年八月十五日

府 縣

今般戊第二號ヲ以テ佛道管長ヘ別紙ノ通相違候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢差止願未詳細取調當省ヘ可申出此旨相違候事

(別紙)

戊第二號 明治十四年八月十五日

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相違候事

托鉢免許方并托鉢者心得

一 托鉢ヲ免許セシキハ左ノ難形ニ照シ免許證ヲ交付シ其都度願者所在ノ地方廳ヘ通知シ東京ハ警視廳ヘモ通知スヘシ

一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス

但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限

- 一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帯シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フテ許サス
- 一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨ケヘカラス
- 一 免許證ハ何時タリトモ警察官ノ檢閱ニ供スヘキモノトス

木製 縦六寸横二寸

表

第何號

何宗派
管長印
燒印

托鉢免許之證

何府國郡區
何縣
何町村
何寺住職
何寺徒弟

年月日

何 某
年月日生

勸進寄附取締方

第五編 衛生

第一章 衛生機關

衛生巡視規程

○訓令甲第三號

明治二十九年一月二十日

警察署

警察分署

衛生巡視規程左之通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

衛生巡視規程

第一條 衛生巡視ハ公衆衛生實施ノ狀況ヲ視察シ之カ改良進歩ノ資ニ供シ其實効ヲ収ムルヲ以テ目的トス

第二條 衛生巡視ハ警察署長分署長若クハ警部巡查部長又ハ衛生專務巡查ヲ以テ之ヲ施行スヘシ

第三條 衛生巡視ハ一年四回トシ每三ヶ月ニ其所轄内ヲ一回巡視スルモノトス

第四條 衛生巡視ハ左ノ事項ヲ視察スヘシ

- 一 傳染病豫防ニ關スル町村ノ施設準備
- 二 傳染病流行ノ狀況
- 三 地方病並ニ特種ノ傳染病有無其狀況
- 四 種痘施行ノ良否
- 五 清潔法施行ノ狀況
- 六 井水厠固芥溜下水ノ構造取締方法

- 七 町村醫及ヒ衛生組合ノ動作
 - 八 醫師獸醫藥劑師產婆鍼灸術入齒々抜口中治療接骨水蛭吸角施術者並ニ醫會ノ狀況
 - 九 牛乳搾取並ニ販賣人屠畜並ニ屠肉販賣者氷雪製造販賣外用水湯屋墓地火葬場ノ構造取締
 - 十 藥種商賣藥飲食物繪具染料ノ取締
 - 十一 無告ノ窮民又ハ行施病人ノ取扱
 - 十二 鑛山若クハ該工場並ニ職工ノ狀況
 - 十三 出產死亡ノ狀況
 - 十四 其他衛生上參考トナルヘキ事項
- 第五條 巡視員ハ巡視終レハ五日以内ニ其狀況ヲ盡シ書面ヲ以テ復命スヘシ
- 第六條 巡視復命書ハ本屬署長ヲ經テ警察部ヘ送付スヘシ

衛生組合規則

○縣令第七十二號 明治二十一年五月七日

衛生組合規則左ノ通相定ム

衛生組合規則

第一條 衛生組合ハ衛生法普及ノ爲メ各町村人民ニ於テ設クルモノトス但便宜ニ依リ數町村ヲ連合シ若クハ一町村内數組ニ分割スルハ妨ケナシ

第二條 本則ハ當分ノ内二百戸以上連擔ノ地ニ施行ス

但其他ノ場所ト雖トモ時宜ニ依リ施行ヲ令スルコトアルヘシ

第三條 衛生組合ハ組合内施行ノ條件及申合規約ヲ取設ケ本廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 傳染病流行ノ場合ニ於テハ知事ノ命令又ハ郡長若クハ警察署長ノ見込ヲ以テ知事ノ認可ヲ得

又ハ其組合内ノ意見ニ據リ特ニ組合事務所ヲ設ケ豫防消毒ノ事務ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第五條 衛生組合ハ衛生上ニ付意見アルトキハ知事郡長警察署長同分署長若クハ戸長ニ申報スルコトヲ得

第六條 組合ニ關スル費用ハ其組合内人民ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但町村會ノ評決ニヨリ町村費ヲ以テ支辨スルヲ得ル

第七條 郡長ハ毎ニ組合内施行ノ事件ヲ監視シ殊ニ衛生法普及セシモノハ毎年其理事功程ヲ具申スヘシ

衛生組合準則

○訓令第七十五號 明治二十一年五月七日

郡役所

戸長役場

今般本縣令第七十二號ヲ以テ衛生組合規則相定メ候ニ付テハ別紙組合準則ニ準據シ組合ヲ設置セシムヘシ尤該準則ハ一般普通ノ要項ヲ示シタルモノニシテ土地ノ狀況ニ依リ損益セサルヲ得サルモノアル

トキハ其條項ヲ具シ伺出ヘシ

(別紙)

衛生組合準則

一 組合設置ノ目的

一 平素土地ノ清潔ヲ保タシムルヲ

一人々衛生ヲ守ラシムルヲ

一 惡疫ノ流行ヲ防遏スルヲ

一 組合組成法

一 組合ハ本籍寄留ヲ問ハス其町村内現住者ニ於テ設立スヘシ

一 組合ハ一町村内ヲ數組ニ分割スルハ妨ケナシト雖モ毎組合五十戸ヲ下ラサルヲ要ス

一 組合中ニハ組長及世話掛ヲ置キ組合内諸般ノ事務ヲ擔理スヘシ

一 組合中ニハ小組ヲ設ケ十戸乃至二十戸ヲ以テ編成スヘシ(明治二十一年(十一月)訓令中第七十號ヲ以テ追加)

一 毎小組ニ世話掛一名ヲ置キ其組中一切ノ事務ヲ擔當セシムヘシ(同上ヲ以テ追加)

一 組長及世話掛ハ戶長ニ於テ其町村現住者ノ内ヨリ推薦シ郡長ノ締認ヲ受クヘシ

一 組長及世話掛ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其任ヲ辭スルヲ得ス

一 組長及世話掛ハ任期ヲ二ケ年トシ滿期ニ至リ再撰スルヲ得

一 組長及世話掛ハ無給タルヘシト雖モ組合内人民ノ協議ニ依リ報酬ヲ贈ルハ妨ケナシ

一 傳染病流行ノ兆アルトキハ組合内ニ臨時消毒掛ヲ置キ豫防消毒ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

一 組合ノ規約及責任

一 衣食住其他習俗ノ健康ヲ傷害スヘキ事件ハ可成的其改良ヲ圖ルヲ

一 傳染病發生ノ兆アルトキハ其組合内ノ豫防消毒法ニ従事スルハ勿論殊ニ貧困者ノ豫防法ニ注意スルヲ

一 家屋ノ内外ヲ時々掃除スルヲ

一 邸内ノ汚水溜芥溜便所等ハ時々掃除シ汚臭ノ放散ヲ防クヲ

一 下水溝ヲ疎流シ土泥塵芥ヲ溜滯セシメサルヲ

一 井戸ノ周圍並ニ兩便所ニ損所ナカラシメ且其近傍ヲ清潔ニナスコト

一 井邊ノ便所ヲ改良スルヲ

一 種痘ヲ怠ラサルヲ

一 現ニ惡疫アル家若クハ惡疫アル地ヨリ來客又ハ歸宅シタルモノアルトキハ直ニ組長ニ通知スルヲ

一 家内ニ惡疫ト覺シキ病人アリタルトキハ速ニ組長ニ通知シ醫療ニ就クヲ

一 惡疫流行中惡シキ飲食(客ホ其品物ヲ定ムルヲ良トス)物ヲ用ヒサルヲ

一 惡疫流行中ハ多人數群集且暴飲過食セサルヲ

一 組合規約ニ背キタルモノ、處分法ヲ設クルヲ

一 組長ノ指圖ヲ遵守スルヲ

一 但組長ノ指圖ニシテ不當ト認ムルトキハ其旨戶長ニ申告スルヲ

一 飲用水ハ一ケ年内必ス水質ノ試験ヲ受ケ惡水ヲ飲用セサル様注意スルヲ

一 組合人民中組合規約ノ各款ニ從フ能ハサルモノアルトキハ組合内ニ於テ負擔實行スルヲ

一 傳染病患者ノ隱蔽ヲ防クヲ

衛生組合準則

- 一時々衛生談話會ヲ開キ衛生法ノ普通ヲ圖ル
- 一常ニ相當ノ豫防消毒藥ヲ備ヘ置ク
- 一店頭ニ露列シ又ハ行商スルモノニシテ直ニ食用ニ供スヘキ販賣飲食物ニハ適當ノ覆蓋ヲ設クル
- 一役員ノ心得
 - 一凡ソ役員ハ誠實ヲ本トシ威權ケ間敷振舞アルヘカラサル
 - 一時々組合内各家ヲ巡廻シ規約ヲ犯シタルモノアルトキハ直チニ規約ニ遵ハシムル
 - 一惡疫ト疑フヘキ患者アルトキハ醫師ニ就キシヤ否ヲ問ヒ醫師ニ就カサルモノハ醫藥ノ周旋ヲナス
- 一組合中相互ニ傳染病者アル家ニ往來スルヲ警メ他ニ傳染セサル様取締方ニ注意スル
- 一組合中役員ノ差圖ニ從ハサルモノアルトキハ戸長又ハ其筋ニ申告スル
- 一傳染病者アル家若クハ該病アル地方ヨリ來客又ハ歸宅シタルモノアル家ニハ殊更ニ注意スル
- 一傳染病患者ノ發見ヲ速ニシ治療及消毒ノ機ヲ失セサル様注意スヘキ
- 一貧困者ノ豫防消毒法並ニ其傳染病者ノ手當等ハ懇切ニ取扱フ
- 一移住者アル毎ニ組合規約ノ條項ヲ示シ加入セシムル
- 一豫防上ニ關スル法令等ハ可成速ニ組合各戸ニ周知セシムル
- 一他組合ニ畫一ノ方法執行ヲ要スル場合ニ於テハ其組合ニ聯合シ相談會ヲ開ク
- 一理事功程具申ノ程度
- 一組合内清潔法ノ行届キタルモノ
- 一患者報告ノ速ナルモノ

- 一超衆勉勵セシモノ
- 一組合内患者隱蔽ノ弊ナキモノ

町村醫設置方法

○訓令甲第六十九號 明治二十三年六月二十四日

郡 役 所

町村制實施後ハ衛生事務モ亦町村ノ自治ニ屬スルモノ尠カラス就テハ此際各町村ヲシテ別紙ノ方法ニ據リ町村醫ヲ設置セシムヘシ尤モ町村ノ狀況ニ依リ今急ニ實施スル能ハサル事情アルモノヲ酌量シ先以テ其必要欠クヘカラサル町村ニ施行シ漸次普及候様計畫可有之且其報酬額ノ如キモ可成節制ヲ加ヘ主トシテ名譽ト義務ヲ以テ其人ヲ得ルノ方法ヲ相立候様取計フヘシ

(別紙)

町村醫設置方法

- 第一條 町村人民ノ建康ヲ保持シ衛生上ノ福利ヲ増進センカ爲メ町村ニ一名乃至數名ノ町村醫ヲ設クヘシ
- 第二條 町村醫ハ其町村會ニ於テ撰舉スヘシ
- 第三條 左ニ記載ノ各項ハ町村會ニ於テ議定スヘシ
 - 一 受持區域
 - 一 任期

- 一 報酬及旅費
- 一 辭撰辭職ノ處分法
- 一 貧民施療ニ關スル方法及費用
- 第四條 町村醫ハ受持町村内貧民患者ヲ治療シ及主任醫ナキ病死變死變傷人ノ檢案ニ從事セシムヘシ
- 第五條 町村醫ハ受持町村内ノ種痘ヲ擔理シ及地方病傳染病ノ豫防ニ從事セシムヘシ
- 第六條 町村醫ハ其町村衛生組長ト協議シ平素其組合内一般衛生上ニ注意スヘシ
- 第七條 町村醫ハ町村内衛生上ノ利害ニ關シ知事郡長警察官及町村長ニ建議スルヲ得
- 第八條 町村醫氏名受持區域及職務章程ハ本廳ヘ届出スヘシ其異動アルトキ亦同シ

地方衛生會規則

勅令第七十四號 明治二十四年八月十七日

地方衛生會規則

- 第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應ジテ其府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス
- 第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルヲ得
- 第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ
- 第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設ケルコト左ノ如シ
 - 會長 府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ
 - 委員 府縣書記官
 - 警部長

但東京府ハ警視廳警務局長

府縣參事官

名譽職府縣參事會員

一人 四人

府縣廳所在地ノ郡長又ハ市長

醫師

三人乃至五人

獸醫

一人

化學家

一人

臨時委員

書記府縣廳ヲ以テ之ニ充ツ

- 第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具申ス
- 第六條 會長事故アルトキハ書記官之ヲ代理シ書記官事故アルトキハ開會當日出席委員ノ互選ヲ以テ會長ヲ定メ其事務ヲ代理セシム
- 第七條 委員中府縣參事官醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス
 - 但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ缺員ト爲スコトヲ得
- 名譽職府縣參事會員ハ改撰毎ニ郡市部各二名ヲ互選シ府縣知事之ヲ命ス
- 第八條 官吏ノ格資ヲ以テ委員トナリタルモノハ旅費ハ其所屬廳ノ經費ヨリ支給シ市長ノ旅費ハ市役所ノ經費ヨリ支給シ其他ノ委員ニ係ル手當旅費ハ府縣稅ヨリ支給スルコトヲ得
- 第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス
- 第十條 府縣制ヲ施行セサル地方ニ於テハ名譽職府縣參事會員ノ職務ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充ツ此場合ニ於テハ常置委員改撰毎ニ該員中ニ於テ互選シ府縣知事之ヲ命ス

第二章 建築

長家建築規則

○甲第七十五號 明治十九年五月十四日

長屋建築規則別紙之通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

長家建築規則

第一條 二戸以上ヲ一棟トナシ新設スルモノ及舊建物ヲ區畫シ數戸ニ改造スルモノ或ハ舊建物ニ接續シテ一戸以上ヲ増設スルモノニシテ表長屋ニ在テハ一戸ノ建坪八坪未満其他ハ坪數ヲ問ハス總テ此規則ヲ遵守スヘシ

但一戸建ノ家屋ト雖モ其建家坪八坪未満ノモノハ尙此規則(第四條及第九條ヲ除ク)ヲ遵守スヘシ

第二條 長家ヲ新設改造又ハ増設セントスルトキハ別紙第二號書式ニ準據シ繪圖面相添所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 長家落成ノトキハ別紙第二號書式ニ準據シ所轄警察署ノ検査ヲ乞ヒ認可ヲ受クルニアラサレハ之レヲ使用スルヲ得ス

第四條 一棟ノ戸數ハ五戸以内ニシテ他ノ建家トノ距離ハ三尺以上タルヘシ

第五條 建家ノ敷地ハ溝石ノ上端ヨリ高サ一寸五歩以上タルヘシ

但敷地内ニ塵芥等不潔物ヲ埋埋スヘカラス

第六條 窓ハ一戸ノ四方中ニ於テ少ナクモ二方ニ開設シ其廣サハ建家坪面積ノ五分ノ一(建家坪一坪ニ付分五厘ノ割合ニシテ其廣サハ幅三尺ナレハ高サ二尺八寸強ナルヲ云フ)以上タルヘシ

第七條 通路ノ廣サハ六尺以上タルヘシ

第八條 裏長家ハ表家ヲ通過セス別ニ二ヶ所以上ノ路次口ヲ設クヘシ

但五戸以内ノ長家ニ限リ相當ノ非常口ヲ設クルモノハ一ヶ所トナスコトヲ得

第九條 廁圍ハ少ナクモ二戸ニ一ヶ所ヲ設クヘシ

第十條 廁圍及芥溜ヲ新設スルモノハ其近傍自他ノ井戸ヲ去テ一丈二尺以上タルヘシ

但井戸ヲ新設スルモノモ廁圍芥溜大下水溝渠ヲ距ル一此例ニ據ルヘシ

第十一條 廁圍ニ用ユル糞壺ハ陶器(紫燒ト唱フルモノヲ除ク)ニシテ口ノ徑二尺深サ二尺五寸以下ノモノヲ用ヒ其周圍ハ厚サ二寸以上ノ叩キ漆喰ニスヘシ

第十二條 床下ノ仕切壁ハ一方毎ニ其面積五分ノ一以上ノ空氣窓ヲ設クヘシ

第十三條 建家ノ敷地ヨリ床板迄ノ高サ一尺以上タルヘシ

第十四條 長家ニ附屬スル下水小溝ヲ設クヘシ其幅ハ六寸以上ニシテ自他ノ排水ニ害ナク大下水溝渠ニ放流スヘキ構造ヲナシ其勾配ハ百分一(則一箇ニ付六分)以上タルヘシ

但下水小溝ノ兩側及底面ハ石又ハ瓦ヲ以テ構造シ其間隙ニ煉漆喰ヲ施スヘシ

第十五條 願書ハ總テ正副二通ヲ製シ差出スヘシ

第十六條 長家表ノ軒下ヘ廁圍及便器ヲ設置スヘカラス

第十七條 長家居住者居住ノ現狀極メテ不潔ニシテ公衆ノ衛生ニ害アリト認ムルトキハ立退ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 前條ニ依リ立退ヲ命セラレタル者ニハ所轄警察署ノ認可ヲ受クルニ非ラサレハ長屋ヲ貸與スヘカラス

第十九條 此規則第二條及第三條第十六條及第十八條ニ違背スルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處

セラルヘシ

但居住人事實ヲ隠蔽シ因テ第十八條ニ違背シタル場合ハ居住人其罪ニ坐ス
第二十條 此規則ハ大坂堺奈良ノ市街及該市街ト人家接續ノ町村ニ於テ施行スルモノトス

附則

- 一 現在ノ長屋ニシテ衛生上有害若クハ危險ト認ムルモノハ月數ヲ限リ改造ヲ命シ又ハ居住ヲ禁スルコトアルヘシ
- 一 現在ノ厠園芥溜ニシテ本則第十條ニ觸ル、モノハ本年八月中ニ其厠園芥溜又ハ井戸ノ位置ヲ移轉スヘシ
- 一 前二項ニ違フ者亦刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラルヘシ
- 一 本則十六條第十七條及第十八條ハ現在ノ長屋ニモ適用ス

(第一號書式)

長屋新設(増設)(改造)願

今般何(郡區)何(町村)何番地ニ於テ長屋新設(増設)(改造)致度ニ付御許可被成下度別紙繪圖面相添此段奉願候也

何(郡區)何(町村)何番地住或寄留

何府(寄留人ナレハ原籍國郡)

何縣(町村名番地ヲ爰ニ記ス)

族籍職業

何

誰印

年月日

何警察署御中

備考

- 一 繪圖面ハ東西南北ノ方位ヲ示シ敷地及建家共四方ノ間數ヲ掲ケ且一棟及一戸ノ區別ヲナシ尙一戸中室數ヲ區畫シ其疊敷ヲモ記載スヘシ

(第二號書式)

長屋新設(増設)(改造)檢査願

何年何月何日御許可ヲ得候長屋新設(増設)(改造)落成致候ニ付御檢査ノ上御認可被成下度此段奉願候也

何(郡區)何(町村)何番地住或寄留

何府縣(寄留人ナレハ原籍國郡區)

族籍職業

何

誰印

年月日

何警察署御中

長屋建築事務取扱手續

○本達乙第十六號

明治十九年八月七日

長屋建築事務取扱手續左之通定ム

長屋建築事務取扱手續

長屋建築事務取扱手續

第一項 規則第二條ニ依リ長屋ノ新設改造又ハ増設ヲ願出タルルハ圖面ヲ審査シ其構造第四條以下ノ制規ニ適當ト認ムル者ハ直ニ許可ノ指令ヲ爲シ其牒觸スル分ハ訂正セシメタル后指令スヘシ

第二項 規則第三條ニ據リ長屋ノ落成検査ヲ願出タルトキハ實地ヲ検査シ其構造許可ノ圖面ニ符合シ且第四條以下ノ制規ニ適當セル者ハ直ニ認可ノ指令ヲ爲シ其牒觸スル分ハ一時使用ヲ差止再ヒ修築スルヲ俟テ認可スヘシ

但實地検査員ハ内勤警部補以上ヲ以テ之ニ充テ其使用差止中ハ緊要ノ部分ハ封印ヲ施シ修築着手ノ際之ヲ撤却スヘシ

第三項 附則第一項ニ據リ長屋ノ改造ヲ命シ又ハ居住ヲ禁スルノ方法ハ別ニ規定スル所ニ據ル

第四項 附則第二項ニ據リ廁圀芥溜ノ位置ヲ移轉スルノ順序ハ專ラ實地ノ模様ニ依リ孰レカ便宜ノ一方ヲ移スハ勿論ナリト雖モ一面井戸取締規則ヲ參酌シ可成廁圀又ハ芥溜ヲ移シ井戸ノ位置ヲ動かサ、ル様注意スヘシ

第五項 規則違犯ノ者處分方ニ付テハ一般ノ成規ニ據ルハ勿論ナリト雖モ速ニ其行爲ヲ改メ正當ノ順序ヲ履行スルカ如キ其他狀情輕キ者ハ可成説諭ニ止ムルヲ要ス

第六項 毎三分長屋建築明細表ヲ製シ翌月(一月四月)十日限本部ニ進達スヘシ

第七項 前各項ニ定ムル外事ノ異例ニ涉ルモノハ其時々事由ヲ具シテ本部ニ稟議スヘシ

長屋建築明細表雛形

自明治年月 長屋建築明細表

某警察署

種	類	許可又ハ命令ノ數		落成認可ノ數	
		箇	所	箇	所
新	設				
改	造				
增	設				
改	造				
居	住				
井	新				
井	廢				
廁	溜				
同	廢				

井戸取締規則

○甲第一百十二號 明治十九年七月十日

井戸取締規則左之通之レヲ定ム

井戸取締規則

- 第一條 井戸(田畑園等ノ灌漑水又ハ非常用ニ供スルモノ及)ヲ新設スルトキハ自他ノ廁園芥溜又ハ大下水溝渠ヲ距ル一丈二尺以上ノ地ヲ撰ムヘシ
- 第二條 井戸ヲ新設又ハ修理スルトキハ左項ニ從ヒ之レヲ構造スヘシ
 - 一 井底ヨリ一重又ハ二重ノ澄シ桶ヲ用ヒ以上石若クハ瓦ヲ以テ積疊シ其間隙及裏面ニ漆喰ヲ施スヘシ
 - 二 井筒ヲ設ケ其周圍ハ少ナクモ三尺以内ニ漆喰ヲ施スヘシ若シ敷石ヲ用ユルキハ其間隙モ亦同シ
 - 三 井底ハ小石ヲ厚サ一尺以上ニ敷クヘシ
- 第三條 井戸ヲ所有スルモノハ其井水ヲ飲水試驗場ニ差出シ検査ヲ受ケ尙一ケ年ヲ經ル毎ニ更ニ検査ヲ受クヘシ
但検査ヲ受ヘキ井水ノ容器ハ新ナル磁製又ハ硝子ノ瓶ヲ撰ミ「キルク」ノ栓ヲ用ヒ汲取後直ニ差出スヘシ
- 第四條 前條検査ヲ經タル井戸ハ飲水試驗所ニ於テ標札ヲ請ケ之レヲ其近傍ニ貼付スヘシ
- 第五條 井水ハ検査上善良ノモノニアラサレハ之レヲ飲用ニ供スヘカラス
- 第六條 臨時掛官吏ヲ派遣シ井戸構造ノ適否及水質ノ良否等ヲ検査セシムルコトアルヘシ
- 第七條 第一條ニ違背スルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラルヘシ

第八條

此規則ハ大阪堺奈良ノ市街及該市街ト人家接續ノ町村ニ於テ施行スルモノトス

附則

- 一 廁園芥溜ヲ新設スルトキハ自他ノ井戸ヲ距ル一丈二尺以上ノ地ヲ撰ムヘシ
- 但廁園ニ用ユル糞壺ハ陶器(紫燒ト唱アルモノヲ除ク)ニシテ口ノ徑二尺深サ二尺五寸以下ノモノヲ用ヒ其周圍ハ厚サ二寸以上ノ漆喰ヲ施スヘシ
- 一 現在ノ廁園芥溜ニシテ前項ニ觸レ衛生上有害ト認ムルモノハ日數ヲ限リ其位置ヲ移轉セシメ又ハ改造若クハ取拂ヲ命スルコトアルヘシ
- 一 前二項ニ違背スル者亦刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラルヘシ

第三章 飲食物

飲食物取締規則

○甲第一百三號

明治十九年六月三十日

飲食物取締規則左ノ通相定明治十九年七月十五日ヨリ施行ス

飲食物取締規則

- 第一條 凡ソ飲食物ヲ店舗ニ露列シ若クハ行商スル者ハ此規則ニ違フヘシ
- 第二條 飲食物ハ沙塵及虫類ノ付着セサル様適宜ノ覆蓋ヲナスヘシ
但穀物菓物乾物野菜及料理ヲ經サル魚鳥類其他皮ヲ剥キ又ハ洗ツテ後チ食用ニスヘキ物品ハ此限ニ非ラス

井戸取締規則、飲食物取締規則

第三條 路傍ニ於テ飲食物ヲ料理シ又ハ烹焚シ及飲食席ヲ設クルルハ公衆ノ目ニ觸レサル様暖簾又ハ簾垂等ヲ掲クヘシ
 但公園橋上等特ニ許可ヲ得タル飲食席ハ此限ニアラス
 第四條 飲食物ノ種類又ハ場所ノ模様ニ依リ前二條ニ據リ難キ者ハ其事由ヲ具シ管轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ
 第五條 警察官吏ハ隨時店舗若クハ行商者ニ就キ飲食物ヲ検査スヘシ
 第六條 飯食物ノ健康ニ害アリト認ムルモノハ其販賣ヲ差止仍ホ現品ヲ棄却セシムルコトアルヘシ
 第七條 凡ソ營業上ニ關シテハ家族雇人等ノ所爲ト雖モ營業者一切其責ニ任スヘシ
 第八條 此規則第二條第三條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラレ仍ホ所犯情狀ニ因リ營業ヲ停止スルコトアルヘシ其營業上ニ關シ輕罪以上ニ處セラレタル者亦同シ

飲食物取締事務取扱手續

○本甲第八十三號 明治十九年六月三十日

飲食物取締事務取扱手續左之通相定ム

第一項 規則第一條第二條ニ掲クル飲食物ノ裝置ニ付テハ本則施行ノ期日以前便宜ノ方法ヲ以テ各營業者ニ示諭シ常ニ巡查ラシテ實地ノ景况ヲ視察セシメ若シ違フ者アルルハ懇ロニ説諭シテ履行セシム

明治廿年五月
二個令第六十
五號ヲ以第六
項消滅

ムヘシ

第二項 巡查ノ説諭ニ應セザル者ハ署ニ喚徴シテ嚴戒シ仍ホ從ハサル者ハ相當ノ處分ヲナシ其情狀特ニ重ク營業停止ヲ必要ト認ムルルハ事由ヲ具シテ本署ニ稟申スヘシ

第三項 規則第四條ニ掲クル事故ノ届出ヲナシタルルハ事實ヲ審案シ時宜ニ因リ實地ヲ検査シ情狀不
 得已ト認ムルモノハ認可ノ指令ヲ與フヘシ其疑似ニ涉リ若クハ關係ノ大ナルモノハ事由ヲ具シ本署
 ニ稟議シ指揮ヲ得テ處分スヘシ

第四項 規則第五條ニ掲クル飲食物ノ検査ハ不熟ノ菓物又ハ有病ノ鳥獸肉其他腐敗ニ傾ムキタル物品
 等充分有害ト認メタル場合ニ限り施行スヘシ

第五項 前項検査ノ上果シテ有害品ト確認シタルトキハ直チニ規則第六條ニ依リ販賣ヲ差止メ受書ヲ
 出シ且其物品ノ種類ニ從ヒ便宜ノ場所ニ投棄セシメ尙其所爲ニ付テハ相當ノ處分ヲナシ其旨本署ニ
 報告スヘキ其疑似ニ涉リ若クハ關係ノ大ナル者ハ事由ヲ具シ本署ニ稟議スヘシ

飲食物取締事務取扱心得

- 一 此規則ハ第一ニハ路傍ニ於テ販賣スル飲食物ノ砂塵ニ掩ハレ蠅類ニ穢サル、等ノ不潔ヲ防ク衛
 生上ノ目的第二ニハ路傍ニ於テ肉ヲ割キ物ヲ煮又公ケニ飲食ヲナサシムル等ノ陋習ヲ矯ムル風
 俗上ノ目的ヨリ成ルモノトス
- 二 第一ノ目的ニ付テハ規則第二條ニ示ス如ク適宜ノ覆蓋即チ簾布又ハ硝子蓋等ヲ以テ之ヲ覆ハシ
 ムルコト最モ必要ナリトス然レモ此條ハ重ニ煮賣屋、鮮屋、牛肉、餡餅、餡、菓子、砂糖、天麩羅及魚
 鳥ノ切身等最モ砂塵及虫類ノ付キ易キ部類ニ適用スルノ精神ニシテ同條但書ニ示セル皮ヲ去リ

又ハ洗滌ヲ經ヘキモノハ勿論其他昆布煎餅等ノ如キ乾燥質物ニシテ汚物付着ノ患少キモノニハ總テ覆蓋ヲ爲サシムルニ及ハス

- 三 第二ノ目的ニ付テハ第三條ニ示ス如ク暖簾若クハ簾垂障子等ノ設ケヲ爲サシメサルヘカラス然シテ此條ノ精神モ亦公然路傍ニ於テ肉ヲ屠ル者鱈ヲ割ク者其他汁「オデン」、八幡卷、金鰯、焼餅、及煮込牛肉等ノ如キ總テ不体裁ノ外見ヲ掩ハントノ主旨ニシテ彼ノ燒芋氷店其他行商者ニ於テ賣渡ノ際一時料理ヲナスノ類ハ此條ニ據ルノ限ニ非ラス又路傍トアルハ細リ街路ノ區域内ニ止マラス街路ニ沿フタル店頭及社寺公園等尙モ公衆ノ通行シ得ル場所ハ皆此條ニ據リ整理スヘキ筈ナレ其店內ニ係ル分ハ甚シキ不体裁ナキ限りハ可成不問ニ措クヲ可トス
- 四 飲食物ノ種類多キ固ヨリ枚舉ニ遑アラス以上記列スル所ハ僅ニ一二ノ概例ヲ舉ケテ其方針ヲ示スニ過キス此他ハ當局者ニ於テ實地實物ニ就キ宜シク類推參酌スル所アルヘシ

嗜好飲料營業取締規則

○縣令第六十九號 明治二十八年十二月二十四日

嗜好飲料營業取締規則左ノ通相定ム

嗜好飲料營業取締規則

- 第一條 此規則ニ稱スル嗜好飲料トハ曹達水、ラム子、密柑水、薄荷水、肉桂水、葡萄酒、リモナーデ、其他酒類又ハ芳香物等ヲ混シタル飲料ヲ云ヒ嗜好飲料營業トハ嗜好飲料ヲ製造シテ販賣シ又ハ卸賣小

賣スルモノヲ云フ

第二條 嗜好飲料ヲ製造販賣セント欲スルモノハ其名稱原料品原料水ハ其所在地ヲ記入スヘシ製造法及製造場所ヲ詳記シ原料品ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其名稱、原料品、製造法

又ハ製造場所ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第三條 外國又ハ他府縣下ニ於テ製造シタル嗜好飲料ヲ卸賣セント欲スルモノハ其名稱製造所外國製造人ノ住現品ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ營内ニ於テ製造シタル嗜好飲料ヲ卸賣シ又ハ嗜好飲料ヲ小賣セント欲スルモノハ所轄警察署又ハ警察分署ニ其旨届出ツヘシ

第四條 第二條第三條第一項ノ許可ヲ受ケタルモノハ其容器ニ住所氏名ヲ記シタル封緘ヲ爲スヘシ

第五條 嗜好飲料ハ其容器ニ封緘シタルモノニ非ラサレハ販賣スヘカラス

第六條 嗜好飲料ノ變敗セルモノ又ハ其容器ノ清潔ナラサルモノハ販賣スヘカラス

第七條 製造所製造法製造原料及嗜好飲料ハ臨時主務官吏ヲシテ検査セシムルコトアルヘシ

第八條 嗜好飲料營業者廢業改氏名又ハ轉居シタルトキハ第二條第三條第一項ノモノハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ當廳ニ第三條第二項ノモノハ所轄警察署又ハ警察分署ニ其旨届出ヘシ

其死亡シタルトキハ相續人若クハ家族ニ於テ前項ニ依リ届出ヘシ

第九條 嗜好飲料ハ検査上有害ト認ムルトキハ其販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十條 本則第二條第三條第一項第四條第五條第六條第八條第一項ニ違背シ又ハ第七條ノ検査ヲ拒ミタルモノ若クハ第九條ニ依リ販賣禁止ノ命令ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又

嗜好飲料營業取締規則

ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス其第三條第二項ニ違背シタルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又
八十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

●五五四

嗜好飲料營業取扱手續

○縣訓令甲第二號 明治二十九年一月二十日

警察署 警察分署

嗜好飲料營業取扱手續左之通相定ム

但明治二十八年六月奈良縣訓令甲第七十六號飲料品検査手續廢止ス

嗜好飲料營業取扱手續

第一條 規則第二條第三條一項ニ依リ嗜好飲料營業ヲ出願スルモノアルトキハ事實調査ヲ遂ケ警察部
へ送附ス可シ

第二條 嗜好飲料營業者ハ營業名簿ヲ造リ免許又ハ届出アル毎ニ加除スヘシ

第三條 規則第七條ニ依リ時々其製造所店舗又ハ行商者ニ就キ検査スヘシ

第四條 飲料品ニシテ技術上ノ検査ヲ要スルモノアルトキハ警察部ニ稟議スヘシ

第五條 検査上健康ニ害アリト認ムルモノハ規則第九條ニ依リ處分スヘシ

第六條 嗜好飲料ヲ検査シタル品名及検査成績ハ一ヶ月取纏メ翌月十日迄ニ警察部へ報告スヘシ

鑛屬製ノ繪具顏料取締方

○甲第三十六號 明治十四年六月二十五日

大和國 河内國 和泉國

鑛屬製ノ繪具顏料ノ内有害物間々有之候處其成分ヲ知ラス唯着色ノ艶麗ニシテ其價ノ廉ナルニ依リ飲
食物ノ着色ニ相用候ヨリ自然人身ノ健康ヲ害スルノミナラス中毒ニ罹リ候者有之危險ノ至ニ付左ニ掲
クル種類ノ顏料十六品ハ飲食物ノ着色ニ使用不相成且新船齋ニシテ性質不分明ノモノハ現品ヲ添へ府
廳へ試験可願出此旨布達候事

第一種 鬱金砂一名黃粉、花綠青一名綠青、コロンミール、此種類ハ毒物ナリ

第二種 紺青、紺粉、紅粉、紫粉、緋粉、茶粉、鼠粉、青竹粉、洋粉、サフラニン、エフシン、ベレンス、スカ
ンソー、此種類ハ純乎タル固有ノ毒ナキモ其製造ニ依テ砒石等ノ如キモノヲ用ユルカ故ニ甲ヲ分
折シテ有毒ノ成分ナキモ乙ヲ分析スレハ毒ノ成分ヲ有スルコトアリ依テ是等ノモノハ飲食物ノ着色
ニ用ユヘカラサルモノトス

▲附

亞尼林其他繪具染料取締方

▲內務省達乙第三十五號 明治十一年四月十八日

府 縣

近年アニン其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ着色スルモノ不尠ニ候處有ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒

鑛屬製ノ繪具顏料取締方 亞尼林其他繪具染料取締方

●五五五

ニ瀕リ忽地ニ非命ノ横夭ヲ致スモノモ有之危險ノ至ニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相違候事
道テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然雖致モノハ其原物相添ヘ當省衛生局ヘ照會試驗ヲ受可申事

飲用水試験申出方

○告示第三十五號 明治廿一年三月二十九日

飲用水ノ試験ヲ請ハント欲スルモノハ左ノ方法ニ據リ其水ヲ採酌シ第二部衛生課ヘ申出ヘシ

試験水採酌法

試験水ヲ採酌セントスルトキハ先ツ其栓ヲ備フル硝子壺ヲ取り壺内ニ砂(卵殻ノ細末ニテモ良シ)ト水トヲ入レ共ニ克ク振動シ更ニ試験スヘキ水ヲ以テ數回洗滌シタル後凡ソ三四合ノ試験水ヲ充タシ密栓シテ其上ニ清淨ナル木綿又ハ紙ヲ以テ覆ヒ糸ニテ緊縛スヘシ

但硝子壺ヲ缺クトキハ磁器製壺子ヲ代用スルモ妨ケナシト雖トモ壺口ハ清淨ナル「コルク」又ハ竹ノ皮ヲ以テ密栓スヘシ

氷雪營業取締規則

○縣令第三十五號 明治二十五年四月二十三日

氷雪營業取締規則

第二條 氷雪ヲ採取シ若クハ氷ヲ製造セントスル者ハ左ノ書面ニ氷ハ原水ヲ添ヘ願出ヘシ

但原水採酌方ハ明治二十一年三月三奈良縣告示第三十五號試験水採酌法ニ依ル

一 天然氷雪 採取地名採取場ノ構造方法及採取地近傍ノ地形ヲ明ニセル圖面

一 人造 氷 製造地名製造方法及製造場ノ構造概畧

第二條 前條許可ノ有効期限ハ許可ノ指令ヲ得タル日ヨリ滿一ケ年間トス

第三條 他府縣下ニ於テ採取シ若クハ製造シタル氷雪ヲ引取りタルキハ其製造人若クハ採取人ノ住所

氏名及量目ヲ記シ其都度届出ヘシ

第四條 製造若クハ採取シ及ヒ他府縣ヨリ引取りタル氷雪ハ一タヒ貯藏場ニ入レ試験ヲ受クルニアラサレハ管内ニ於テ卸賣又ハ小賣スルヲ得ス

第五條 氷雪貯藏場ヲ設置セントスルキハ願出許可ヲ受ケ貸與若クハ廢場スルキハ届出ヘシ

但許可ノ場所ト雖モ有害若クハ不適當ト認ムルキハ更ニ修理ヲ命シ又ハ其許可ヲ取消スコトアル

ヘシ

第七條 製造若クハ採取地ヲ異ニセル氷雪ヲ同一貯藏場ニ貯藏スルキハ各區畫ヲ別チ其產地ヲ標示スヘシ

第八條 貯藏場ニ貯藏シタル氷雪ノ試験ヲ受ケントスルトキハ製造若クハ採取地名貯藏場名及ヒ量目

ヲ記シタル願書ヲ所轄警察署若クハ分署ニ差出スヘシ

試験ニ供用スル氷雪ハ警察官吏ノ指示スル所ニ從ヒ適當ノ容器ニ入レ同官吏ノ封印ヲ受ケ本廳ニ送達スヘシ

- 第九條 飲用不適ノ指令ヲ受タル氷雪ハ警察官吏ノ指示ニ從ヒ棄却スヘシ
- 但外用氷ニ供セントスルモノハ明治二十二年四月五日
- 第十條 氷雪ヲ卸賣小賣營業ヲナサントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出看板ノ記號ヲ受ケ營業ノ際ハ店頭又ハ適宜容器ニ表示スヘシ
- 第十一條 氷雪卸賣小賣營業者ハ廢業若クハ氏名ヲ變換シタルキハ其届出他ノ警察署所轄内ニ轉住スルキハ其記號ヲ受ケタル警察署又ハ分署ニ届出尙ホ營業ヲナサントスル者ハ更ニ轉住地所轄ノ警察署若クハ分署ノ記號ヲ受クヘシ
- 第十二條 氷雪ヲ販賣營業者ニ賣渡シタルキハ貯藏場名量目及賣渡年月日ヲ記シタル賣渡證ニ試験成蹟告示書寫ヲ添ヘ買受人ニ交付スヘシ
- 第十三條 氷雪販賣營業者營業ノ際ハ前條ノ賣渡證書ニ試験成蹟告示書ヲ携帶シ主務官吏ノ請求アルキハ直ニ檢閲ニ供スヘシ
- 第十四條 販賣ヲ許可シタル氷雪ト雖モ更ニ有害ナルコトヲ發見シタルトキハ其販賣ヲ停止シ棄却ヲ命スルコトアルヘシ
- 但此場合ニ於テハ第九條ノ手續ニ依ル
- 第十五條 氷雪ヲ飲用者ニ供給スル場合ニ於テ混和スル水ハ試験濟良水ニアラサレハ用ユヘカラス
- 第十六條 本則中第一條第三條第四條第八條第九條及第十三條ヲ犯シタル者ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ第五條第六條第七條第十條第十二條ヲ犯シタル者及第十一條ノ届出ヲ怠リ尙ホ官ノ督促ニ從ハサル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

外用氷取締規則

○縣令第三十二號 明治二十二年四月五日

外用氷取締規則左ノ通相定ム

外用氷取締規則

- 第一條 外用氷トハ飲用ニ供セス諸物ヲ冷却スル爲メニ使用スルモノヲ云フ
- 第二條 飲用不適ノ凍氷ハ其成蹟ニ依リ外用氷トシテ特ニ貯藏販賣ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第三條 外用氷ノ貯藏ハ飲用不適ノ指令ヲ得タル后五日間ニ其產地噸數及貯藏場位置ヲ詳記シ願出ヘシ
- 第四條 前條ノ出願ヲナサントスルモノハ豫テ所轄警察署同分署ヘ届出ヘシ
- 第五條 外用氷ハ飲用水ト同一ノ場所ニ貯藏スルヲ得ス
- 第六條 外用氷貯藏場ハ警察官吏ノ臨檢ヲ經ルニアラサレハ之ヲ開クヲ得ス
- 但其閉鎖ハ同官吏ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第七條 貯藏外用氷ヲ卸賣セントスルトキハ賣買人連署ノ上其噸數及貯藏場名等ヲ記シ且授受日時ヲ定メ願出ヘシ
- 第八條 外用氷小賣營業ヲナサントスルトキハ其發賣初日ヲ届出ヘシ
- 第九條 外用氷貯藏場及販賣店ハ所轄警察署又ハ分署ノ記號ヲ受ケタル左ノ標札ヲ掲クヘシ

(記號)	貯藏場	住
外用氷	販賣所	氏 所 名

- 第十條 外用水ハ行商スルヲ許サス
- 第十一條 第七條ノ場合ヲ除クノ外飲用水營業人ニシテ外用水營業ヲ相兼ムルヲ許サス
- 第十二條 外用水販賣所ハ其賣買ノ量目及需用者ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ置クヘシ
- 第十三條 本則第三條乃至第十二條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

▲附

製水検査方

▲内務省達甲第二十五號 明治十一年九月二十日

近年製水營業人不潔ノ水ヲ製シ候者有之不都合ノ儀ニ付自今右營業ノ者ハ毎年製造ノ節並ニ翌年發賣ノ節共前以管轄廳（東京府下ハ「東京警視本署」）ヘ伺出検査ヲ受候様可致此旨布達候事

牛乳搾取并販賣取締規則

牛乳搾取并販賣取締規則

○縣令第十八號 明治二十八年三月二十六日

- 牛乳搾取并販賣取締規則左ノ通改正ス
- 牛乳搾取并販賣取締規則
- 第一條 乳牛ヲ飼養シ乳汁ヲ販賣セントスルモノハ乳牛ノ號名種類頭數牛舎構造ノ圖面及構内坪數ヲ

記シタル書面ヲ添へ請賣セントスルモノハ其搾取販賣營業者ノ住所氏名ヲ記シ連署ヲ以テ當廳ヘ願出ヘシ

第二條 牛舎ハ石煉化石又ハ漆喰等不滲透性ノ物質ヲ以テ地盤ヲ敷設シ尙ホ厚板ヲ張り共ニ適宜ノ勾配ヲ付スヘシ

但本項ノ構造ニ據リ難キモノハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ敷設スルモ妨ケナシ

牛舎ハ適當ノ位置ニ溝渠ヲ穿テ各舎ノ水液ヲ引キ其排泄ヲ便ニスヘシ

第三條 牛舎建築落成シタルトキハ届出検査ヲ受クヘシ若シ其構造規則ニ適合セサルトキハ更ニ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 牛舎ノ近傍ニハ頭數ニ應シ一頭ニ付十坪以上ノ空地ヲ存シ養牛ノ運動場ニ充ツヘシ

第五條 牛舎及構内ハ日々洒掃シテ糞便及汚穢シタル塵芥等ヲ堆積スヘカラス且炎熱ノ候ハ時々防腐藥ヲ撒布シ常ニ清潔ニスヘシ若シ牛舎及構内ノ不潔ト認ムルトキハ更ニ改造又ハ他ニ移轉ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 乳牛ハ常ニ身軀ヲ清潔ニシ糞便等不潔物ノ附着セサル様注意スヘシ

第七條 乳牛分娩後初メテ乳汁ヲ搾取販賣セントスルトキハ其號名種類及分娩ノ月日ヲ記シ所轄警察分署ニ届出ヘシ

第八條 乳牛病ニ罹ルトキハ其病ノ内外輕重ヲ論セス獸醫ノ診斷ヲ受ケ其號名種類ヲ記シ該診斷書ヲ添へ所轄警察分署ニ届出ヘシ

第九條 乳牛病ニ罹リ乳汁有害ト認ムルモノハ構内ニ使用ヲ禁シ角又ハ前蹄ニ病ノ一字ヲ烙印ス但警察署ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其烙印ヲ消除スルコトヲ得ス

第十條 左ノ程度ニ適合セサル乳汁ハ販賣スヘカラス

一純乳 (強酸性ノ反應ナク其比重ハ攝氏十五度ノ温ニ於テ一、〇二八乃至一、〇三四脂肪量ハマルチヤント氏檢乳計ヲ用ヒ〇、八立方センチメートル以上ノ依的兒性脂肪層ヲ析出セサルヘカラス)

一脱脂乳 (強酸往ノ反應ナク其比重ハ攝氏十五度ノ温ニ於テ一、〇三三乃至一、〇三六脂肪量中百分〇、五分以上)

第十一條 脱脂乳ヲ純乳ト稱シ販賣スヘカラス
但脱脂乳ノ其容器ニハ脱脂乳ト明記スヘシ

第十二條 養牛中傳染病(明治十九年九月農商務省令第十一號獸類傳染病豫防規則ニ掲ケタル傳染病)ニ罹リタルトキハ其同一構内ニアリシ養牛ノ乳汁ハ認許ヲ得サル間ハ販賣スヘカラス

第十三條 控取場及販賣所ニ於テ六傳染病患者(明治十二年七月太政官布告第三十四號)アルトキハ所轄警察署分署ニ届出認許ヲ受クルニアラサレハ搾取又ハ販賣スヘカラス

第十四條 一度需用家ニ配置シタル乳汁容器ハ三十分間以上熱湯中ニ煮沸スルニアラサレハ再ヒ用ユルコトヲ得ス

第十五條 分娩後十日間ノ乳汁ハ販賣スヘカラス

第十六條 牛乳中ニ他物ヲ混和スヘカラス

第十七條 牛乳容器ニ銅亞鉛及其金製造物ヲ用ユヘカラス
但他ノ金屬ヲ鍍シタルモノハ妨ケナシ

第十八條 牛乳搾取所ニハ錐形ニヨリ牛籍名簿ヲ作り養牛ノ異動ヲ記載シ置キ検査官ノ求メタル場合ハ其檢閱ニ供スヘシ

第十九條 他府縣ニ於テ搾取シタル乳汁ハ本則ニ照シ有害ト認ムルモノハ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第二十條 牛乳搾取營業者ハ一箇年間ノ搾取販賣高ヲ翌年一月三十一日限リ届出ヘシ

第二十一條 警察官吏ハ臨時牛舎若クハ牛乳ヲ檢査シ有害ト認ムルトキハ其搾取ヲ停止シ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第二十二條 本則第一條第三條第四條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條ニ違背シタル者及第五條第六條ヲ犯シ官ノ命令ニ從ハサル者并ニ第九條ノ命令ヲ拒ミ又ハ同條但書ニ違背シタル者第十九條第二十一條ニ據リ停止又ハ禁止ノ命令ニ違背シタル者ハ二日以上五日以内ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處シ第二十條ノ届出ヲ怠リ官ノ督促ニ應セサル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

牛籍簿雛形

明治二十七年										
牛籍簿										
何郡何村大字何々何番屋敷 某										
牛乳搾取營業										
種目	種類	年齢	毛色	牝牡	体長	賣買人若クハ賣買受人ノ住所姓名	特	徵		
凱	短角	五	茶褐色	牝	一千百	何府縣何郡市何町村大字何々	十字部背部並ニ左肩裡ニ於テ小兒頭大乃至不正圓形ノ			
旋	種	才	前肢腕	骨部白	一ト	何	自部ヲ有ス			
取五日買										

牛乳搾取并販賣取締規則

備考 何年何月何日ヨリ牛乳搾取或ハ何々

種名	種目	種類	年齢	毛色	牝牡	體長	年月日	買受人若クハ賣渡人ノ住所姓名	特	徵
ウ	ア	シ	六	茶褐	牡	五千三百二十	七年十月	何々府縣何郡何市何町何村何大字何番地何	何	某
ラ	ヤ	シ	六	斑頭白	牡	五千三百二十	七年十月	何々府縣何郡何市何町何村何大字何番地何	何	某
ル	ヤ	シ	六	斑頭白	牡	五千三百二十	七年十月	何々府縣何郡何市何町何村何大字何番地何	何	某

●五六四

附 則

第二十三條 本則ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

第二十四條 從來營業者ニシテ本則第二條ノ構造法ニ適合セサルモノハ明治二十八年九月三十一日迄ニ改造スヘシ

牛乳搾取并販賣營業取扱手續

○訓令甲第四十號 明治二十八年三月二十七日

警察署 警察分署

牛乳搾取并販賣營業取扱手續左ノ通相定ム
牛乳搾取并販賣營業取扱手續

第一條 規則第一條第三條ニヨリ實地検査ヲ爲ストキハ現狀審査ノ上意見ヲ付シ警察部へ送付スヘシ

第二條 牛舎ハ時々臨檢シ構内又ハ牛體ニ不潔アルトキハ規則第五條第六條ニヨリ相當ノ處置ヲ爲シ若シ其構造改良ヲ要スルモノアルトキハ警察部へ申報スヘシ

第三條 規則第七條第八條ニヨリ届出アルトキハ事實ヲ調査シ若シ必要ト認ムル場合ハ獸醫ヲ出張検査セシムヘシ

第四條 左ノ疾患アル乳牛ハ規則第九條ノ處置ヲ爲シ其搾取ヲ禁止スルモノトス
乳房ノ諸疾患 心臟ノ疾患 尿毒症 敗血症 體毒症 壞疽 狂犬咬傷 中毒 劇甚ノ炎症ヲ伴フ腸胃ノ諸症 傳染病 子宮ノ諸症并子宮病ノ繼發諸症 產褥熱産後炎症ヲ伴フ疾患 劇甚ナル炎症ヲ伴フ胸膈并肺即チ呼吸器ノ疾患肺結核 腸間膜結核 肋膜結核 其他結核性疾患

第五條 前條ニヨリ搾取ヲ禁止セラレタル乳牛疾患全治シタルトキハ更ニ獸醫ニ検査セシメ搾取ヲ認許セシモノハ其烙印ヲ消除セシムヘシ

第六條 乳汁并其容器ハ常ニ注意シ時々検査ヲ爲サシムヘシ

第七條 規則第十二條第十三條ニヨリ届出アルトキハ巡查又ハ獸醫ヲ出張セシメ獸体又ハ實地ヲ検査シ差支ナキモノハ認許スヘシ

第八條 規則第二十一條ニヨリ搾取ヲ停止シ又ハ販賣ヲ禁止シタルトキハ其都度警察部へ報告スヘシ

第九條 牛籍名簿ハ時々檢閲シ私ニ挿入删除スルヲ得サラシムル爲メ一頭毎ニ適宜ノ欄ニ認印シ置クヘシ

屠畜並屠肉販賣取締規則

○縣令第三十六號 明治二十五年五月二十三日

屠畜並屠肉販賣取締規則

- 第一條 畜屠場ハ食料ニ供スル牛馬羊豕ヲ屠殺スル所トス
- 第二條 畜殺セントスルトキハ税金受領證ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受クヘシ
- 第三條 屠殺並ニ屠肉販賣營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ警察分署へ願出許可ヲ受クヘシ
- 第四條 屠畜場ハ國縣里道皇陵學校病院人家並飲用水(河川)アル箇所ヨリ直徑六十間以上ノ距離アル場所ニアラサレハ之ヲ許サス
- 第五條 屠畜場ヲ新設セントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ(借地ナレハ地主連署)町村長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
但土地ノ狀況ニヨリ其數ヲ制限スルコトアルヘシ
- 一 構造仕様書及圖面
- 二 地名及番地
- 三 四方三十間以内地主ノ承諾書
- 第六條 屠畜場ヲ改造セントスル時ハ第五條第一項ノ書類ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第七條 屠畜場新設又ハ改造落成シタル時ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受クヘシ
- 第八條 屠畜場ニハ雛形ニ從ヒ記號ヲ記シタル看板ヲ掲ケ屠肉ヲ行商セントスルモノハ所轄警察署又

明治廿八年五月
月縣令第三十五
號ヲ以テ第五
條但書追加

ハ警察分署ニ願出鑑札ヲ受ケ行商ノ際携帯スヘシ

- 第九條 屠畜場ノ構造ハ左ノ事項ニ遵フヘシ
 - 一 敷地ノ周圍ニハ柵若クハ板圍等ヲ設クルコト
 - 二 屠畜場ノ周圍ハ板若クハ壁ニテ圍ヒ地面ハ石煉火石若クハ漆喰又ハ板敷トナシ一間ニ付三寸ノ勾配ヲ付ケ血液汚水ノ流通ヲ便ナラシムルコト
 - 三 検査員ノ控所ヲ設ルコト
- 第十條 屠畜場ニ於テハ左ノ事項ヲ禁ス
 - 一 検査未済ノ牛馬羊豕ヲ屠殺スルコト
 - 二 検査員ナキ屠肉ヲ販賣シ又ハ場外ニ搬出スルコト
 - 三 斃獸ノ解剖ヲナスコト
- 第十一條 屠牛場ハ常ニ掃除シ汚物血液等ハ速ニ取除キ清潔ニスヘシ
- 第十二條 食料ノ爲メ牛馬羊豕ノ肉ハ必ス本則ニ依リ屠殺シタルモノニ限ルヘシ
- 第十三條 腐敗シタル肉ヲ販賣スヘカラス
- 第十四條 他獸ノ肉ヲ混合シ或ハ獸名ヲ詐稱シテ販賣スヘカラス
- 第十五條 食料ニ適セサル屠肉ハ細截シ石灰水又ハ石灰ヲ撒布スヘシ
- 第十六條 屠畜營業者ハ屠殺頭數簿ヲ設ケ置キ屠殺ノ年月日牛馬羊豕ノ牝牡年齡及賣讓主(自用者等ノ依
賴ヲ受ケ屠殺
スル非ハ
其依頼者)ノ住所氏等ヲ無洩記載シ検査員ノ檢閲ヲ受クヘシ
- 第十七條 屠畜營業者ト否トニ拘ハラズ屠場外ニ於テ牛馬羊豕ヲ屠殺スヘカラス
- 第十八條 牛馬羊豕ノ肉ヲ管外ヨリ輸入シタルトキハ販賣前其肉ノ種類數量屠殺場ノ地名等ヲ詳記シ

屠畜並屠肉販賣取締規則

